



実践のあゆみ 第10号

平成18年度研究紀要

千葉県立養護学校流山高等学園

ま え が き

校 長 比留間 信夫

障害の種類等に応じて特別の場で特別の指導を行う「特殊教育」から、一人一人の教育的ニーズを把握し必要な支援を行う「特別支援教育」への転換が図られています。まもなく迎える本年４月には、学校教育法の一部改正が施行され、特別支援教育の考え方に基づいた教育の取組が本格的に実施されることになります。盲・聾・養護学校においては、制度として障害種別を超えた特別支援学校に一本化されると共に、これまでに蓄積したノウハウを活かして地域の特別支援教育のセンター的機能を果たすよう期待されています。そうした意味からも、今将に『特別支援教育元年』を迎えようとしています。

こうした変革期にある中、本校は、本冊子の研究紀要「実践のあゆみ第１０号」が示すとおり、今年度で創立１０周年という記念すべき大きな節目の年を迎えました。これまで高等部単独の軽度知的障害者の養護学校としての特色を生かし、職業教育を主とした「職業自立・社会自立」を根幹においた教育実践と実践研究によって追究してきました。つまり、専門実習や各教科指導など教育課程の研究ということが出来ます。それは卒業後の豊かな生活に向けた適切で確かな教育が展開できるよう一人一人の違いを大事にして、生徒にとってわかりやすい授業実践を行い、生徒の個性や持ち味を生かし、可能性を引き出したいと考えたからです。

さらに昨年度から、研究主題を『自立への支援』として、生徒一人一人の自立の道を拓くことをめざして、「キャリア発達」に視点をおいた研究に取り組むこととしました。キャリア教育とは、“児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育”といわれます。そして、キャリアが子ども達の発達段階やその発達課題と深く関与することなので段階的、全人的に取り組むことが望まれます。こうした考え方・捉え方は、「職業自立・社会自立」をめざす本校の取組や実践と共通する面があります。働くことへの意識化と行動化、社会人・職業人としての資質・能力の育成、自立に対する理解と対応など関連することであると考えます。本年度は、教科指導とキャリア発達の能力との関連について検討・分析したものをここにまとめました。どうぞ御高覧いただき、忌憚のない御意見・御指導いただければ幸いです。

最後になりましたが、本校の研究推進のために御多用の中、通年講師として御指導・御助言いただきました東京福祉大学教授 松為信雄先生、公開研究会の記念講演をいただいた元関東医療少年院長 杉本研士様、シンポジストとしてお世話になった千葉県発達障害者支援センター長 與那嶺泰雄様、社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会知的障害者通所厚生施設・デイサービスセンター「でい・さくさべ」生活支援ワーカー 佐藤滋洋様、株式会社トッパン建装プロダクツ常務取締役工場長 藤江幸男様、に心から感謝とお礼を申し上げます。

平成18年度 研究紀要 第10号 目次

1	テーマ	2
(1)	主題・副題	2
(2)	主題設定の理由	2
2	目的	2
3	内容与方法	3
(1)	内容与方法	3
(2)	研究組織	4
(3)	日程計画	5
4	研究結果	6
(1)	教科指導との関連付け	6
(2)	キャリア能力発達段階表（教科指導）の作成	15
(3)	授業実践	17
(4)	アンケート結果	24
5	考察	28
(1)	「4(1) 教科指導との関連付け」の課題	28
(2)	「4(2) キャリア発達段階表（教科指導）の作成」の課題	29
(3)	「4(3) 授業実践」の課題	29
(4)	「4(4) アンケート結果」からの課題	30
6	今後の取り組み	31
(1)	実践による検討	31
(2)	「キャリア発達段階表」の活用	31
(3)	指導者の資質の向上	31
7	付帯資料	32 ~ 78

1 テーマ

(1) 主題・副題

自立への支援

～「キャリア発達」の視点を踏まえて～

(2) 主題設定の理由

近年、国際的なノーマライゼーション社会の実現を目指した動きの中で、障害者に関わる法や制度が大きく進展してきている。また、そのような社会の動きに伴い、障害のある児童生徒の教育についても、特殊教育から特別支援教育へと教育のあり方、学校の役割が大きく変わり始めている。

本校では、これまで教育目標を具現化するための教育課程作りを研究課題として取り組んできた。一昨年には「総合的な学習の時間」のあり方についても取り組み、これによって本校の教育課程のすべてについて実践的に研究することができた。

しかし、目指す「自立の姿」が、社会の動きの中で常に捉え直しをする必要がある現在では、今ある教育課程を生かして、一人一人に応じた「自立への支援」を整えていくことが必要である。

就労に関する今日的な課題と学校教育のつながりについて、文部科学省は「キャリア教育」の推進を図ることを求めている。職業教育と就労支援を柱とする本校では、望ましい勤労観・職業観を養うことを主眼とするこの「キャリア教育」の考えを踏まえ、実践的な研究によって生徒一人一人のニーズに応じた「自立の姿」への支援を考えていきたい。職業自立及び社会自立を目指す上では、生徒一人一人のキャリアがどのように発達していくのかを見極めながら、その支援方法を考えなければならない。

そこで、生徒一人一人の自立への支援について、「キャリア発達」という視点を踏まえて実践を深めることを目指して研究主題を設定した。

2 目的

これからの職業教育のあり方を探るために、「キャリア発達」の視点を踏まえて、指導計画・実践等の見直しを進め、指導者の資質の向上を図る。

3 内容と方法

(1) 内容と方法

教科別の指導に焦点を当て、キャリア発達の視点を踏まえて、指導・支援内容及び方法の検討をする。

ア 「キャリア発達」の能力との関連付け

本校の教科別の指導は、「指導・支援内容」として整理した内容に基づいて指導を行っている。この「指導・支援内容」について、キャリア発達のために必要な4つの能力を育成する観点から関連付けを行う。

関連付けの作業は、普通教科は各教科部会、専門教科はコース会議・学科会議で進める。

イ 授業実践の方法

事例生徒を取り上げ、キャリア発達の視点を踏まえた授業実践のあり方を検討する。

事例生徒は、各学年1名とし、事例生徒が所属するコースの専門教科と各学年1教科を焦点教科として実践研究を行う。(表3 - 1)

表3 - 1 事例生徒・焦点教科

学年	事例生徒性別	焦点教科(専門)	焦点教科(普通)
1年	男子	園芸コース(園芸)	理科
2年	女子	手芸コース(家政)	職業
3年	男子	窯業コース(工業)	家庭科

授業実践の検討は、校内研究会(2回)で授業展開、協議会を通して行う。協議会は、学年部会で行う。

校内研究会は、1回目は普通教科、2回目は専門教科の授業研究を行う。

ウ 研修会

キャリア発達について理解を深めるために、講師を招いて研修会を開催する。

(2) 研究組織

ア 学年部会

授業実践研究のため、事例生徒を選出し、指導計画（付帯資料 3 - 1 ）を作成する。

校内研究会では、授業研究の協議を行い、キャリア発達の視点を踏まえた授業実践のあり方を検討する。

イ 教科部会（普通教科）

指導・支援内容とキャリア発達の能力との関連付けの作業を進める。

事例研究のため、焦点教科を選出する。

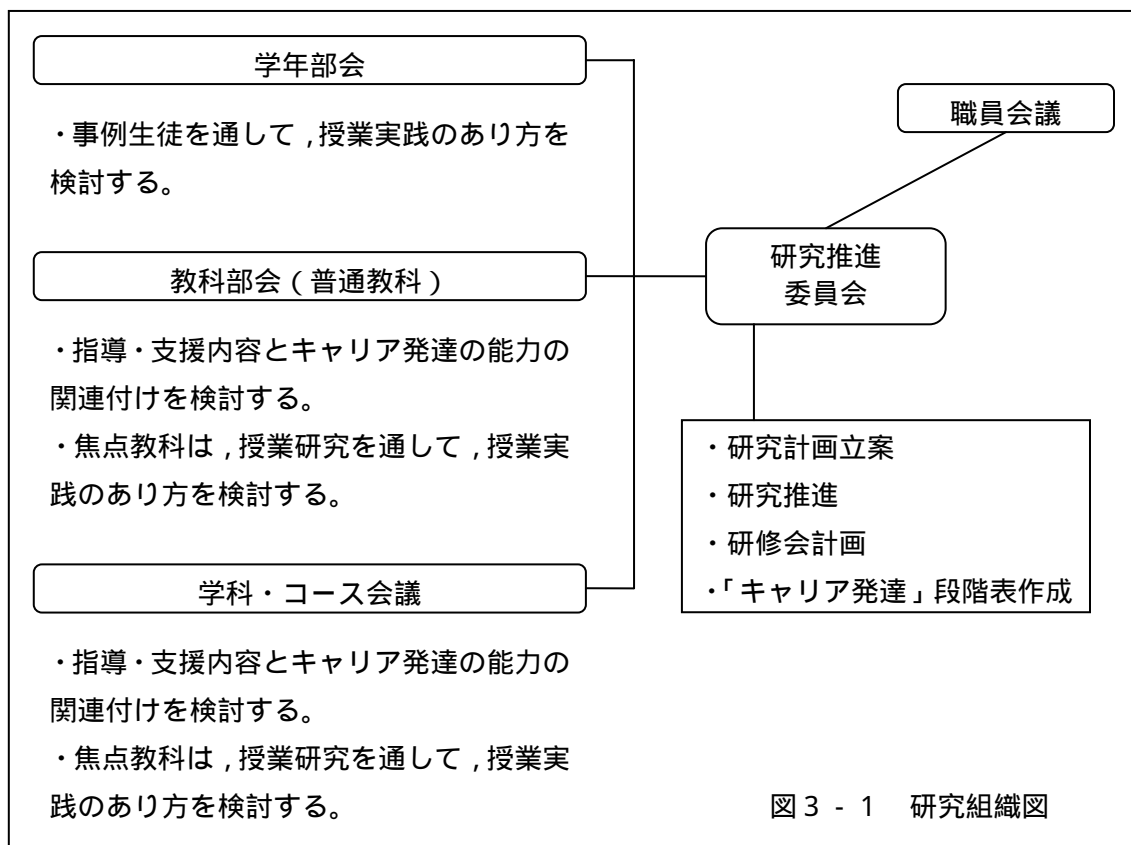
焦点教科は、事例生徒の指導計画を作成し、校内研究会で授業展開、提案をする。

ウ 学科・コース会議

指導・支援内容とキャリア発達の能力との関連付けの作業を進める。

事例研究のため、焦点教科を選出する。

焦点教科は、事例生徒の指導計画を作成し、校内研究会で授業展開、提案をする。



(3) 日程計画

	学年会	教科部会 (普通教科)	学科・コース (専門教科)	研究推進係
4 月	4 / 2 7 主題研修会			
5 月	・事例生徒選定， 指導計画作成	・指導・支援内容 とキャリア発達 との関連付け ・焦点教科選定 ・事例生徒指導計 画作成	・指導・支援内容 とキャリア発達 との関連付け ・焦点コース選定 ・事例生徒指導計 画作成	・教科の関連付け 確認 ・校内研究会，公 開研究会準備
6 月				
7 月				
8 月				
9 月	9 / 5 主題研修会			
	9 / 1 1 第 1 回校内研究会			
		・指導・支援内容 とキャリア発達 との関連付け (2 回目) ・公開研究会準備	・指導・支援内容 とキャリア発達 との関連付け (2 回目) ・公開研究会準備	
10 月				
11 月	1 1 / 7 公開研究会			
12 月	1 2 / 1 1 第 2 回校内研究会			
	・研究のまとめ			・意識調査 ・研究のまとめ ・研究紀要作成
1 月				・次年度研究計画 作成
2 月				
3 月				
	3 / 2 2 研修会			

4 研究結果

(1) 教科指導との関連付け

「キャリア発達」の視点を踏まえて、実践を整理するために「キャリア発達」に必要な4つの能力に着目をして、教科指導との関連付けを行った。

方法は2つである。一つは、4つの能力は「実際に活用することによって高まる力である」という捉えによる関連付けである。二つは指導・支援内容との関連付けである。

ア 学習活動との関連付け

(ア) 活用能力としての捉え

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 ～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」(平成16年1月)に示されている「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」では、「職業的(進路)発達に関わる諸能力」として、4つの能力領域を取り上げている。

(表4-1 詳細は付帯資料4-1参照)

表4-1

諸能力	領域の説明
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、将来の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。
意志決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同して物事に取り組む。

本校では、これらの能力の技能的側面に焦点を当て、これまでの指導計画との関連を検討した。

その結果、これらの能力は「活用能力」であり、学習活動と関連付けを図ることができるのではないかと考えた。

「活用能力」とは、繰り返し実際に活用することで身に付き、高まる力である。キャリア発達の4つの能力は、その力を「使う」ことを「知っている」だけでなく、実際に使うことを通して、「体得」し「磨き、高められる」力である。そこで、教科指導での学習活動をキャリア発達の能力を活用する機会として指導計画を整えることができないかと考え、関連付けの取り組みを行った。

(イ) 題材との関連付け(年間指導計画を利用して)

普通教科では、学年別に年間指導計画を作成している。

この指導計画の「題材」に着目し、キャリア発達の能力との関連付けを行った。その題材の中で育てられる能力を明確にし、具体的にどのようなことができれば、力が育ったのかを考えてマトリックスに表記した(表4-2は職業科2年生の例)。

現在、このように年間計画の題材との関連付けができているのは、職業科・

家庭科・理科・英語科の４教科のみである。今後全教科について整理するとともに、実践的な検討を進める予定である。（付帯資料４－２参照）

表４－２ 年間指導計画との関連付けの例（職業科・２年）

	題材名	キャリア発達の能力との関連			
		人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
４月	（１回目） 職業適性検査		職業適性を調べる方法（検査）があることが分かる。	検査を通して、これから身につけるべき力に気付く。	
５月	（２回目） 職場実習の進み方		職場実習の手続きや実習中の生活、評価について分かる。	職場実習に向けて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。	職場実習の大切さを理解し、積極的に取り組もうとする。
	（３回目） 職場で注意を受けたら	相手（上司）と自分の立場を理解し、相手の意志を的確に理解する。			自分を生かし役割を果たす上での様々な課題と解決策について検討する。
６月	（４回目） 業種と職種		業種と職種の違いがわかる。		次回の職場実習先の選択場面に生かす。
９月	（５回目） 安全な作業 労働災害とその原因		労働災害の資料をもとにして、その原因を考える。	普段の専門実習や次回の職場実習を想像し、安全な作業への関心・意欲を持つ	
	（６回目） 安全な作業 危険を予知して災害防止			普段の専門実習や次回の職場実習を想像し、安全な作業への関心・意欲を持つ。	作業場面での危険性を予知し、対策を考える。
	（７回目）安全な作業 危険を予知したときの声の掛け方	他者に配慮しながら、災害防止のための適切なコミュニケーションを習得する。		普段の専門実習や次回の職場実習を想像し、安全な作業への関心・意欲を高める。	課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。
	（８回目） 安全な作業 荷物の持ち方・運び方と安全標識		安全な荷物の運搬には、注意点があることがわかる。一般的な安全標識の意味がわかる。		場面に応じた適切な荷物の運搬方法を選択できる。
１０月	（９回目） 会社が求める人材 職場実習を振り返って		それぞれの職業に求められる能力・適性があることがわかる。		
１１月	（１０回目） 会社が求める人材 会社のアンケートから	自己の能力・適性を理解し、それを受け入れ伸ばそうとする。	それぞれの職業に求められる能力・適性があることがわかる。	自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。	進路希望を実現する為の課題に気づき、その解決に取り組む。
	（１１回目） 労働時間と賃金		職業生活における権利・義務や責任についてわかる。		

(ウ) 学習活動との関連付け(指導案を利用して)

1時間の授業の中で行われる学習活動について、キャリア発達との関連を考えた。

キャリア発達の能力を「活用能力」として捉えるなら、実際に使う場面を計画する必要がある。そこで、授業で取り込まれる学習活動に着目し、その学習活動がキャリア発達の能力を活用する機会として利用できないかと考えた。つまり、本来は教科のねらいを達成するために用意された学習活動であるが、同時に「キャリア発達の能力を活用する機会」としても整理できないかということである。

そこで、今年度の公開研究会を機会に、1時間の中の学習活動一つ一つについて、キャリア発達との関連を検討し、学習指導案の「展開」の中に明記するようにした(図4-1)。

(2) 展開		
時配	学習活動	活動への支援
5	1 前時の学習を振り返る	・前時の学習で学んだことを確認する。
3 5	2 本時の学習内容を知る。	
	商品流通について学習しよう。	
	3 「流通」の言葉から想像されることを発表しよう。 設計能力 意志決定	・どんなことでも良いので、一人1回は発言するように支援する。
	4 「流通」の言葉の意味を確認する。	・プリントを配り板書した言葉を書き写し「流通」の意味を再確認できるように支援する。
	5 「商品(シャープペンシル)」はどのようにして自分のところに届くのか考えをプリントに記入する。	・プリントの流通経路図を参考にして、各自で作業に取り組めるように支援する。また、分からない生徒には具体的に示す。
5	6 考えプリントに記入したことを発表する。 情報活用 人間関係	・それぞれの意見を板書し、どのような流通ルートがあるのか考えをまとめられるようにする。
	7 小売商、消費者、商品、おろし売商などの言葉を理解する。	・それぞれの言葉の意味をプリントで確認する。また、言葉を覚えるように支援する。
	8 本時のまとめをする。	・流通に関する言葉を再確認する。 ・流通に関して大まかな仕組みが理解できたか確認する。
3 「キャリア発達」との関連 (1) キャリア設計能力 設計能力 流通に関心を持ち、実際の生活と関連づけられる。 (2) キャリア情報探索・活用能力 情報活用 調べたこと等を自分の考えを交えて発表できる。 (3) 意志決定能力 意志決定 学習課題を理解し、進んで取り組む。 (4) 人間関係形成能力 人間関係 友達の意見を聞きとる。自分の意見との違いに気づく。		

図4-1 指導案「展開」(職業)

イ 指導内容との関連付け

(ア) 教科の指導・支援内容について

本校の教科別の指導は、普通教科と専門教科に分けられる。普通教科は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業、家庭、情報、外国語（英語）の 11 教科である。音楽、保健体育は学年単位（45 名）で指導し、それ以外の教科は学級単位（9 名）で指導をしている。

専門教科は「農業」「工業」「家政」で、「園芸」は園芸技術科、「工業」は工業技術科、「家政」は生活技術科の生徒をそれぞれ対象とし、コース制による指導を行っている。なお、学習は実習を中心としている。

教科別の指導は、「指導・支援内容一覧」に基づいた指導・支援を行っている。この「指導・支援内容一覧」は、「特殊教育諸学校高等部学習指導要領解説 - 養護学校（精神薄弱教育）編 -」（平成四年 文部省）の巻末「資料 各教科の具体的内容」を基にして、本校の実態に合わせ整理したものである。外国語（英語）・情報・専門教科は本校で作成した。

専門教科では、指導・支援内容を全コースが共通して取り組む「共通」項目と、コースの作業種に沿った作業種別の項目に分けられる。

指導・支援内容の構成は表 4 - 3 の通りである。

表 4 - 3 専門教科 指導・支援内容の項目と主な内容

分類	項目	主な内容
共通	働くことの意義	働くことの意義、みだしなみ、注意・指示の理解、約束・きまり、意欲
	道具や機械	材料名・道具名の理解、安全、道具の手入れ、材料・道具の準備、材料の扱い、後片づけ
	作業工程	工程理解、丁寧さ、確実性、持続性、スピード、効率
	役割・協力	役割、確認、協力
	製品・収穫物の取り扱い	製品・収穫物の取り扱い、製品・収穫物の良否
	販売・流通	接客、袋詰め等、製品名・収穫物名、値段、販売活動計画
専門 知識 技能	農業実習	各実習内容について項目を設定。
	園芸実習	
	窯業実習	
	木工実習	
	成型実習	
	縫製実習	
	手芸実習	

(イ) 普通教科の指導・支援内容との関連付け

○関連付けの方法

- ・ 教科部会が主体となって関連付けを行った。
- ・ 初期段階は、指導・支援内容のうち、キャリア発達の能力と関連があると考えられる項目を選択した。
- ・ 研究の取り組みによって、職員の理解の深まりが見られるようになってから、すべての項目について関連付けを行った。
- ・ 内容的に関連を考えることを中心にしたが、関連が薄いと思われる項目についても、いずれかの能力と結びつけるようにした。
- ・ 関連付けた結果は、「関連付け表」とした。(付帯資料4 - 3 参照)

○関連付け表の見方 (例として表4 - 4に国語の関連付けの一部を掲載)

- ・ 「段階」は、旧指導要領「資料 各教科の具体的内容」のうち、
の段階を取り上げたものである。内容は本校の実態に合わせ整理がされている。
- ・ 「キャリア」の「設・情・意・人」は、それぞれ「将来設計能力」「情報活用能力」「意志決定能力」「人間関係形成能力」を表す。
- ・ キャリア発達の能力と関連がある項目には「○」で表記をした。

表 4 - 4 指導・支援内容とキャリア発達の能力との関連付け表(国語ノ一部)

領域	指導・支援内容	キャリア				指導・支援内容	キャリア				指導・支援内容	キャリア			
	段階()	設	情	意	人	段階()	設	情	意	人	段階()	設	情	意	人
聞く・話す	教師などの説明や友達の話などを聞いて、内容が分かる。				○	教師などの説明や友達の話などを聞いて要点をつかむ。				○	教師などの説明や友だちの話などを聞いて大切な所をメモする。				○
	物語、劇、映画、テレビなどを見たり聞いたりして楽しみ、簡単な感想を話す。		○			物語、劇、放送などを見たり聞いたりして楽しみ、感想を話す。		○			物語や小説などを読んだり、テレビや映画などを見たりして楽しみ、感想を話したり、書いたりする。		○		
	簡単な放送や録音などの内容の要点が分かる。		○			放送や録音の内容が分かる。		○			テレビ、ラジオなどを聞き、必要な情報を得る。		○		
	指示や説明を聞く。		○			必要な場合はメモをとり、指示や説明を正しく聞き取る。		○			話し手の意図や気持ちを考えながら、内容や指示説明を適切に聞き取る。		○		
	事柄の順序をたどって、経験したことを話す。			○		経験したことを相手に分かるように、できるだけ要点を落とさずに話す。			○		経験したことを、擬声語や擬態語も交えて的確な表現で話す。			○	
	人に尋ねられたときは、はっきり応答する。				○	場に応じた適切なあいさつや応答をする。				○	相手やその場にふさわしい挨拶や応答をする。				○
	学級会、生徒会などで、自分の意見をみんなにわかるように話す。			○		学級会・徒会等で、人の意見を聞き取り自分の意見を話す。			○		学級会や生徒会等で、人の意見に関連させて自分の意見をはっきりと述べる。			○	
	要件を落とさずに話をする。		○			要件を落とさずに要領よく話をする。		○			要件を筋道をたて正確に話す。		○		
	必要なときにはいい言葉を使ったり、共通語で話したりする。				○	敬語を適切に使う。				○	相手に応じて、敬語や言葉遣いを使い分ける。 尊敬語、謙譲語などを適切に使って話す。				○
	校内電話や公衆電話の応答になれる。				○	電話で応答し、必要に応じて伝言を受ける。				○	電話の取り次ぎや適切な応答をする。				○

(ウ) 専門教科の指導・支援内容との関連付け

○関連付けの方法

- ・ 専門教科の指導・支援の内容は、「共通」と作業種別（コース別）に分けてある。「共通」は、どの作業種（コース）であっても同様に指導・支援する内容であり、各コースの作業内容・学習内容に即した指導・支援内容が作業種別（コース別）の各項目である。
- ・ コース会議・学科会議によって「共通」と作業種別の両方について関連付けを行った。
- ・ 専門教科は、職業教育に直接関わる教科内容であることから、初期段階から、全項目について関連付けを行った。
- ・ 関連付けた結果は、「関連付け表」とした。（付帯資料 4 - 4 参照）

○関連付け表の見方

- ・ 普通教科と同様であるが、キャリア発達との関連は「キャリア発達との関連」の項目を立て、段階の系列を一括にして関連付けを明記した。

（表 4 - 5）

表 4 - 5 指導・支援内容とキャリア発達の能力との関連付け表（専門教科 / 「共通」の一部）

			キャリア発達との 関連
	働くことの意義		
共通	（働くことの意義）		
	1 周囲の人々が働いていることに 関心を持ち、仕事に参加する。	1 周囲の人々が働きながら生活し ていることを知り、働くことの喜 びを知り、進んで仕事に参加する。	情報活用能力 将来設計能力
	（あいさつ・返事・報告）		
	2 いつでも誰にでもあいさつす る。	2 笑顔で、相手よりも先にあいさ つする。	人間関係形成能力
	3 大きな声ではっきりと返事をす る。	3 担当の仕事が終わった時に報告 と次の仕事の確認がで ける。	
	4 あやまりを素直に認め「ごめん なさい」と謝れる。		
	5 担当の仕事が終わった時に「終 わりました」と報告できる。		
	（みだしなみ）		
	6 清潔な服装を心がけている。	4 いつも清潔できちんとしてい る。	人間関係形成能力 意志決定能力
		3 仕事に適した服装（安全面等を 考慮して）を考えられる。	

ウ 関連付けの成果

(ア) 意識調査の方法

関連付けの成果を調べるため、アンケート形式による意識調査を行った。

- 調査対象 本校教員（全43名）
○調査期間 平成19年1月10日（水）～1月15日（月）
○調査内容

	質 問 内 容
1	普通教科について、指導・支援内容と「キャリア発達」との関連付けをしていただきましたが、その取り組みは難しかったですか。 1 難しかった 2 やや難しかった 3 さほど難しくはなかった 4 難しくはなかった
2	質問１で「１」または「２」と答えた先生のみお答え下さい。 「難しい」と感じたのはなぜですか。次から選んで下さい。（複数可） 1 キャリア発達の能力と直接関係しない内容が多いから。 2 キャリア発達の能力についてのイメージが明確に持ていないから。 3 重複する項目が多く、どれを選んだらよいか迷うことが多かったから。 4 実際の指導場面を意識した時、キャリア発達の能力を養う工夫が思い浮かばなかったから。
3	専門教科について、指導・支援内容と「キャリア発達」との関連付けをしていただきましたが、その取り組みは難しかったですか。 1 難しかった 2 やや難しかった 3 さほど難しくはなかった 4 難しくはなかった
4	質問３で「１」または「２」と答えた先生のみお答え下さい。 「難しい」と感じたのはなぜですか。次から選んで下さい。（複数可） 1 キャリア発達の能力と直接関係しない内容が多いから。 2 キャリア発達の能力についてのイメージが明確に持ていないから。 3 重複する項目が多く、どれを選んだらよいか迷うことが多かったから。 4 実際の指導場面を意識した時、キャリア発達の能力を養う工夫が思い浮かばなかったから。

(イ) 結果

○回収数 18 (回収率41%)

○結果

関連付けの難しさ

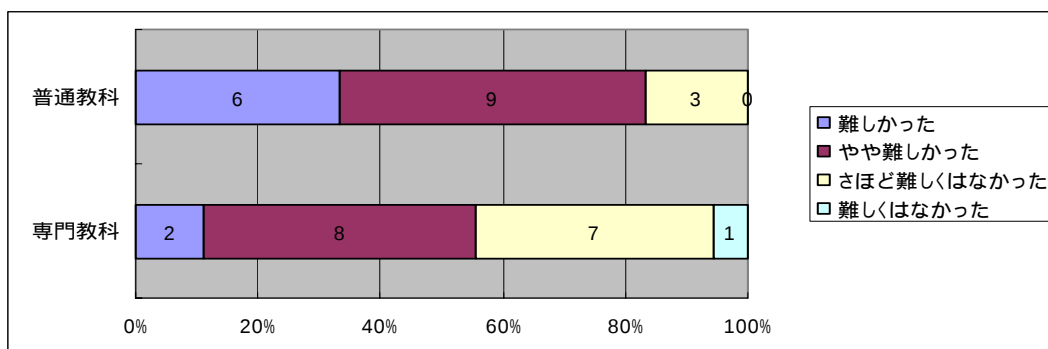


図4 - 2 関連付けの難しさ

難しさの理由 (図4 - 3)

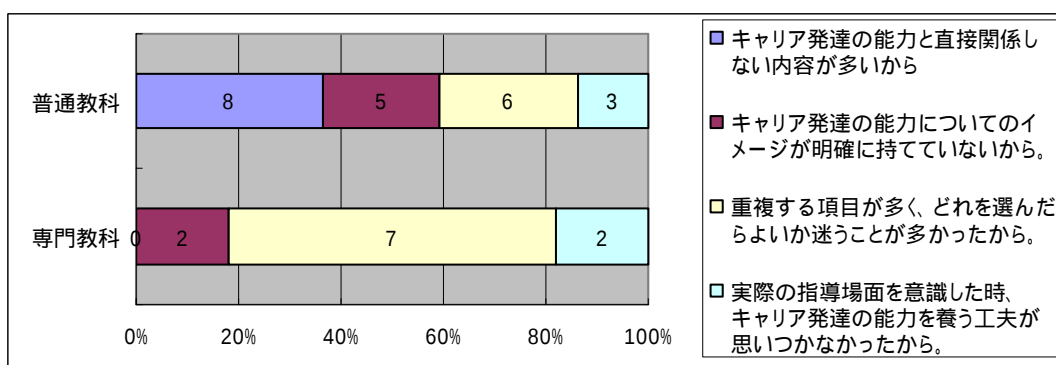


図4 - 3 難しさの理由

(ウ) 考察

- ・ 普通教科では特に関連付けは難しかったという意見が多かった。
- ・ 普通教科の関連付けが難しかった理由として多い「キャリア発達の能力と直接関係しない内容が多いから」は、例えば次のような内容である。

国語	小説やエッセイなど好きな読み物を読んで楽しむ。
数学	正方形・長方形・正三角形・直角三角形・円・辺・頂点・直角などが分かり、それらの言葉を正しく使う。
美術	下描きの線を生かし、水彩絵の具で彩色ができる。
英語	社会生活のさまざまな場面にふさわしい表現で、簡単な会話をする。

- ・ 専門教科の作業種別の指導・支援内容は、専門的スキル項目として設けられているため、キャリア発達の能力との関連付けができなかった。
- ・ 専門教科で関連付けを進めた「共通」項目では、一つの指導・支援内容項目に対して、複数のキャリア発達の能力を関連付けた結果となった。

専門教科「共通」項目の関連付けは、園芸技術科、工業技術科、生活技術科の3つの学科会議で進めたところ、学科による違いが出てきた。「共通」であっても、コースによって異なる作業内容・活動方法の差が関連付けの違いに表れたと考え、あえて全校として絞り込みは行わなかった。

違いの状況は表4-6の通りである。詳細は付帯資料4-6参照。

表4-6 専門教科「共通」項目 関連付けの違いの状況

項目	主な内容	項目数			
働くことの意義	働くことの意義、みだしなみ、注意・指示の理解、約束・きまり、意欲	5	1	3	1
道具や機械	材料名・道具名の理解、安全、道具の手入れ、材料・道具の準備、材料の扱い、後片づけ	7	6	1	
作業工程	工程理解、丁寧さ、確実性、持続性、スピード、効率	5	4	2	
役割・協力	役割、確認、協力	3	1	2	
製品・収穫物の取り扱い	製品・収穫物の取り扱い、製品・収穫物の良否	2		1	1
販売・流通	接客、袋詰め等、製品名・収穫物名、値段、販売活動計画	5	4	1	

は、3学科とも同じ能力を関連付けた項目数

は、3学科の内1学科が異なる能力を関連付けた項目数

は、3学科で異なる能力を関連付けた項目数

(2) キャリア能力発達段階表 (教科指導) の作成

「キャリア発達」に必要な4つの能力に着目してまとめた教科指導とキャリア発達能力との「関連付け表」を、さらに使いやすいものに組み替え、より「キャリア発達」の視点を持った指導・支援の計画・実践ができるように、「キャリア能力発達段階表」を作成した。

ア 「関連付け表」から「キャリア能力発達段階表」へ

(ア) 書き替えの手続き

「キャリア発達」の視点を踏まえて実践を整理し、関連付け作業を進めてきたことで「関連付け表」を仕上げていくことができた。今後、実際の活動にどのように活かし、どう組み込んでいくのかを考えたとき、「関連付け表」を役立て、実際に利用できるものにしたいという願いから、「キャリア能力発達段階表」への組み替え作業を行った。

組み替えの手続きは次の通りである。「関連付け表」では、各段階とその段階での指導・支援内容を縦軸に置き、各段階と指導・支援内容についての関係が分かりやすくなっている。しかし、各段階における指導・支援内容とキャリア発達の諸能力との関係が分かりにくい。そこで、まず領域ごとに一つの表を作って内容を整理した。次に「キャリア発達」に必要な4つの能力を縦軸にし、各段階を横軸にして指導・支援内容を記入していった。(図4 - 4 参照) このことにより、「キャリア発達」に必要な4つの能力と各段階における指導・支援内容の関係が領域ごとに整理され、指導・支援内容と「キャリア発達」の関係がより分かりやすくなった。

領域	指導・支援内容	キャリア	指導・支援内容	キャリア
キャリア	キャリア	キャリア	キャリア	キャリア
キャリア	キャリア	キャリア	キャリア	キャリア
キャリア	キャリア	キャリア	キャリア	キャリア
キャリア	キャリア	キャリア	キャリア	キャリア

キャリア	キャリア	キャリア	キャリア
キャリア	キャリア	キャリア	キャリア
キャリア	キャリア	キャリア	キャリア
キャリア	キャリア	キャリア	キャリア
キャリア	キャリア	キャリア	キャリア

図4 - 4

(イ) 専門教科の発達段階表

「専門教科」の関連付け表を組み替えて、キャリア能力の発達段階表として作成した。今回段階表としてまとめたのは、学習活動との関連付けで「キャリア発達」との関係が密であることが分かった、「共通」の指導・支援内容として整理してある職業自立の基礎的な資質を養う内容についてである。

(付帯資料 4 - 6)

(ウ) 普通教科の発達段階表

「普通教科」の関連付け表を組み替えて、現段階で国語、社会、数学、理科、職業、家庭についての発達段階表をまとめた。(付帯資料 4 - 7)

(エ) 書き替えのポイント

「キャリア能力発達段階表」の目的は、この表を活用することで「キャリア発達」の視点を持った指導・支援の計画を立て、実践に役立てることである。そのための工夫として、「キャリア能力発達段階表」への組み替えで新たに手を加えた部分がある。今回作成した発達段階表には、それぞれの項目についてチェック欄を設けた。(図 4 - 5 参照) 指導・支援内容を記した文章の前に四角の枠を付けることで、活用の幅を広げていこうと考えたからである。具体的な活用方法としては、生徒の様子や教師の願い、生徒の目標などをチェックすることで指導・支援の計画や実践に役立てていくことを想定した。生徒の様子をチェックしていくという活用方法では、生徒の実態を知り、キャリア発達の現段階が明らかになるのではないかと考えた。また、教師の願いや生徒の目標などをチェックするという利用方法では、今後の指導・支援の計画に役立てることができるのではないかと考えた。

① 書く・基す			
キャリア発達段階表	キャリア発達段階表	キャリア発達段階表	キャリア発達段階表
☐ 国語、算数、理科、社会、英語、音楽、体育などを見ながら、自分の得意分野、興味のある分野、将来の夢などを考える。 ☐ 簡単な読解や計算などの内容の要点が、自分の得意分野、興味のある分野、将来の夢などにどう関係しているかを考える。 ☐ 教科書の構成や単元などの内容を整理する。	☐ 教科書の構成や単元などの内容を整理する。 ☐ 教科書の構成や単元などの内容を整理する。	☐ 教科書の構成や単元などの内容を整理する。 ☐ 教科書の構成や単元などの内容を整理する。	☐ 教科書の構成や単元などの内容を整理する。 ☐ 教科書の構成や単元などの内容を整理する。

図 4 - 5

「専門教科」と「普通教科」を発達段階表に表すことで、本校の教科の指導・支援内容を網羅した「キャリア能力発達段階表」ができた。このことにより、今後それぞれの教科での発達段階を知るだけでなく、生徒一人ひとりの様子を立体的に捉えて指導・支援内容を組み立てていくことができると考えている。

(3) 授業実践

授業実践を深めるために、指導案の項立てを変えたり、事例研究を行ったりした。また、学習内容に「キャリア発達」の視点を盛り込むだけではなく、キャリア発達の4つの能力を意識して、単元の組み方、授業の展開の仕方などにも工夫をして授業を展開することができた。

ア 学習指導案の変容

(ア) 題材設定の理由での工夫

授業に「キャリア発達」の視点を反映するために、平成17年度より学習指導案の題材設定の理由に「キャリア発達の視点」の項目を設け、4つの能力に分けて記入するようにした。

平成17年度 第3回校内研究会

1年E組 職業科 学習指導案

1. 題材名 言葉のマナー ～あたたかい言葉かけ～

2. 題材設定の理由

職場実習先や就職先の方から、よく指導いただくことは「仕事はこれから覚えてもらえばよいが、職場のみんなとうまくやってもらわないと困る。」と、いうことである。
出勤時の挨拶に始まり・・・・・・・・・・・・・・・・

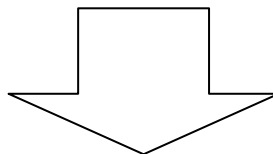
○キャリア発達の視点

「意志決定能力」・・・その場の状況に応じてより良い言葉遣いを考え、行動する。

「人間関係形成能力」・・・相手の気持ちや立場に配慮しながら積極的に好ましい人間関係を築こうとする。

「情報活用能力」・・・話しかけて良いときなのかなど相手の状況を理解する。

・キャリア発達の視点を能力別に記入するが、すべての領域での記載はない。
「将来設計能力」の視点が抜けている。



園芸技術科園芸コース 学習指導案

1. 題材名 「春先草花の栽培」～卒業式にマリーゴールドの花を飾ろう～

2. 題材設定の理由

(1) 単元設定の理由

園芸コースでは、年間を通して季節の草花の栽培、しいたけの栽培及びそれらの加工・販売・納品の作業を主な活動として・・・・・・・・

(2) キャリア発達との関連

○キャリア将来設計能力

栽培の一連の活動を見通し、進めていく作業の意味とその重要性が分かり一つひとつを積極的に取り組むことができる。

○キャリア情報活用/探索能力

その日の作業に必要な道具を確認・準備し、一連の活動の中で適切に使用して作業をスムーズに進めることができる。

○意志決定能力

自ら正確な作業に心がけ、時間一杯根気よく持続して取り組むことができる。

○人間関係形成能力

仕事の分担を理解して、仲間と協力して効率よく仕事をすることができる。

・キャリア
発達の視
点がより
詳しくな
り、すべて
の能力に
関し記述
するよう
になった。
・
それぞれ
の記載は
「関連表」
から読み
とったも
のになっ
ている。

指導案は、付帯資料4 - 8 参照。

(イ) 展開での工夫

作業自体は普段の専門実習と変わらないが、単元の組み方、展開の仕方を工夫することで「キャリア発達」の諸能力を獲得しやすいような授業ができる。

平成18年度 第2回校内研究会
生活技術科手芸コース 学習指導案

(1) ねらい

- 自分の計画に沿って制作を進める。**設計能力** **情報活用** **意志決定**
- わからないところをはっきりさせて、相談する。**人間関係** **意志決定**
- 自分の取り組みを振り返り、課題の進行を発表する。**人間関係** **意志決定**

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1 あいさつ 予定の確認(コース長)	・事前にコース長と打ち合わせをする
5 5	2 それぞれの計画で制作を進める。 (第1, 2手芸室) 分からないことや困ったことは、相談のルールに従って相談し、問題を解決していく。	・本時の計画が分かっているか確認。 ・分からないこと、困ったことがあったら相談のルールに従って相談することを伝える。 ・生徒の様子を観察し、制作がうまく進まない様子の時は相談を促す。 ・生徒の相談に対し、できるだけ自分で判断し、取り組めるようなアドバイスをしていく。 ・急を要する場合は生徒からのアプローチを待たずに、適切に対応する。
	事例生徒の本時の活動 第2手芸室 ・巾着をお湯につける。 ・染液につける。 ・水ですすぐ。 ・絞りをほどく。 ・水ですすぐ。 ・物干し竿に干す。 以上の工程を自分の判断ですすめる。 時間内に終わった場合には、在庫品作りに取り組む。	事例生徒への支援 ・手順が分からなくなったときは「製作計画」や「絞り染めの手順」を元にすすめるように話す。 ・分からないこと、困ったことがあったら相談のルールに従って相談することを伝える。 ・自信がないときにも相談するように話す。
	3 中間発表の準備をする。	・発表メモを用意しておく。
1 5	4 制作の中間発表をする。(第1手芸室)	・コース長に司会を頼んでおく。 ・お互いを認め合う雰囲気を作る。
2 0	5 片づけ、掃除、日誌記入をする。	・日誌を介して頑張った点を評価する。
	6 あいさつ 次時の予定	

・自分で計画を立てて自分進める展開になっている。(将来設計能力)
・わからないことは自分から相談する展開になっている。(人間関係形成能力)

・相談の仕方はソーシャルスキルを応用しチャートで示している。(人間関係形成能力)

・計画的に進める習慣をつけるために「制作計画」を事前に制作する。(将来設計能力)

・計画表をもとに自分の判断で活動をすすめる展開になっている。(意志決定能力)

・自分で情報を活用して進められるように「絞り染めの手順」などの資料を実習室内に用意している。(情報活用能力)

イ 事例生徒への指導の変容

(ア) 実態把握の仕方

生徒	生活	技術科	縫製	コース	2	年	E	組	M・Y
評価	人間関係	自分の得意なこと苦手なこと等を理解する。						C	<実態> ・自分の興味や関心のある活動に対しては、積極的に活動に取り組むことができる。将来は、「就職をしたい」「サービス業につきたい」という強い希望があるが、働くために必要な力や自己理解への理解が低く、今後自己理解を深め、適切な職業観や適正を知ることが課題である。また、人と関わることがとても好きで、積極的に関わりを求めるが、会話は一方的で、言葉の因果関係や暗黙の了解、その場の雰囲気などを読み取ってのコミュニケーションは難しい。
		適切にコミュニケーションをとる。						C	
	情報活用	必要な情報を探したり、活用したりする。						B	
		適切な職業観があり、働く意欲がある。						C	
	将来設計	自分の役割を理解し、責任を持って取り組む。						B	
		目標の実現に向け、計画的に取り組む。						B	
	意志決定	選択肢を設けて、主体的に選ぶ。						B	
		自ら課題を見つけ、自ら問題を解決する。						C	
指導・支援の方針									
・上記の実態の中で特に人間関係をスムーズにしていけることが職業自立を目指していく上で大切なことと考え、支援を進めていきたい。 ・WISC の結果は、言語性IQ（VIQ）65、動作性IQ（PIQ）69、全検査63で知的水準としては、精神遅滞の水準である。下位検査の結果、類似や絵画配列が他の検査項目より劣っており、前後の話の道筋や、耳で聞いたものを頭の中で理解することは苦手であることがわかった。逆に数唱は他の検査結果よりも高い数値を示しており、単純に耳から入ってくるものへの短期記憶は得意である。この結果から言語理解についてはかなり丁寧に説明をしていかないと本生徒が理解しないので、音声言語ではなく書き記したものの提示が必要である。 ・以前「○○○クリニック」においてPDDと診断されている事から、自閉症における以下にの基本的な手だてを行う。 スケジュールの確認を毎日登校したら行い、一日の見通しをもてるようにする。 活動の説明を前もって表や図、文章で提示し、混乱をしない環境作りに努める。 ・人とコミュニケーションをとるためのスキルが未学習のために起こるトラブルが多いことから、スキルを学ぶ機会を教師の側が意図的につくる必要があるので以下の取り組みでこれを行う。 ソーシャルストーリーやコミック会話によって、場に応じた対応と一緒に考えていく。 トラブルが起こった場合は対応方法を具体的に示す。 失敗してもしからずに自信を持って取り組める活動を用意する。									
指導・支援の計画（教科指導）									
普通教科		職業				専門教科	手芸		
[人間形成能力] ・自分の能力や適正などを理解し、進路について決める。 ・実習の様々な場面での役割を理解し、人と協力する。						手芸では、織りを担当している。昨年より、自分の仕事に責任を持って取り組めるようになってきた。専門実習では技能面に限らず、他者とのコミュニケーション面を伸ばすような支援を心がけている。指導支援のポイントは、 挨拶・返事・報告・相談 担当の仕事が終わったときに「終わりました」と報告ができる。 <支援> 報告の仕方や報告のタイミングを説明する。 誤りを素直に認め、「ごめんなさい」と素直に謝れる。 <支援> 何がいけなかったのかという状況を図や文章などを用いて伝え、ロールプレイを通してどう対処すればよいかを説明する。 役割・協力 仲間と協力して仕事をする。 <支援> ・友達との共同作業をする場面を多く設定する。 ・どのように相手を気遣ったり、サポートすればよいかを見本やロールプレイで示す。			
[情報活用能力] ・いろいろな職場に関心を持ち、知識を深める。 ・労働の時間や内容と報酬が関係することを理解する。 ・給料の使い方がわかる。 ・労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件を知る。 ・健康保険、労働保健、年金などの制度について知る。 ・労働災害や職業病などから身を守る方法を知る。									
[将来設計能力] ・産業現場等における実習に参加し、自己の進路選択に役立てる。									
[意志決定能力] ・働くことの大切さや厳しさを知り、卒業後の生活に自覚を持つ。 ・仕事に関する自分の分担を理解し、効率よく仕事を最後までやり遂げる。									

・「キャリア発達」の4つの領域に分けて実態を把握するようにした。

・就労へ向けた意識や職業感も書き込むようにした。

・実態を受けた指導方針について記載するようにした。

・研究授業で行う教科に絞っての指導方針、支援の計画を記載するようにした。

・「キャリア発達」の視点で実態把握を行ったので、生徒の見方、支援の仕方が変わってきた

・教科を並べて記載していくことで教科間の共通理解、一貫性ができてくる。

(イ) 指導目標と評価

(1) 指導の目標と手だて

指導目標	手だて
自分の力でできそうなことを課題にし、無理のない計画を立てる。	過去の実習日誌で自分の仕事を振り返る。 課題設定シートで、考えを整理しながら課題を決める。 計画表を用意する。 参考となる製作手順表を用意する。
分からないこと、困ったことを整理して相談する。 「本時」	相談シートを用いて、相談したいことを整理する。 自分で考えてから相談することを約束しておく。 (3分間)
作品完成への意欲を失わず、集中して取り組む。 「本時」	好きな仕事(織りやティッシュケース製作)を用意し、並行して取り組めるようにする。
自信を持って発表する。「本時」	発表原稿を用意し、練習をする。

・(1)は総合的な目標なので意欲や自信などの記載もある。

(2) キャリア発達の視点からの指導目標と手だて

	指導目標	手だて
キャリア設計	自分の取り組みを振り返り、課題を設定する。	実習日誌を利用して、自分の取り組みを振り返る。 課題設定シートを用意し、考えを整理する。
キャリア情報活用	製作手順表や計画表を活用する。 「本時」	分かりやすい製作手順表を用意しておく。 前日に次の計画を相談しながらたてておく。
意志決定	分からないこと、困ったことを整理して相談する。「本時」	相談シートを用いて相談したいことを整理する。 自分で考えてから、相談するように約束しておく。 (3分間)
人間関係形成能力	相談する相手の状況を見て相談する。 相手の話をしっかり聞く。 「本時」	相談のルールを決めておく。

・(2)はキャリア発達の視点からの目標を設定した。
・情報活用の手だてとして、相談しながら教師と一緒に計画を立てていく段階から始めている。
・自閉的な傾向が強い事例生徒なので、「相談シート」等の視覚支援を行ったり、自分で考える時間に目安の時間を提示している。

(3) 評価

	評価内容
学習の評価	無理のない課題を設定し、計画を立てることができたか。 意欲を失わず、課題に集中して取り組むことができたか。「本時」 困ったことを、整理して相談できたか。「本時」 自信を持って発表できたか。「本時」
キャリア発達の評価	自分の取り組みを振り返り、課題を設定できたか。 製作手順表や計画表を活用できたか。「本時」 分からないこと、困ったことを整理して相談できたか。「本時」 相談する相手の状況を見て相談できたか。「本時」
指導・支援の評価	課題設定シート、計画表、相談シートは利用しやすいものであったか。「本時」 相談のルールは適切なものであったか。「本時」 本人の様子に応じた課題と在庫品作り(生地織り、ティッシュケース製作)の時間の配分であったか。「本時」

・評価を三つに分けた。
・生徒自身の評価(学習の評価・キャリア発達の評価)と教師の評価(指導支援の評価)に分けて評価している。
・キャリア発達の視点で評価することで、事例生徒のキャリア能力が改めて見えてくる。

ウ 成果

指導案の項立てや実態把握に「キャリア発達」の視点を入れて作り替えたことで、教師の「生徒を見る目」「授業を見る目」が変わってきた。指導案作成時に、実態把握をする過程で「キャリア発達」の視点が整理され、単元構成、展開を考える課程で「キャリア発達」の視点を授業に生かす工夫が生まれてきた。

(ア) 指導案について

平成17年より、題材設定の理由の中に「キャリア発達の視点」という項目を設け、その題材の中で身につけられるであろうキャリア発達の諸能力を箇条書きにするようにした。

この作業を通して、キャリア発達における諸能力の分類の仕方がわかり、それぞれの諸能力の理解が深まった。昨年までと変わらない授業内容であっても、授業をキャリア発達の視点で見直すことで、今までの授業の中にもキャリア発達の視点が存在し、その取り組みがキャリア能力を身につけることにつながっていたということが再確認できたはずである。

平成18年に入り、(1) 題材設定の理由(2) キャリア発達との関連とし、さらに詳しく表記するようにした。同時に進めていた「キャリア発達の諸能力関連表」を用い、関連表から読みとった諸能力を指導案の中に書き込む形がとられてきた。

このことによって、一層「キャリア発達」に関する理解は深まり、同時に反映できていない能力を見つけることもできた。関連表を使用することで、その諸能力を段階的にとらえることもでき、ある能力に関しては、段階的に高い能力を身につける単元だが、ある能力に関しては段階的に低い能力しか達成できない単元であると分析することもできる。

展開の中では、「キャリア発達との関連」を意識することで、より力を発揮しやすい展開を工夫することができた。例えば、手芸コースの展開のように、「オリジナル作品を作ろう」という毎年行っている単元だが、「キャリア設計能力」「情報活用能力」を意識し、計画表作りや計画表の使い方に重点をおいた単元計画になっており、本時の展開も、教師は教えすぎず、自分で計画表に基づいて行動し(情報活用能力・意志決定能力)わからないことは自分から聞く(人間関係形成能力)ような展開になっている。

また、保健体育の授業では、今まで一人で行っていたストレッチ体操を「人間関係形成能力」を意識して二人組に変えたり、「設計能力」を意識して自分たちで独自のルールを考えて試合を行ったりといった取り組みがなされている。

（イ）事例研究について

事例研究ではキャリア発達の視点で捉えた、実態把握の形式を作成した。諸能力の獲得段階をA B Cの3段階で評価し、キャリア発達の視点に基づいた実態を記載するようにした。

単に障害の程度を実態把握するのではなく、将来「働く」という前提のもとで実態把握したことで、生徒の見方が変わってきた。その実態把握をもとに教科の指導ではどのように指導していくのか、という指導の方針を立て、支援計画を作成した。ここでは授業を展開する普通教科とこの学校の中心的活動である専門教科に分けて記載するようにした。

このような支援計画を作成することで、事例生徒への接し方が明確になり、特にチームティーチングで行っている専門教科では教師間の共通理解を図ることができた。

指導の目標は大きく二つに分けて記載した。（１）指導の目標と手だて（全体的な目標）と（２）キャリア発達の視点からの指導目標と手だてである。生徒によっては重複していることもあるが、特に重要な目標であるという考え方で考え、あえて整理せずに設定した。

キャリア発達の視点からの目標に関しては、「キャリア発達の諸能力関連表」を活用して目標設定すると、その生徒のキャリア発達の力が客観的に見られ、変容もとらえることができる。生徒の実態は様々なので、生徒によっては関連表にはない目標設定が適切な場合もある。

評価については生徒自身の評価「学習の評価」「キャリア発達の評価」と教師の評価「指導・支援の評価」に分けて評価することにした。「学習の評価」は（１）指導の目標と手だてを受けたもので、「キャリア発達の評価」は（２）キャリア発達の視点からの指導目標と手だてを受けたものになっている。評価を細分化することで、振り返り方がより具体的になり、達成できた目標は今後さらに上の目標を設定することになり、達成できなかった目標に関しては、今後手だてを工夫していくことになる。

(4) アンケート結果

ア アンケートの方法

(ア) 調査対象 本校教員(全43名)

(イ) 調査期間 平成19年1月10日(水)～1月15日(月)

(ウ) 調査内容

	質問内容
1	「キャリア発達」とはどのようなことがイメージを持つことができましたか。 1 できた 2 たいへんできた 3 あまりできない 4 できない
2	「キャリア発達」を促すために、どのような指導・支援をしたらよいかイメージを持つことができましたか。 1 できた 2 たいへんできた 3 あまりできない 4 できない
3	「キャリア発達」のための4つの能力がどのような力なのか、イメージを持つことができましたか。 1 できた 2 たいへんできた 3 あまりできない 4 できない
4	「キャリア発達」のための4つの能力を育てるための指導・支援について、イメージを持つことができましたか。 1 できた 2 たいへんできた 3 あまりできない 4 できない
5	「キャリア発達」をイメージした授業実践をすることができましたか。 1 できた 2 たいへんできた 3 あまりできない 4 できない
6	学習活動に「キャリア発達」のための各能力を活用する場面を設定することができましたか。 1 できた 2 たいへんできた 3 あまりできない 4 できない
7	「関連表」を意識して指導・支援をすることができましたか。 1 できた 2 たいへんできた 3 あまりできない 4 できない
8	担当する生徒のアセスメントに「キャリア発達」の視点を意識できましたか。 1 できた 2 たいへんできた 3 あまりできない 4 できない
9	「キャリア発達」のための4つの能力はどのような力だと理解していますか。 自分の力で表現してください。 (1) 将来設計能力 (2) 情報活用/探索能力 (3) 意思決定能力 (4) 人間関係形成能力
10	「キャリア発達」の視点を持つことで、どのような変化があると思いますか。 (1) 生徒の意欲 (2) 生徒の学力 (3) 保護者の満足度 (4) 教員の意欲 (5) 教員の仕事量

イ 結果

(ア) 回収数 18 (回収率 41%)

(イ) 結果 1 質問 1～8

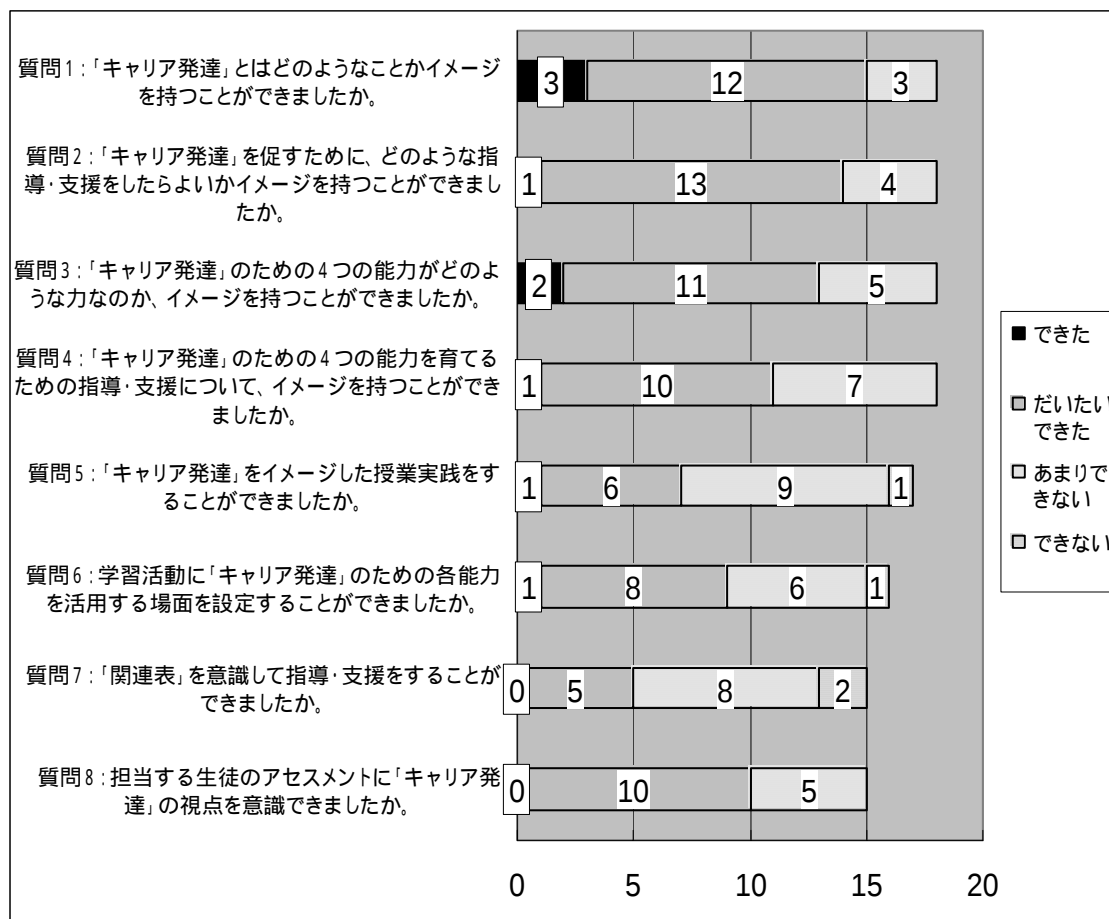


図 4 - 4 意識調査結果 1

(ウ) 結果2

○質問9 「キャリア発達」のための4つの能力はどのような力だと理解していますか。自分の言葉で表現してください。

将来設計能力	・将来への夢 ・希望を持てること ・行動の計画性や見通しを持てる力 ・計画性を持って物事に取り組む力 ・将来のことが考えられ、今の自分との関係が分かる ・今までの経験を踏まえ、目的を果たすために、どのような方法で行い、結果を出すために更に工夫できる能力 ・自分で、やらなければいけないことを計画をたてて進めようとする力 ・自分の役割を自覚し、計画を実行していく力 ・計画を立てる力 ・計画能力
情報活用 / 探索能力	・これまでの学習や経験を生かして、新しいことへ対応するために準備できる(対応できる)こと ・活動に必要な情報を集めたり活用できる力 ・必要な情報を取捨選択し活用する力 ・自分のこと、仕事のことなど自分に必要な情報を集めたり、活用したりできる ・今までの経験を踏まえ、目的を果たすためにはどのような分野のものを調べ、試していけば結果に近づくのかを実行できる能力 ・自分の行動について客観的にみることができ、結果を判断できる力 ・知りたいことを人に聞いたり、調べたりする力 ・さまざまな情報を取り入れ、自分の課題や将来を見通す力 ・必要な情報を集める力 ・分析力
意志決定能力	・選択できること ・選択肢もしくは、多くの情報の中から一番適切な行動を選ぶ力 ・自ら責任を持って決める力 ・自分の気持ちや意見、考えが言える ・課題を解決していこうとする力 ・今までの経験を踏まえ、結果を出すために段取り等の方向付けを決定し、実行できる能力 ・自分が抱えている問題や悩みなどについて、いくつかの問題解決のための選択肢を考えることができ、それから一つ選択できる力 ・自分の行動を自分で決める力(指示待ちではなく) ・様々な選択肢を主体的に選び、自己実現を図る力 ・決断力 ・自信
人間関係形成能力	・協同活動ができること ・周りの人と良好なコミュニケーションをとれる力 ・立場や役割を理解して人間関係を築く力 ・コミュニケーション ・自己理解 ・持っているもの(技能など)を伝えたり、新しいことを積極的に学ぼうとして、人に聞いたりできる態度を表現できる能力 ・自分の意見を主張したりし、相手に納得してもらったり、他の意見を参考にしながら自分の考えを変更できるような力 ・基本的なコミュニケーション能力 ・人との距離の取り方 ・場に応じたことばを使える(職場で) ・自己の理解と他者を尊重し、交流をはかりながら成長していく力 ・コミュニケーションをとる力 ・思いやり

○質問１０ 「キャリア発達」の視点を持つことで、どのような変化があると思いますか。

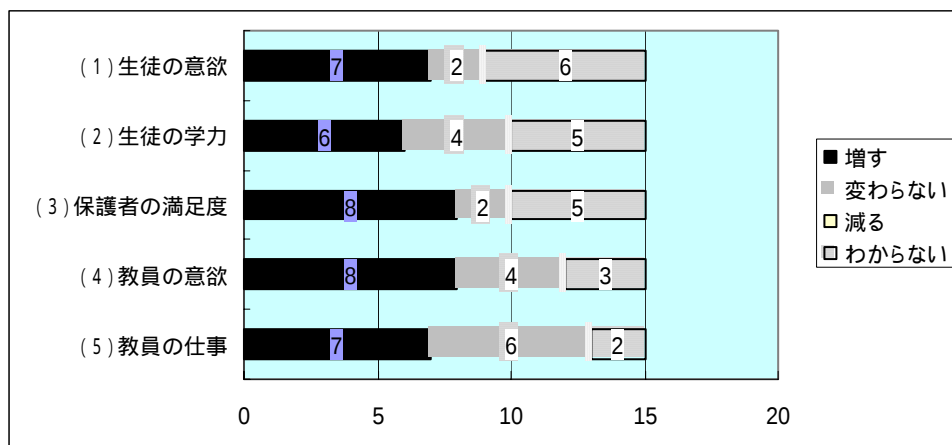


図 4 - 5

意識調査結果 2

(エ) 参考

○質問 「キャリア発達」の視点を踏まえて授業ではどのように取り組みましたか。

- あいさつ、返事、人の話を聞くときは注目する、など。
- 木工コースの実践から
 - ・ 将来設計能力
ビルド生産方式¹により必然的にこの能力は身に付くと考ええる。
 - ・ 情報活用能力
各部材の見本から部材加工をしたり、完成見本から組み立て方法を考察したりすることで情報を活用する能力が向上すると考える。
 - ・ 意志決定能力
各種の木工機器をどの順番で使い、どの部材から加工していくのかを自分の意志で決定し、行うことで向上すると考える。
 - ・ 人間形成能力
セクションの教え合い学習で、技術を伝えたり伝えられったりしながら、お互い協力し、向上しあえるような環境設定にすることで向上すると考える。
- 授業を「キャリア発達」の視点で見直した際、「意志決定能力」にお結びつく内容が少なかったために、「自分で選択する」という場面を増やすようにした。例えば、プリントを何種類か用意し、自分の力に合わせて一つを選ぶようにしたり、発問に対しての答え方も一通りではなく、様々な手段・形式を使ってもいいようにした。

1 ビルド生産 木工コース独自の生産方式。

自分が担当した製品は、部材加工から組み立てまで自分で行う。

2 セクションの教え合い学習

木工コースで、担当する製品の作業を「セクション」と呼ぶ。セクションは、半年で交替をし、初めは前担当者が作業内容を教えることになっている。

5 考察

(1)「4(1) 教科指導との関連付け」の課題

ア 学習活動との関連付けに関する課題

- ・ 年間指導計画との関連付けを明確にできたのは、研究会で取り組んだ一部の教科、一部の学年分であった。
- ・ 年間指導計画に示された「題材」の全てについて、指導略案としてその展開方法を整理している。次年度以降、その略案の中でキャリア発達との関連を明確にする必要がある。
- ・ 指導計画、指導略案等で関連付けして整理した内容について、実践的な検討を進める。

イ 普通教科の指導・支援内容との関連付けに関する課題

- ・ 社会科のように、関連付けられるキャリア発達の能力が一部に偏る教科が見られた。
- ・ 関連付けの作業は、教科部会によって2回取り組んだが、「難しさ」の理由として多い「キャリア発達の能力と直接関係しない内容が多い」から、キャリア発達の能力についての理解がまだ不十分であることが分かった。

ウ 専門教科の指導・支援内容との関連付けに関する課題

- ・ 「指導・支援内容」が、「共通」と作業種別に分けてあり、当初は両方について関連付けを行った。しかし、作業種別の内容は技能的な内容が多く、関連付けをすることができなかった。
- ・ 学科によって関連付けた内容に違いがあった。そのため、一つの指導・支援内容について、複数のキャリア発達の能力が関連付けられた項目がある。
- ・ 指導計画、指導略案等で関連付けして整理した内容について、実践的な検討を進める。

(2)「4(2) キャリア発達段階表(教科指導)の作成」の課題

ア 専門教科に関する課題

- ・ 関連付け表で重複している部分があったことから、段階表でも内容が重なっている部分が出てしまった。今後の実践研究を通して整理していく必要がある。

イ 普通教科に関する課題

- ・ キャリア発達の能力との関連付けは行ったものの、今後さらに見直しが必要であると感じる。発達段階表を実際に作成してみると、「情報活用能力」に分類されている項目が多数を占める。これは、教科の内容を考えると仕方がないことでもあるが、「関連付け」の作業段階で悩んだ様子が分かる。今後の実践研究によってより確かな視点を持つことができるようになればと考える。

(3)「4(3) 授業実践」の課題

ア 指導案に関する課題

- ・ 本年度の研究では「キャリア発達の視点」を授業に盛り込むことという作業が中心であったが、今後は「キャリア発達の諸能力」をより獲得できる授業の工夫を取り上げた実践研究が必要になってくるであろう。

イ 事例研究に関する課題

- ・ 指導・支援の評価では手だての正当性を見るようになっているが、目標設定、場の設定、グルーピングなどの振り返りも必要で、指導・支援を評価する細かい評価項目の設定も今後必要になってくると思われる。

(4)「4(4) アンケート結果」からの課題

ア 「キャリア発達」のイメージ化と指導・支援

- ・ 「キャリア発達」の能力を自分の言葉で表現する質問では、6名の回答しかなかった。「キャリア発達のイメージが持てた」と回答した15名と比較すると、半数以下になってしまうことが分かる。「キャリア発達」のイメージ化の深まりが不十分であったと考えることができる。また、これが「キャリア発達をイメージした授業実践ができた」が、7名に止まった原因であろうと思われる。
- ・ 「キャリア発達」の能力を自分の言葉で表現した内容は、これまでの実践でも十分に取り組んできた内容である。回答した教員は、自分の実践を「キャリア発達」の視点から整理し直して表現をしているようである。従って、ここで回答できた教員は、「キャリア発達」について実践的に理解することができるようになったと考えることができる。

イ 「キャリア発達」の視点を持つことによる変化

- ・ 「キャリア発達」の視点を持つことによるメリットは感じながらも、教員の負担が増えるのではないかという危惧を抱いていることが分かった。負担が増えると感じるのは、指導・支援内容の整理と「キャリア発達」との関連付けなどの取り組みを指していると思われる。

ウ 調査方法等について

- ・ 進路、就労とのつながりについてどのような意識を持っているのかを調べる項目を設ける必要があった。
- ・ 意識の変化が分かるように、期間をおいて複数回調査を行う必要がある。

6 今後の取り組み

(1) 実践による検討

これまでに「キャリア発達」の視点を踏まえて作成してきた「キャリア発達関連表」、「キャリア発達段階表」、「年間指導計画」、「指導案」について、「5 課題」にあるように、まだ不十分な部分について整理することが課題である。

整理をするにあたっては、実践による検討が必要で、研究の組織を生かして計画的に進めていきたい。

(2) 「キャリア発達段階表」の活用

教科別に作成した「キャリア発達段階表」を組み替えて、「キャリア発達段階表」を作成した。この「キャリア発達段階表」は、各教科の指導の指針として作成したが、チェックシートとして使うことで、生徒のアセスメントに利用することができるのではないかと考えている。

「できる」項目を、全ての教科(普通教科・専門教科)についてチェックすることで、「キャリア発達」のプロフィールが分かり、そこから、指導計画を作成することができると考えている。

利用するには、チェック方法の標準化、プロフィールからの分析のあり方などが課題となってくる。

(3) 指導者の資質の向上

「キャリア発達」の視点を踏まえて指導・支援内容を整理することは、それらの内容が「職業自立・社会自立」とどのようなつながりがあるのかを考えることである。本校の職業教育は、「自立に必要な内容」として準備をしているが、「キャリア発達」とのつながりをはっきりさせることで、「必要な」根拠を明確にすることができるようになってきた。

今後も、キャリア発達の視点を踏まえながら、指導・支援内容の見直しを進めるとともに、研究会を計画的に実施し、指導者の意識の改革、専門性の向上を図っていきたい。

職業自立に関わる生徒の実態と指導・支援の計画

生徒	工業	技術科	窯業	コース	■	年	■	組	生徒名
評価	人間関係	自分の得意なこと苦手なこと等を理解する。				B	<実態> ・ 職場実習をした企業での就労を希望している。 ・ どのような作業にも興味を持ち、積極的に取り組む。反面、興味が持続せず、飽きてしまうことが多い。 ・ 職場実習中には、無断で欠席をしたことがあった。また、遅刻をすることも多くあり、職業観を一層育成することが必要である。		
		適切にコミュニケーションをとる。				A			
	情報活用	必要な情報を探したり、活用したりする。				B			
		適切な職業観があり、働く意欲がある。				B			
	将来設計	自分の役割を理解し、責任を持って取り組む。				B			
		目標の実現に向け、計画的に取り組む。				C			
	意思決定	選択肢を設けて、主体的に選ぶ。				A			
		自ら課題を見つけ、自ら問題を解決する。				A			

指導・支援の方針

- 自分の得意なこと・苦手なことを理解する。
苦手なことについて、どのような支援を受けることができるのかを知り、様々な制度を利用できるようにする。
- 職業生活の具体的なイメージを持つ。望ましい職業生活を送るための課題を整理し、積極的に学習に取り組めるようにする。
 - 職場での生活と家庭での生活を一体として「職業生活」と考え、望ましい生活を具体的にイメージする。
 - 希望する「職業生活」を営むために、学校生活の目標を定めて学習に取り組む。

指導・支援の計画（教科指導）

普通教科	家庭科	専門教科	工業（窯業）
○家庭の役割 ・ 家族の仕事を分担し、家族の一員として役割を進んで果たす。 ・ 色々な生活形態についての理解を深める。 ○消費と余暇 ・ 予算をたてて、計画的に買い物をする。 ・ 余暇や休日の計画を立てて有効に過ごす。 ・ 相談場所や緊急連絡先について利用してみる。 ○家庭生活に関する事項 ・ いつも清潔な衣服を着る。 ・ 衣類などの整理や保管の仕方が分かる。 ・ 主食、主菜、副菜などについて知る。		○働くことの意義 ・ 働くことの意義が分かり、積極的に仕事をやる。 ・ 仕事に適した服装を考えられる。 ・ より良い仕事をしようという向上心を持って取り組む。 ○作業工程 ・ 担当する製品作りの工程全体を理解して仕事に取り組む。 ・ どの作業でも丁寧にやる。 ○役割・協力 ・ 仕事のやり方や段取りなどが分からないときは、分からないことをはっきりさせて、自分から進んで尋ねる。 ○機械ろくろ成形 ・ 作業工程に従い正確な手順で製品の品質を揃えることが分かる。機械や道具を大切に扱い、後始末や手入れを忘れずにやる。	

。職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）- 職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の観点から

太字は、「職業観・勤労観の育成」との関連が強いものを示す。

[illegible]

キャリア教育の推進に関する総合調査研究協力者会議藤田書
～児童生走一人一人の力が観，職業を育てるために～
平成16年1月28日 から抜粋

平成18年度 教科別の指導年間計画

教科名	職業	学年	2 年	担当者名	伊勢 清一、奥津 篤子
目 全 標 体	勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる。				
目 学 標 年	働くことの意義を理解し、勤労に対する意欲を高める。				
事 留 項 意	授業では、専門実習や職場実習、日常生活との関連を重視し、生徒にとって学習内容が想起しやすく、あるいは活用しやすくなるように配慮する。ゲームやロールプレイやソーシャルスキルトレーニングなどの演習を取り入れた授業づくりを工夫する。				興味・関心 知識・理解 技能 一般化
	(時数) 題材名	目 標	主な学習活動内容	教材・教具 (一部)	評価の観点 (一部)
4 月	(1 回目) 職業適性検査	職業適性検査を体験し、適性を調べる方法があることを知る。	・職業適性検査	・職業適性検査用器具	検査に意欲的に取り組めたか。 検査の内容・方法がわかったか。
5 月	(2 回目) 職場実習の進み方	職場実習の進み方を知り、初めての職場実習の見通しを持つ。	・ガイダンス視聴 ・進み方の整理	・スライド映写 ・ワークシート	職場実習の見通しが持てたか。
	(3 回目) 職場で注意を受けたら	職場で注意を受けたとき、前向きに解決していく態度を身につける。	・職場でのトラブル発生場面のビデオ視聴と問題の整理・解決策	・場面設定ビデオ ・ワークシート	解決策を複数考えることができたか。
6 月	(4 回目) 業種と職種	業種と職種の区別を知り、次の実習先選択の際に役立てる。	・実習先の会社の業務内容(業種) ・自分が担当した仕事内容(職種)	・ワークシート	業種と職種の違いが言えたか。
9 月	(5 回目) 安全な作業 労働災害とその原因	労働災害とは何かを知り、その原因を考え、安全への関心を高める。	・労働災害の種類と原因 ・安全のための注意点の考察	・ワークシート ・黒板貼付用拡大資料	安全な作業のポイントを複数あげることができたか。
	(6 回目) 安全な作業 危険を予知して災害防止	危険予知訓練を通して、危険に対する感受性を高める。	・3 つの場面の危険予知とその対策の考察	・ワークシート ・黒板貼付用拡大資料	危険箇所を複数あげることができたか。
	(7 回目) 安全な作業 危険を予知したときの声の掛け方	危険を予知したとき、災害防止のための適切な声掛けができる。	・他の人のすぐ側で作業するときの危険予知と、適切な声掛けのソーシャルスキルトレーニング	・ワークシート ・黒板添付用拡大資料 ・戸棚、台車	他の人のすぐ側で作業するとき、相手に適切な声掛けができたか。
	(8 回目) 安全な作業 荷物の持ち方・運び方と安全標識	荷物の正しい持ち上げ方と運び方を知り、身につける。一般的な安全標識の読み方・意味を覚える。	・荷物の正しい持ち上げ方と運び方、階段での運搬 ・知っておきたい安全標識	・ワークシート ・荷物 ・標識資料	腰を痛めない荷物の持ち上げ方ができたか。 7 つの安全標識を覚えたか。
10 月	(9 回目) 会社が求める人材 職場実習を振り返って	自分や仲間の職場実習を振り返り、職種によって求められる能力や適性を考えることができる。	・職種によって求められる能力や適性 ・共通する働く力	・ワークシート ・職場実習の写真およびビデオ	職種によって求められる能力や適性に気づき、複数あげることができたか。
11 月	(10 回目) 会社が求める人材 会社のアンケートから	資料から会社が求める人材像を理解し、それを意識して生活する。	・会社が求める人材 ・学校生活・家庭生活での努力点	・アンケート資料 ・ワークシート	会社が求める人材像を複数言えたか。
	(11 回目) 労働時間と賃金	労働条件中の労働時間と賃金について理解する。	・労働時間、勤務時間、休憩時間、賃金、給料、最低賃金制度	・ワークシート、電卓 ・新聞記事	職場実習を例に、1 か月の給料を計算できたか。
12 月	(12 回目) 給料の使い方 1 か月の給料とその使い道	働くところの位の給料がもらえるか理解し、その使い道について考える。	・卒業生の給料の平均額 ・給料 10 万円の場合の使い道	・おもちゃのお金 ・ワークシート	給料の使い道について、意欲的に考えることができたか。
	(13 回目) 給料の使い方 生活費と貯金・小遣い	給料を生活費、貯金、小遣いに適切に分けて遣う大切さを理解する。	・生活費の実態 ・貯金、小遣いの必要性	・生活費実態調査資料 ・ワークシート	生活費としてどのようなものがあるか言うことができたか。
1 月	(14 回目) レストランなどでの お金の支払い方	休日に友達と過ごしたときのお金の精算方法について理解する。	・支払い場面のロールプレイ ・割り勘と個別払い	・レストランメニュー ・おもちゃのお金	割り勘をする場面と方法がわかったか。
	(15 回目) 会社の休み、けがをしたとき、やめるとき	労働条件中の休暇や退職・解雇、保険制度について概要を理解する。	・休暇、退職・解雇の決まり ・保険の種類	・ワークシート	休暇の決まり、会社を辞めるときの決まりがわかったか。
	(16 回目) 保険制度 公的保険の種類とそのしくみ	公的保険の種類を知り、その概要について理解する。	・医療保険、年金保険、雇用保険、介護保険、その目的としくみ	・ワークシート	公的保険の種類がわかったか。
2 月	(17 回目) 保険制度 民間保険の種類とそのしくみ	民間保険の種類を知り、その概要について理解する。	・自動車保険、生命保険、火災保険、その目的としくみ	・ワークシート	民間保険の種類がわかったか。
	(18 回目) いろいろな生活の場	卒業後の生活の場としてのグループホームや生活ホームを知る。	・グループホームのビデオ視聴 ・アパート暮らしとの生活費比較	・ビデオ「地域で生きる グループホーム」	グループホーム見学会への意欲が高まったか。
3 月	(19 回目) 悪質商法にご用心	悪質商法の手口を理解し、誘われたときの断り方を知る。	・悪質商法ビデオの視聴 ・断る場面のロールプレイ	・ビデオ「悪質商法」 ・ワークシート	悪質商法の模擬勧誘場面で、断ることができたか。
	(20 回目) 学習のまとめ	1 年間の学習の理解度を確認し、進級への決意を新たにする。	・学習の振り返りと確認テスト ・感想文	・ワークシート ・原稿用紙	1 年間の学習成果の充実感と来年度への期待感が持てたか。
振 指 り 導 返 を っ て					

平成18年度 教科別の指導職業年間計画とキャリア発達との関連表

教科名	職業	学年	2 年	担当者			
	(時数) 題材名	人間関係形成能力		情報活用能力		将来設計能力	意思決定能力
4 月	(1 回目) 職業適性検査			職業の適性を調べる方法 (検査) があることがわかる。		検査を通して、これから身につけるべき力に気付く。	
5 月	(2 回目) 職場実習の進み方			職場実習の手続きや実習中の生活、評価についてわかる。		職場実習に向け当面の目標を立て、その達成に向け努力する。	職場実習の大切さを理解し、積極的に取り組もうとする。
	(3 回目) 職場で注意を受けたら	相手 (上司) と自分の立場を理解し、相手の意志を的確に理解する。					自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題と解決策について検討する。
6 月	(4 回目) 業種と職種			業種と職種の違いがわかる。			次回の職場実習先の選択場面に生かす。
9 月	(5 回目) 安全な作業 労働災害とその原因			労働災害の資料をもとにして、その原因を考える。		ふだんの専門実習で、また、次回の職場実習を想像し、安全な作業への関心・意欲を高める。	
	(6 回目) 安全な作業 危険を予知して災害防止					ふだんの専門実習で、また、次回の職場実習を想像し、安全な作業への関心・意欲を高める。	作業場面での危険性を予知し、対策を考える。
	(7 回目) 安全な作業 危険を予知したときの声の掛け方	他者に配慮しながら、災害防止のための適切なコミュニケーションを習得する。				ふだんの専門実習で、また、次回の職場実習を想像し、安全な作業への関心・意欲を高める。	課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。
	(8 回目) 安全な作業 荷物の持ち方・運び方と安全標識			安全な荷物の運搬には、注意点があることがわかる。 一般的な安全標識の意味がわかる。			場面に応じた適切な荷物の運搬方法を選択できる。
10 月	(9 回目) 会社が求める人材 職場実習を振り返って			それぞれの職業に求められる能力・適性があることがわかる。			
11 月	(10 回目) 会社が求める人材 会社のアンケートから	自己の能力・適性を理解し、それを受け入れ伸ばそうとする。		それぞれの職業に求められる能力・適性があることがわかる。		自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。	進路希望を実現するための課題に気づき、その解決に取り組む。
	(11 回目) 労働時間と賃金			職業生活における権利・義務や責任についてわかる。			
12 月	(12 回目) 給料の使い方 1 か月の給料とその使い道			給料の額と生活費などの使い道との関連について考える。			
	(13 回目) 給料の使い方 生活費と貯金・小遣い					将来の職業生活を思い描き、給料の適切な使い道を考える。	
1 月	(14 回目) レストランなどでの お金の支払い方	お金の大切さを考え、適切なコミュニケーションを図る。					場面に応じたお金の支払い方を選択できる。
	(15 回目) 会社の休み、けがをしたとき、やめるとき			職業生活における権利・義務や責任および様々な手続きについてわかる。			
	(16 回目) 保険制度 公的保険の種類とそのしくみ			職業生活を支える上での保険制度について概略がわかる。			
2 月	(17 回目) 保険制度 民間保険の種類とそのしくみ			職業生活を支える上での保険制度について概略がわかる。			
	(18 回目) いろいろな生活の場			グループホームや生活ホームの生活について概略がわかる。		将来の生活を想像し、生活の場をどこにするか考える。	
3 月	(19 回目) 悪質商法にご用心	自己の思いや意見を適切に伝える。		悪質商法の手口がわかる。もしものときの相談先がわかる。			悪質商法の被害には絶対に遭わないという強い意志を持つ。
	(20 回目) 学習のまとめ			今までの学習を整理し、これからの生活に活用する。			よりよい生活や学習、進路や生き方などを目指して努力しようとする。

平成18年度 教科別の指導年間計画

教科名	家庭科	学年	3 学年	記載者名	
全体目標	・自立に向け、日常生活を営む上で必要な基本的な力を身につける。 衣：自分で身なりを整える。(簡単な)日常着の洗濯、アイロンがけ、被服の簡単な補修、ボタン付け、裾のほつれ直しができるようになる。 食：一人で簡単な食事をつくれるようになることを目指す。献立の立案から、買い物、調理、調理後の反省までを一連の活動とする。 住：健康で気持ちの良い生活ができるようにする。(ゴミの分別、整理整頓、清掃、掃除機、洗濯機の使い方がわかる。)				
学年目標	・食物、被服、住居などに関する実習や学習を通して、身の回りのことが自分でできる基礎的な力を身に付け日常生活に活かすことができる。 ・調理に関する実習や学習を通して、バランスのよい食事を整える。				
留意事項					
	(時数) 題材名	目 標	主な学習活動内容	教材・教具	評価の観点
	(1 回目) ・衣生活	・流行を取り入れながら自分の体に合った衣類(既製品)を選ぶ。	・バスト、ウエスト、ヒップ、スポン丈、首周りなど自分のサイズを測る。 ・既製品購入時の注意点について考える。	・メジャー ・既製品のサイズ表	自分の体に合った衣類のサイズが分かる(理解) 家庭生活においても行う(一般化)
	(2 回目) ・衣生活	・衣類の整理や保管の仕方がわかる。	・衣類の季節ごとの保管やクリーニング店の利用について知る。	・防虫剤 ・クリーニング店の広告 ・「衣服の保管」ビデオ	衣類の整理や保管の仕方がわかる(理解) 家庭生活においても行う(一般化)
	(3 回目) ・衣生活	・衣類(セーター等のおしゃれ着)の洗いが分かり、洗濯をする。	・水温や洗剤、洗い方に注意しながら、洗濯実習をする。	・おしゃれ着洗い用洗剤 ・セーター	衣類の洗いが分かり、洗濯をする(技能)
	(4 回目) ・衣生活			・制服	
	(5 回目) ・住生活	・環境問題を考え、よりよい暮らし方を考え、実践する。	・身の回りで起きている環境問題について考え、家庭で実践できることを考える。	・省エネのヒント ・使い捨て商品	環境問題をかんがえ、よりよい暮らし方を考える。(興味・関心) 家庭生活においても行う(一般化)
	(6 回目) ・住生活	・環境問題を考え、リサイクルで生活に役立つ物を製作する。	・ベッドボドル、牛乳パック、箱、新聞紙、針金ハンガー等を利用して製作する。	ベッドボドル、牛乳パック、箱、新聞紙、針金ハンガー等	リサイクルで生活に役立つ物が製作できたか(技能) (興味・関心)
	(7 回目) ・住生活	・いろいろな場所の清掃方法を知り、実践する。	・玄関、トイレ、風呂等、特殊な場所の掃除方法を知り、実践する。	・洗剤、漂白剤、歯ブラシ、トイレブラシ	いろいろな場所の清掃方法を知り、実践する(技能)
	(8 回目) ・家庭生活	・いろいろな生活形態について理解する。	・グループホーム等、いろいろな生活形態を知る。	・「あしたへのステップ」	いろいろな生活形態について理解する(知識)
	(9 回目) ・家庭生活	・知り合い、来客への対応が分かる。 ・訪問の仕方が分かる。	・来客への対応を考える。 ・アポイントのとりかた、服装、話し方について考える。	・「あしたへのステップ」 ・「おつきあいのマナー」	いろいろなつきあいにあけるマナーについて理解する(理解)
	(10 回目) ・家庭生活	・冠婚葬祭についての知識を深める。	・冠婚葬祭のマナー(不祝儀袋、服装、言葉遣い、テーブルマナー等)	・不祝儀袋	冠婚葬祭について理解する。(知識)
	(11 回目) ・家庭生活			・テーブルマナー	
	(12 回目) ・家庭生活	・植物の育て方について学び、寄せ植え等をする。	・ハーブやバジーン等、植物の育て方について学び、寄せ植え等をする。	・ハーブや花	植物の育て方について学ぶ(知識) 寄せ植えをする(技能)
	(13 回目) ・食生活	・一日に必要な食品の種類と概量を考えながら、献立をたてることができる。 (目的、栄養、価格、能率)	・食品の組み合わせを中心にして、青年向きの一日分の献立を考える。	・献立表 ・献立カード	一日に必要な食品の種類と概量がわかる(理解) 青年向きの一日分の献立をたてることができる(技能)
	(14 回目) ・食生活				
	(15 回目) 調理実習 おにぎり、みそ汁、卵料理	・栄養を考えいろいろな食品を組み合わせる。	・調理計画	・調理計画表	栄養を考えいろいろな食品を組み合わせる(知識)
	(16 回目) 調理実習 一人一品	・冷蔵庫を利用する。	・買い物計画	・買い物計画表	冷蔵庫を利用する(技能)
	(17 回目) 調理実習 夏野菜を使った献立	・献立に合わせ必要な材料を取りそろえる。	・買い物	・反省用紙	献立に合わせ必要な材料を取りそろえる(技能)
	(18 回目) 調理実習 めん類	・食品、食器の衛生に気をつける。	・調理実習	・会計簿	食品、食器の衛生に気をつける(技能)
	(19 回目) 調理実習 献立作成による調理	・食品の洗い方、切り方が分かり、簡単な調理をする。	・反省	・電卓	食品の洗い方、切り方が分かり、簡単な調理をする(知識、技能)
	(20 回目) 調理実習 献立作成による調理	・調味料の使い方がわかる。	・会計	・調理器具	調味料の使い方がわかる(技能)
		・調理用具を安全に扱う。			調理用具を安全に扱う(技能)
		・盛り付けや配膳をする。			盛り付けや配膳をする(技能)
		・調理室の簡単な整理整頓をする。			調理室の簡単な整理整頓をする(技能)
		・作法を守って食事をする。			作法を守って食事を(技能)
		・家庭生活においても行う。			家庭生活においても行う(一般化)
指導を振り返って					

平成 18 年度 家庭科年間指導計画とキャリア発達との関連表

(時数) 題材名	キャリア発達の諸能力			
	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
・衣生活 - 自分にあった衣類を選ぶ -	・ 友達と自分の衣類の好みの違いや、体型等による衣類の選択の違いを理解する。	・ 演習を通して、自分の体のサイズがわかる。 ・ 流行を考え、自分の体にあった衣服を選ぶ。		・ 流行を考えながら、自分の好みに合った衣服を選ぶ。 ・ いくつか候補を決め、その時の状況にあう衣服を選ぶ。
・衣生活 - 衣類の保管 -		・ 衣類の保管にはいくつかの方法があることがわかる。		
・衣生活 - おしゃれ着の洗濯 -		・ 衣類の種類により、洗濯機の設定の違いがわかる。 ・ 衣類による洗い方の違いがわかる。		・ 演習内容を理解し、手順通りに進めるとともに、自己の課題点を見出す。
・住生活 - 環境問題と家庭生活 -	・ 環境問題について教師や友達の話聞き、自分の考えを整理する参考にする。	・ 環境問題に関する内容を見聞きし、共通点や原因がわかる。	・ 環境問題と自分の生活を結びつけ、より環境を残すために、今何ができるかを考える。	
・住生活 - リサイクル -		・ 資料等を参考にして、生活に役立つ物を製作できる。	・ 完成の形をイメージしながら製作する。	・ 作る物を決め、手順を考え、取り組める。
・住生活 - 住まいの清掃 -		・ 住まいの場所や汚れの状態によって清掃方法の違いがわかる。		・ 汚れの様子を適切につかみ、清掃方法を選び、実践できる。
・家庭生活 - いろいろな生活の場 -	・ 生活スタイルの多様性を知り、自他の個性を尊重する。	・ 生活の条件を知り、情報誌を活用して、住まいを探すことができる。	・ 家庭生活の大切さを理解し、進んで家事労働に取り組む。	
・家庭生活 - 訪問と接待 -	・ 望ましい訪問の仕方を理解し、実践する。 ・ 来客への望ましい接待をする。	・ 資料等を使い、望ましい訪問の仕方、接客の方法を整理できる。		
・家庭生活 - 冠婚葬祭のマナー -	・ 冠婚葬祭のマナーを理解し、実践する。	・ 資料等を読み、冠婚葬祭のマナーについての理解を深める。		
・家庭生活 - 植物の育て方 -		・ 好みの植物を見つけ、その特徴や育て方を整理できる。	・ 家庭にある植物の世話をしようとする。	・ 好みの植物を選ぶ。
・食生活		・ 資料や説明等を活用し、食品の種類や栄養について整理することができる。	・ 一日の生活をイメージして、献立を考えることができる。	・ 自分の好み、栄養を踏まえ、栄養を考えた献立を決める。
調理実習 おにぎり、みそ汁 卵料理	・ 友達と協力して、献立を考えたり、調理に取り組んだりできる。 ・ 味の好みの違いや家庭による調理の違いを理解する。	・ レシピ等を適切に活用する。 ・ グループの活動の進みを把握し、自分の取り組み内容を考えていることができる。	・ グループでの調理実習では、自分の役割を理解し、進んで活動に取り組める。 ・ 調理実習全体の流れを理解し、進んで片づけや清掃に取り組める。 ・ 得意な料理を身につける。	・ 調理の手順に従いながら、自分の取り組みやすい方法を見つけ出す。 ・ 調理実習を振り返り、よくできた点、失敗した点を整理することができる。
調理実習 一人一品				
調理実習 夏野菜を使った献立				
調理実習 めん類				
調理実習 献立作成による調理				
調理実習 献立作成による調理				

平成18年度 教科別の指導年間計画

教科名	理 科	学 年	1 学 年	記載者名	
全体目標	自然の事物・現象に関心を持ち、自ら生活の中の不思議について探求するようになり、自然や生命を大切にすることを育てる。 「人体」：健康管理、病気・けがへの対応〔服薬・手当・通院〕ができる。 「生物」：命を大切にすることを学ぶ。 「事物や機械」：薬品、身近な機械を安全に配慮しながら扱う。 「自然」：自然と生活の関連を理解し、健全な生活を維持する。				
学年目標	「人体」：人体を構成する各器官の名称を知り、特に栄養と消化・吸収について理解を深める。 「生物」：学校周辺の自然観察を通して、身近な自然（生物）に親しみ、知り、守る気持ちを高める。 「事物や機械」：様々な実験を通して、金属、プラスチックの性質・特徴についての理解を深める。 「自然」：天体の映像視聴や観測を通して、宇宙への関心を高め、理解を深めるとともに、わたしたちが住む地球について考える。				
留意事項	・「人体」の指導では実際に目にしたり体感できるようにする。「生物」の指導では観察や実験を多く取り入れる。「事物や機械」の指導では日常生活で取り扱うことの多いものを実際に使用する。「自然」の指導では日常生活との関連性にふれる。どの分野も具体的に体験的な活動を重視する。 ・ひとりで行う実験や観察をできるかぎり多く設定する。また、A/V機器やコンピュータなどの視聴覚機器を活用する。				
	(時数) 題材名	目 標	主な学習活動内容	教材・教具	評価の観点
	(1回目)【オリエンテーション】	・授業のルールや、1年間の学習内容を知り、意欲を高める。	・1年間の学習内容計画 ・「おもしろビックリ実験」	・実験材料、器具	理科の授業に関心を持てたか 年間の学習内容がわかったか
	(2回目)【身近な自然(春)】 草花の世界	・春の草花の観察を通して、身近にある植物の名称や特徴を知る。	・野草のスケッチ ・野草の名前 ・春の七草	・ルーペ、双眼実体顕微鏡、U S B マイクロスコープ、デジタルカメラ	野草の観察に関心を持てたか 野草の名前がわかったか 教具を正しく使用できたか 春の七草を理解したか
	(3回目) 昆虫の世界	・身近にいる昆虫の習性や特徴を知る。	・アリのスケッチ ・「草間の宇宙」視聴	・ルーペ付き観察用ケース ・V T R	昆虫の観察に関心を持てたか 昆虫の習性や食性、生態を理解できたか 昆虫の特徴を正確にスケッチできたか 食物連鎖から人間の生を考える
	(4回目)【からだのしくみ】 からだのしくみ	・人体を構成する各器官の名称やはたらき、場所を知る。	・各器官の名称、はたらき、場所	・教科書「からだげんき」 ・人体模型	人体の器官に興味を持てたか 名称やはたらきがわかったか 人体の解剖、組立てができたか 病気や症状、予防に取り組み
	(5回目) 食べ物のゆくえ	・消化器官のはたらきを知り、食べ物の消化・吸収について理解する。	・「胃から肛門への大旅行」視聴 ・消化器官の名称とはたらき	・教科書「からだげんき」 ・V T R	消化器官に興味を持てたか 名称やはたらきがわかったか
	(6回目) 元気のもと食べ物	・栄養素のはたらきについて理解し、バランスのとれた食事に努めるようにする。	・三大栄養素、五大栄養素、六大栄養素のはたらきと多く含まれている食品。	・教科書「からだげんき」	潰瘍、便秘、下痢等の予防 栄養素に関心を持てたか 栄養素を理解できたか
	(7回目)【身近な物質】 もの知り金属(パート1)	・金属の種類とその特徴について理解する。	・身の回りの金属について調べる。(金属名、電気を通すか、磁石につくか)	・スチール缶、アルミ缶、コイン、スチールウール、金属製の文房具など	金属の性質に関心をもてたか 金属の特徴がわかったか 正確に調べることができたか 金属の種類とリサイクル
	(8回目) もの知り金属(パート2)	・金属の特徴(電気を通す、たたくと延びる、光沢がある)について実験を通して理解を深める。	・3×3円電池、水道管に電気を通す、針金をたたいて延ばす、研磨剤や調味料で金属を磨く。	・1円玉、10円玉、乾電池、研磨剤、ソース、醤油、酢、タバスコ、ケチャップ	金属の実験に関心をもてたか 金属の特徴を理解できたか 正しく実験ができたか 光沢の維持、事故防止
	(9回目) なるほどプラスチック(パート1)	・プラスチックの特徴(長所・短所)、原料、製造法、種類、表示について知る。	・プラスチックの特徴について調べる。 ・身近なプラスチックの種類と記号	・ペットボトル、ビニール袋、「わたしたちのへんしん」ノート	プラスチックに関心を持てたか 特徴、原料、種類、表示を理解できたか
	(10回目) なるほどプラスチック(パート2)	・身近な材料からプラスチックを取り出す実験を通してプラスチックの理解を深める。	・洗濯糊からPVAを取り出し、色を付けてスーパーボールをつくる。	・洗濯糊、食塩、食紅、紙コップ、割り箸、キッチンペーパー	プラスチックの種類とリサイクル 実験に関心を持てたか PVAについて理解できたか 正しく実験ができたか 特徴を生かした製品、生活
	(11回目) なるほどプラスチック(パート3)	・実験を通してプラスチックの特徴(加工しやすい)を理解する。	・ストローを使って、笛をつくる。 ・水を入れた容器で音程や音色を変えてみよう。	・ストロー(6mm)ホチキス、カッター、試験管	実験に関心を持てたか 管の長さや音程について理解できたか 正しく実験ができたか
	(12回目)【物質と変化】 オリジナルろうそくをつくらう	・温度によるろうの変化を通して、物質の状態変化について理解する。	・ろうを溶かして色をつけ、型に入れてオリジナルろうそくをつくる。	・ろう、クレヨン、コンロ、軍手、たこ糸、割り箸	実験に関心を持てたか 状態変化を理解できたか 正しく実験ができたか 物質の融解、凝固、液体、固体
	(13回目) ミニクリスマスツリーをつくらう	・尿素の再結晶の実験を通して、物質の化学変化について理解する。	・フェルトでつくったミニクリスマスツリーに、尿素の結晶で樹水を付けよう。	・フェルト、尿素、針金、洗剤、ボンド、シャーレ、精密秤、ペンチ	実験に関心を持てたか 科学変化を理解できたか 正しく実験ができたか 物質の結晶、溶解、再結晶
	(14回目) 葉脈しおりをつくらう	・強アルカリにより木の葉の葉肉を溶かし、アルカリの性質を理解する。	・木の葉を水酸化ナトリウムで溶かし、葉脈しおりをつくる。	・10%水酸化ナトリウム溶液、歯ブラシ、ピンセット、安全めがね	実験に関心を持てたか 科学変化を理解できたか 正しく実験ができたか 酸性、アルカリ性、中性
	(15回目)【地球と宇宙】 わたしたちの住む地球	・宇宙の中の、天体としての地球について理解を深める。	・地球の大きさ、地球の誕生、地球の歴史、自転、公転、地軸、四季、白夜	・地球儀、電球	地球に関心をもてたか 地球の動きと現象を理解できたか
	(16回目) 地球が属する太陽系	・太陽を中心とする9つの惑星名と大きさ、距離を知る。衛生についても理解する。	・太陽系の9つの惑星名、大きさ、距離。地球と太陽、地球と月。光年。	・天体モデル、プリント、ピンポン球	昼夜の時間変化、四季の変化 太陽系に関心を持てたか 9つの惑星名を覚えられたか
	(17回目) 太陽系が属する銀河系	・銀河系の形やつくり、大きさ、天体の数、太陽系や地球の位置を理解する。	・天の川銀河の形、大きさ、天体の数、太陽系。アンドロメダ銀河。	・V T R「天体」	月の満ち欠け、月食、日食 銀河系や宇宙に関心をもてたか 天の川銀河について理解できたか
	(18回目) 宇宙を知ろう	・宇宙の歴史や様子、つくり、広さを理解する。			夏の夜空の天の川
	(19回目) 宇宙の不思議	・宇宙の神秘、天体の誕生、天体の最後、彗星の尾、オーロラの発生、天体の温度を理解する。	・電波望遠鏡、銀河の数、超新星爆発、惑星探査、太陽の黒点、太陽風	・DVD	宇宙への関心が高まったか 宇宙の神秘を理解できたか
	(20回目)【年間のまとめ】 まとめテスト	・1年間の学習の成果を確認する。	・プリント「草花」、プリント「人体・栄養」、プリント「物質」、プリント「地球と宇宙」	・テスト用紙	星座、天体観察 テストに意欲をもてたか 学習内容を思い出せたか 学習内容を調べられたか 理科的一般知識

(時数) 題材名	キャリア発達の諸能力			
	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
・オリエンテーション		学習予定表などから、学習内容についてのイメージを膨らませる。	1年間の学習の予定を知り、自己の目標を考える。	
身近な自然(春) ・草花の世界	話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。	身近な植物や昆虫の観察を通して、活動の様子を知る。		学習問題に対して予想を立て、主体に課題を解決しようとする。
身近な自然(春) ・昆虫の世界				
からだのしくみ ・からだのしくみ		人体を構成する各器官の名称を知り、そのつくりや働きに関心をもち、分かったことを個人やグループで発表する。		
からだのしくみ ・食べ物ゆくえ				
からだのしくみ ・元気のもと食べ物				
身近な物質 ・物知り金属(パート1)	話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。	実験を通して、金属やプラスチックの性質や用途に関心を持ち、使用できる。		学習問題に対して自分の予想をもって、主体的に解決しようとする。
身近な物質 ・物知り金属(パート2)				
なるほどプラスチック (パート1)				
なるほどプラスチック (パート2)				
なるほどプラスチック (パート3)				
物質と変化 ・オリジナルろうそくを作ろう		実験を通して、状態変化や化学変化について知る。	実験の手順が分かり、役割分担の必要性が分かる。また協力して準備や後かたづけをする。	
物質と変化 ・ミニクリスマスツリーを作ろう				
物質と変化 ・葉脈しおりを作ろう				
地球と宇宙 ・わたしたちの住む地球		宇宙やその大きさについて関心を持ち、分かったことを個人やグループで発表する。		
地球と宇宙 ・地球が属する太陽系				
地球と宇宙 ・太陽系が属する銀河系				
地球と宇宙 ・宇宙を知ろう				
地球と宇宙 ・宇宙の不思議				
年間のまとめ ・まとめテスト				

教科名	英語	学年	3 学年	担当者名	
全体目標	○英語でコミュニケーションを図る基礎的な能力や態度を育てるとともに、外国語や外国への関心を深める。 ・ローマ字やアルファベットの読み書きの力を育てる。 ・簡単な英語でのやりとりができる力を育成する。 ・外国の言葉や外国の文化に関心がもてるようにする。				
学年目標	○外国の文化を尊重する姿勢を養う。 ○簡単な英会話での意思疎通を行う力の育てる。				
留意事項	○身近なコミュニケーションを中心とした学習を行う。 ○視覚的な教材を活用する。 ○ゲームなどの活動を取り入れることで英語に親しみをもてるようにする。				
(時数) 題材名	目 標	主な学習活動内容	教材・教具	評価の観点	
(1 回目) オリエンテーション	1 年間の 3 学年英語の学習内容をおおよそ把握できる。	1 年間どのような学習を行っていくかを理解する。	・プリント	楽しく学習できたか。	
(2 回目) アルファベットを覚えよう。	アルファベットの大文字と小文字を書くことができる。。	アルファベットの発音と書き方の練習をする。	・プリント ・アルファベット表	年間の学習内容が理解できたか。 楽しく学習できたか。 アルファベットが読めるか。 アルファベットが書けるか。	
(3 回目) 【英語に親しもう 1】 What's your name? 「あなたの名前は？」	「What's your name?」の意味が分かり、自分の名前を答えることができる。	「What's your name?」「My name is ~.」を使ってジェスチャーゲームをする。	・プリント	楽しく学習できたか。 「What's your name?」の意味が分かったか。	
(4 回目) What's that? 「あれは何ですか？」	「What's that?」「What's this?」の意味が分かり、物の名前を答えることができる。	「What's that?」「What's this?」を使って、物当てゲームをする。	・プリント ・英文カード ・絵カード ・写真カード	名前を答えられたか。 楽しく学習できたか。 「What's that?」の意味が分かったか。	
(5 回目) Which do you like? 「どちらが好きですか？」	「Which do you like?」の意味が分かり、どちらが好きかを答えることができる。	「Which do you like?」「I like that one.」を使い、好みのランチプレートを作る。	・プリント ・食べ物リスト (絵) ・台紙 (プレート)	物の名前を答えられたか。 楽しく学習できたか。 「Which do you like?」の意味が分かったか。	
(6 回目) Where are you going? 「どこに行くの?」	「Where are you going?」の意味が分かり、行き先を答えることができる。	「Where are you going?」を使って、行き先を質問し合う。	・プリント ・英文カード ・行き先カード ・気持ちカード	好きな方を答えられたか。 楽しく学習できたか。 「Where are you going?」の意味が分かったか。	
(7 回目) 「英語に親しもう 1」のまとめ	「英語に親しもう 1」で学習した英語表現を振り返り確認することができたか。	これまで学習した表現を使って、お互いに質問し合う。	・プリント	行き先を答えられたか。 楽しく学習できたか。 学習を振り返ることができたか。	
(8 回目) 【英語に親しもう 2】 Who is he? 「彼は誰ですか?」	「Who is he?」「Who is she?」の意味が分かり、誰かを答えることができる。	「Who is he?」「Who is she?」を使って、物語の主人公当てゲームをする。	・プリント ・英文カード ・物語の主人公カード	楽しく学習できたか。 「Who is he?」の意味が分かったか。	
(9 回目) How many pens do you have? 「いくつペンをもっていますか?」	「How many ~s do you have?」の意味が分かり、数を答えることができる。	「How many ~s do you have?」を使ってボールつかみゲームをする。	・流山の先生の写真 ・プリント ・英文カード ・ボールの入ったバケツ ・くだものバスケットの絵	誰かを答えることができたか。 楽しく学習できたか。 「How many ~s do you have?」の意味が分かったか。	
(10 回目) When is the soccer game? 「サッカーの試合はいつですか?」	「When is the soccer game?」の意味が分かり、月日を答えることができる。	「When is the ~?」を使って、祝日の日にちを答える。	・プリント ・英文カード ・12 ヶ月の英語表	数を答えられたか。 楽しく学習できたか。 「When is the ~?」の意味が分かったか。	
(11 回目) 「英語に親しもう 2」のまとめ	「英語に親しもう 2」で学習した英語表現を振り返り、確認することができたか。]	これまで学習した表現を使ってお互いに質問し合う。	・プリント	日にちを答えられたか。 楽しく学習できたか。 学習を振り返ることができたか。	
(12 回目) 【英和辞典の使い方】 日本で使われている英語	・日本語の中の英語に関心をもちることができたか。 ・英和辞典の使い方を知ることができたか。	身の回りにある英語をあげ、英和辞書を使って単語を調べる。	・プリント ・英文カード ・英和辞典 ・雑誌・新聞等	英和辞典を使えたか。 楽しく学習できたか。 身の回りの英語に関心が持てたか。	
(13 回目) 辞書を使って意味を知ろう。	英和辞典を使って、英文を訳すことができたか。	生徒が関心のある英文について、英和辞典を使って訳を考える。	・プリント ・英文カード ・英和辞典 ・雑誌・新聞等	英和辞典を使えたか。 楽しく学習できたか。	
(14 回目) 発表・まとめ 英語の歌	調べた英語について、分かりやすく発表することができたか。	・前時で調べた英語について発表する。 ・有名な英語の歌を聴いて歌詞の意味を知る。	・プリント ・英文カード ・英和辞典 ・CD・歌詞カード	調べたことを発表できたか。 友だちの発表を聞くことができたか。	
(15 回目) 【こんな時どうする?】 道を尋ねられたら?	・相手がどこに行きたいのかをつかむことができたか。 ・右・左・直進を使うことができたか。	ロールプレイングで、道を尋ねたり、答えたりする。	・プリント ・道順を示した地図	楽しく学習できたか。 相手が行きたい場所が分かるか。 道順を教えることができたか。	
(16 回目) 時間を尋ねられたら?	「What time is it now?」の意味が分かり、時刻を答えることができたか。	「What time is it now?」を使って、時刻当てゲームをする。	・プリント ・英文カード ・時計	身振りや地図を利用したか。 楽しく学習できたか。 時間を英語で言えたか。 「What time is it now?」の意味が分かったか。	
(17 回目) お店で買い物をする	・「May I help you?」の意味が分かり、応対ができたか。 ・自分の欲しいものを伝えられたか。	お店を想定したロールプレイングをし、応対の練習をする。	・プリント ・英文カード ・レジの絵 ・商品となる小物	楽しく学習できたか。 「May I help you?」の意味が分かったか。	
(18 回目) 会社の外国人と友だちになるには?	・「Let's ~.」などの誘いの言葉をかけることができたか。	お休み、外国人の同僚に話しかけることを想定したロールプレイングをする。	・プリント ・英文カード ・お昼ご飯の絵	欲しい物を伝えられたか。 楽しく学習できたか。 「Let's ~.」を使えたか。 英語で話しかけることができたか。	
(19 回目) 「こんな時どうする?」のまとめ	「こんな時どうする?」で学習した英語表現を振り返り、確認することができたか。	様々な場面を想定してロールプレイングで確認する。	・プリント ・英文カード	楽しく学習できたか。 学習を振り返ることができたか。	
(20 回目)【年間のまとめ】	1 年間の学習を振り返り、今までの学習の理解を深め、これからの生活に繋げる。	1 年間の学習のまとめと学習アンケートを記入する。	・学習アンケート	英会話に関心が持てたか。 楽しく学習できたか。 1 年間の学習を振り返ることができたか。 生活に還元できるように深められたか。	

単 元 名 (題 材 名)	キ ャ リ ア 発 達 の 諸 能 力			
	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意志決定能力
・オリエンテーション ・アルファベットを覚えよう。		○説明を聞き、プリント類を読むことで、学習の予定を理解する。	1年間の学習を見通し、目標を持つ。	○学習への希望を持つとともに、目標をはっきりさせる。
〔英語に親しもう1〕 ・What's your name? 「あなたの名前は？」 ・What's that? 「あれは何ですか？」 ・Which do you like? 「どちらが好きですか？」 ・Where are you going? 「どこに行くの？」 ・単元のまとめ	英語表現を使って、友達や教師とコミュニケーションをとる。	○教師や友達の表現を参考にして、適切な表現方法を学ぶ。		○質問に対する適切な応答をする。
〔英語に親しもう2〕 ・Who is he? 「彼は誰ですか？」 ・How many pens do you have? 「いくつペンをもっていますか？」 ・When is the soccer game? 「サッカーの試合はいつですか？」 ・単元のまとめ	英語表現を使って、友達や教師とコミュニケーションをとる。	○教師や友達の表現を参考にして、適切な表現方法を学ぶ。		○自分にふさわしい英語表現法を選んで、決定する。
〔英和辞典の使い方〕 ・日本で使われている英語 ・辞書を使って意味を知ろう。 ・発表・まとめ・英語の歌	○伝えたいことを整理して、相手にわかりやすく発表する。	英語辞典を適切に使う。 調べた結果を活用して和訳する。		○単語の組み合わせを工夫して和訳する。友達の和訳と比較して、改善点を見つけ出す。
〔こんな時どうする？〕 ・道を尋ねられたら？ ・時間を尋ねられたら？ ・お店で買い物をする ・会社の外国人と友だちになるには？ ・単元のまとめ	英語表現を使って、友達や教師とコミュニケーションをとる。	○ロールプレイを通して、場に応じた表現方法を学ぶ。	○将来の出来事の想定から、学習の目的を理解する。	○場に応じた適切な表現をする。
〔年間のまとめ〕 ・1年間の学習のまとめ		○ファイルを見直し、学習の成果や課題点を整理する。	○卒業後も学習に取り組もうとする気持ちを持つ。	○1年間の学習を振り返り、自己評価する。

領域	指導・支援内容	キャリア				指導・支援内容	キャリア				指導・支援内容	キャリア			
	段階()	設	情	意	人	段階()	設	情	意	人	段階()	設	情	意	人
聞く・話す	教師などの説明や友達の話などを聞いて、内容が分かる。				○	教師などの説明や友達の話などを聞いて要点をつかむ。				○	教師などの説明や友だちの話などを聞いて大切な所をメモする。				○
	物語、劇、映画、テレビなどを見たり聞いたりして楽しみ、簡単な感想を話す。		○			物語、劇、放送などを見たり聞いたりして楽しみ、感想を話す。		○			物語や小説などを読んだり、テレビや映画などを見たりして楽しみ、感想を話したり、書いたりす		○		
	簡単な放送や録音などの内容の要点が分かる。		○			放送や録音の内容が分かる。		○			テレビ、ラジオなどを聞き、必要な情報を得る。		○		
	指示や説明を聞く。		○			必要な場合はメモをとり、指示や説明を正しく聞き取る。		○			話し手の意図や気持ちを考えながら、内容や指示説明を適切に聞き取る。		○		
	事柄の順序をたどって、経験したことを話す。			○		経験したことを相手に分かるように、できるだけ要点を落とさずに話す。			○		経験したことを、擬声語や擬態語も交えて的確な表現で話す。			○	
	人に尋ねられたときは、はっきり応答する。				○	場に応じた適切なあいさつや応答をする。				○	相手やその場にふさわしい挨拶や応答をする。				○
	学級会、生徒会などで、自分の意見をみんなにわかるように話す。			○		学級会・徒会等で、人の意見を聞き取り自分の意見を話す。			○		学級会や生徒会等で、人の意見に関連させて自分の意見をはっきりと述べる。			○	
	用件を落とさずに話をする。		○			要件を落とさずに要領よく話をする。		○			要件を筋道をたて正確に話す。		○		
	必要なときにはいい言葉を使ったり、共通語で話したりする。				○	敬語を適切に使う。				○	相手に応じて、敬語や言葉遣いを使い分ける。				○
											尊敬語、謙讓語などを適切に使って話す。				○
	校内電話や公衆電話の応答になれる。				○	電話で応答し、必要に応じて伝言を受ける。				○	電話の取り次ぎや適切な応答をする。				○
読む	やさしい読み物や詩などを読んでたのしむ。		○			いろいろな読み物を読んで楽しむ。		○			小説やエッセイなど好きな読み物を読んで楽しむ。		○		
	国語辞典に関心をもつ。			○		辞典などを利用する。		○			国語辞典、百科事典などを活用して、必要なことを調べる。		○		
	よく目にふれる標識、看板、立て札、掲示などの意味が分かる。		○			日常生活に必要な標識、看板、広告、立て札、掲示等をできるだけ正しく読み取る。		○			標識、看板、広告、立て札、掲示、回覧板などを読んで適切に行動する。		○		
	図書室(館)の利用の仕方が分かる。		○			図書室(館)を必要に応じて利用する。		○			図書室(館)を効果的に利用できる。		○		
	日常生活に必要な伝票、領収書、説明書などが分かる。			○		日常生活に必要な伝票、領収書、諸届け、申込書等の記入の仕方が分かる。		○			日常生活に必要な伝票、領収書、通知書などの意味が分かる。		○		
						日常生活で使われる器具や医薬品等の簡単な説明書が分かる。		○			生活で使われる機械、器具、情報通信機器、医薬品などの説明書を読み取り、適切に利用す		○		
	ローマ字に関心をもつ。		○			日常生活で目に触れるローマ字を読むことができる。		○			外来語や片仮名の標識を読み、適切に行動する。			○	
	日常生活でよく目にふれる外来語の標識に関心を持つ。		○			日常生活でよく使われる外来語が分かる。		○							
	新聞や雑誌等を見たり、読んだりすることに興味を持つ。		○			新聞や雑誌等を見たり、読んだりする。		○			新聞や雑誌を読み、必要な情報を得る。		○		
書く	詩や短歌、俳句等に親しむ。			○		詩や短歌、俳句などの内容や情景を想像する。			○		詩や短歌、俳句などを作ったり、読み味わって、楽しんだりする。			○	
	見聞きしたことや経験したこと等について、できるだけ順序立てて書く。			○		経験した事柄を順序立てて、要領よく書く。			○		経験した事柄を順序立てて、自分の意見や感想を交えながら、要領よく書く。			○	
	簡単なメモをとる。		○			要領よくメモをとる。		○			メモを要領よく手早くとる。		○		
	簡単な手紙文や日記を書く。			○		手紙や電文を読んだり、書いたりする。			○						
	句点(。)読点(、)等に注意して書く。			○		句点、かぎ(「」)等の正しい使い方に慣れる。			○		句読点、かぎ等を正しく使って文章を書く。			○	
	よく使われる簡単な漢字の書き方や使い方が分かる。		○			よく使われる漢字の書き方や使い方が分かる。		○			漢字や片仮名を正しく使って、文章を書く。			○	
	長音、拗音、促音、撥音、助詞「を、は、へ」等を正しく読んだり、書いたりする。		○												
	生活の中で使われる伝票、領収書、諸届け申込書に必要事項を手本を見て書き写す。		○			自分の履歴書等日常生活に必要な諸届けを手本を見て書き写す。		○			自分の履歴書など日常生活に必要な書類を様式に従って正しく書く。		○		
	手紙の目的に応じ筆記用具を使い分けて書く。				○	必要な内容を考えて、招待状や案内状を書く。				○	相手のことを考えて、招待状や案内状を書く。				○

社会

領域	段階()	設	情	意	人	段階()	設	情	意	人	段階()	設	情	意	人
集団生活の役割・責任	時と場所にに応じて、適切な言葉や態度で対応する。				○	自他の立場をわきまえて、適切な言葉や態度で対応する。				○	社会の一員としての意識をもち、行動する。				○
	困ったとき、分からないときは、人に尋ねたり、教えてもらったりして、目的を果たす。		○			必要に応じて人に尋ね、用件を果たす。		○							
	友だちが困っているのを見たときは、手助けをする。				○	いろいろなボランティア活動に参加する。				○					
	身近な問題を仲間と話し合い、自分の意見も述べる。				○	身近な問題をグループで討議し、自分の意見をはっきり述べる。				○	いろいろな問題をグループで討議し、全体の流れの中で、自分の意見をまとめ、述べる。				○
	学校や学級の行事などで、役割を分担して仕事をする。	○				学校や学級の行事などで、自分の役割をもち、責任を果たす。				○	学校や学級の行事などで、友だちと協力し自分の役割を果たす。				○
	他の人の迷惑にならないように行動する。				○	相手や自分の立場を考えた行動をする。				○	相手の立場を考え、協力して行動する。				○
公共施設	公衆電話のかけ方を知り、利用する。		○			電話の対応の仕方を知り、利用する。		○							
	警察署、消防署、保健所、病院などの働きと自分たちとの生活との関係を知る。		○			警察署、消防署、保健所、病院などの働きを知り、必要に応じて利用する。		○							
	郵便局の働きを知り、切手やはがきを買ったり、郵便物を出す。		○			郵便局や銀行などの働きを知り、キャッシュカード等を使って利用する。		○			郵便局や銀行などの働きを知り、目的に応じて利用する。		○		
	校内電話や公衆電話の応答になれる。		○			交通機関の働きを知り、利用する。		○			複数の交通機関を適切に乗り継いで、目的地に行く。		○		
社会の出来事・社会的事象	年賀状、暑中見舞い状などの手紙のやりとりをする。				○										
	生徒会の役員選挙に関心をもち、積極的に参加する。		○			選挙の意味がだいたい分かり、市町村などの選挙に関心をもつ。		○			選挙の意味を理解し、市町村や国などの選挙に関心をもつ。		○		
	生産者や消費者をつなぐ商店、市場などの働きを知る。		○			生産者と消費者との結び付きを知る。		○			生産、消費などの流通の仕組みを知る。		○		
	農業、林業、漁業などと自分たちとの生活とのつながりを知る。		○			いろいろな産業と自分たちの生活との関係を知る。		○			主な産業の製品が分かり、輸出入との関係を知る。		○		
	主な職業の種類と内容を知る。		○			職業の種類を知り、どの職業も社会に必要なことがわかる。		○							
	工場などで物を作る様子を知る。		○			地域産業の製品を知る。		○							
	勤労に対して報酬が得られることを知る。		○			多くの人々の働く様子を知り、労働と収入の関係を理解する。		○			労働と収入の関係を理解し、勤労が生活に必要なことを知る。		○		
地域の様子と社会の変化	日常生活で使う水、電気、ガスなどの働きを知り、大切に使う。		○			水道、電気、ガスなどの事業や廃棄物の処理について知る。		○			水道、電気、ガスなどの事業や廃棄物の処理について考え、環境との関係を知る。		○		
	地域のいろいろな商店を知り、利用する。		○												
	学校周辺の道路や建物を知る。		○			学校が所在する市町村の主な道路や建物などを知る。		○							
	自分の住んでいる地域の地形などの特徴を知る。		○			日本の主な山脈、河川及び平野などを知る。		○			日本や世界の地形の特徴を知る。		○		
	簡単な絵地図や交通の路線図などが分かる。		○			簡単な地図、交通の路線図などを作り、地理について理解する。		○			地図や交通路線図を見て、目的地に行く。		○		
外国の様子	地図を見て、自分の住んでいる県の位置や世界の主な国の位置を知る。		○			地図を見て、自分が住んでいる県や市、世界の国々の位置がわかる。		○			地図や地球儀を見て、日本と世界の国々の位置や位置関係を知る。		○		
	昔の人々の生活の様子について関心をもつ。		○			昔の人々の生活の様子を知り、その特徴が分かる。		○			昔の人々の生活の様子と現在を比較し、その移り変わりを知る。		○		
	新聞、テレビなどを通して、日本や世界の主な出来事に関心をもつ。		○			時事問題に関心をもち、その内容を知る。		○			時事問題に関心をもち、日本や外国の政治経済のおおよその状況や流れを知る。		○		

数学

領域	段階()	設	情	意	人	段階()	設	情	意	人	段階()	設	情	意	人
数と計算	大きな数を数えたり、数字を読んだり、書いたりする。		○			生活の中で必要な数を数えたり、数字を読んだり、書いたりする。		○			生活の中で、大きな数を工夫して数えたり、大きな数字を正確に読んだり書いたりする。		○		
	加法や減法の計算をする。		○			生活の中でいろいろな計算をする。		○			数式を活用し、生活の中で必要ないろいろな計算をする。		○		
	簡単な乗法や除法の意味がわかり、初歩的な計算をする。		○					○			小数の意味がわかり、割合や％などを生活の中で使う。			○	
	計算機を使わずに、簡単な計算をする。		○			必要に応じて計算機を使って計算する。		○			買い物の際、計算機を活用して割引や消費税の計算をする。		○		
量と測定	長さ・重さ・容積を表す単位が分かり、ものさしやはかりなどの扱いに慣れる。		○			単位の関係が分かり、測定用具を利用し、生活の中でいろいろなものを測定する。			○		生活の中で表示されている単位を理解し、適切な測定用具を選び正しく測定する。			○	
	温度計や体温計の目盛りを読む。		○						○					○	
図形・数量関係	正方形・長方形・正三角形・直角三角形などのおおよその特徴が分かる。		○			正方形・長方形・正三角形・直角三角形・円・辺・頂点・直角などが分かり、それらの言葉を正しく		○			いろいろな図表やグラフを正しく読んだり書いたりし、生活の中で活用する。			○	
	コンパスなどを使って、簡単な図形を書く。		○			定規やコンパスなどを使って、いろいろな図形を書く。		○						○	
	棒グラフを読んだり書いたりする。		○			いろいろな図表やグラフを読んだり書いたりする。		○						○	
実務	時刻を読んだり、簡単な時間の計算をしたりする。		○			乗り物などの時刻表を読み、待ち時間などが分かる。		○			乗り物などの時刻表を読んで、通学や旅行の計画をたてる。	○			
	日課表や時刻表を読む。		○					○							
	暦のおおよそのしくみが分かり、その扱いに慣れる。		○			生活の中で時計や暦を利用し、時間や日数の計算をする。		○			時刻や暦を使って予定を立てるなど、生活の中で活用する。			○	
	買い物などをし、支払いに必要な簡単なお金の計算をする。			○		金銭に関する実務が分かり、生活の中で使う。			○		収入や支出など金銭に関する事項が分かり、出納帳などを生活の中で活用する。			○	

理科

人 体	人体を構成する目、耳、頭、手、足などの名称を知り、そのつくりや働きに関心をもつ。		○			人を構成する目、耳、鼻、頭、口、手、足、指、爪などの名称を知り、そのつくりや働きが分かる。		○			人体を構成する目、耳、鼻などのほかに、脳、神経、骨格、筋肉組織、内分泌器官、血液などの名称を知り、そのつくりや働きが分かる。		○		
	肺、心臓、胃腸などの器官のおおよそのつくりや働きに関心をもつ。		○			肺、心臓、腎臓、胃、小腸、大腸、肝臓などの器官のおおよそのつくりや働きが分かる。		○			思考する、感じる、姿勢を制御する、性徴を示すなどの脳やホルモンのおおよその働きが分かる。		○		
	主な病気やけがなどの原因やおおよその症状が分かる。		○			主な病気やけがの原因、症状を知り、予防に関心をもつ。		○			主な病気やけがの原因、症状を知り、適切に予防する。	○			
	病気に関係するカビや細菌などについて関心をもち、消毒の働きや予防の意味が分かる。		○			病気に関係するカビや細菌などについて知り、消毒や予防の意味が分かる。		○			病気に関係する細菌やウィルスなどについて知り、日常生活で予防したり、消毒したりする。			○	
	日常用いる主な医薬品の使い方が分かる。		○			主な医薬品の使い方が分かり、簡単な処置をする。		○			主な医薬品の使い方が分かり、適切に使用する。	○			
	日常の食品と栄養との関係に関心をもつ。		○			食品の栄養と健康との関係が分かる。		○			食品の栄養と健康との関連を知り、食生活に役立てる。			○	
	温度、湿度、照度などと健康との関係に関心をもつ。		○			温度、湿度、照度などと健康との関係が分かる。		○			温度、湿度、照度などと健康との関係が分かり、日常生活に役立てる。			○	
	有害な食品や公害などに関心をもつ。		○			有害な食品や公害などについての初歩的な知識をもつ。		○			有害な食品や公害などについての初歩的な知識をもち、日常生活に役立てる。			○	
生 物	身近にある主な植物の名称を知り、成長の様子や活動の仕方などに関心をもつ。		○			身近にある主な植物の名称を知り、成長の様子や活動状況などが分かる。		○			身近にある植物の名称や特徴が分かり、大切に育てる。			○	
	発芽した植物の成長、開花や落葉などの植物の変化に関心をもつ。		○			身近な野菜や果物などの名称を知り、人々の生活との関係が分かる。		○			植物の生育に適した自然環境が分かり、栽培に役立てる。			○	
	身近な植物に集まる昆虫などの名称を知り、活動の様子に関心をもつ。		○			身近な植物に集まる昆虫などの成長の様子と季節との関係が分かる。		○			植物に集まる昆虫が、植物の成長に役立っていることを知り、植物と昆虫の大切な関係が分かる。		○		
	身近にいる動物の習性や成長の様子などに関心をもつ。		○			身近にいる動物の習性や成長の様子などが分かり、大切に世話をする。			○		身近にいる動物の習性や特徴が分かり、大切に飼育する。			○	
	身近な小動物を飼育したり、観察したりして、幼生期からの成長に関心をもつ。		○			身近な家畜の名称を知り、餌になる植物や人々との生活の関係が分かる。		○			動物の生存に適した生育環境を知り、飼育に役立てる。			○	
事 物 や 機 械	日常生活でよく使う道具や機械などの主な仕組みや働きに関心をもち、使用する。			○		日常生活でよく使う道具や機械などの働きや使い方が分かり、使用する。			○		大型機械・器具などの働きや使い方が分かり、安全に取り扱う。			○	
	日常生活でよく使う電気製品の主な仕組みや働きに関心をもち、使用する。			○		日常生活でよく使う電気製品の主な仕組みや使い方が分かり、使用する。			○		電気工具などの仕組みを知り、安全に取り扱う。			○	
	衣、食、住に関する物品や道具などの名称を知り、それらの働きに関心をもつ。		○			衣、食、住に関する物品や道具などの名称、性質、働きや使い方が分かり、使用する。			○		衣、食、住に関する物品や道具などの名称、性質、働きや使い方が分かり、適切に取り扱う。			○	
	乗り物などの仕組みや働きに関心をもつ。		○			乗り物などの仕組みや働きが分かる。		○			乗り物などのエンジンの仕組みや働きが分かり、適切に利用したり、取り扱ったりする。			○	
	日常生活でよく使う光学製品の仕組みや働きに関心をもち、使用する。			○		日常生活でよく使う光学製品の仕組みや働きが分かり、使用する。			○		光学製品の仕組み、働き、使い方が分かり適切に取り扱う。、			○	
	文房具や事務用品の主な仕組みや働きに関心をもち、使用する。			○		文房具や事務用品などの仕組み、働き、使い方が分かり、使用する。			○		事務機器、コンピュータなどの初歩的な仕組み、働き、使い方が分かり、適切に取り扱う。			○	
	日常生活でよく使う石鹸や洗剤の性質や働きに関心をもち、使用する。			○		日常生活でよく使う石鹸、洗剤、漂白剤、殺虫剤などの性質、働き、使い方が分かり、使用する。			○		洗浄用石鹸や合成洗剤、殺虫剤などの化学製品の性質、働きや使い方が分かり、適切に取り扱う。			○	
	砂糖や塩などの調味料、サラダ油や天ぷら油などの食用油の性質や使い方に関心をもち、使用する。			○		ガソリンや灯油、潤滑油の性質や使い方が分かり、安全に使用する。			○		灯油や潤滑油、揮発油などの性質や使い方が分かり、安全に取り扱う。			○	
	プロパンガスや都市ガスなどの性質やガス器具の働きや使い方に関心をもち、使用する。			○		ガスの性質やガス器具の働きや使い方が分かり、安全に使用する。			○		ガスの性質やガス器具の働き、仕組み、使い方などが分かり、安全に取り扱う。			○	
自 然	日常生活でよく使う金属、プラスチックガラスなどの製品の性質や用途に関心をもち、使用する。			○		日常生活でよく使用する金属、プラスチック、ガラスなどの製品の性質や用途が分かり、使用する。			○		金属、プラスチック、ガラスなどの製品の性質や用途を知り、日常生活で適切に取り扱う。			○	
	日常生活でよく使う機械・器具の正しい使用法や保管の仕方などが分かり、安全に使用する。			○		身近な機械・器具の他に内燃機関を用いた機械・器具の正しい使用法や保管の仕方などが分かり、安全に使用する。			○		内燃機関を用いた大型機械・器具の正しい使用法や保管の仕方などが分かり、安全かつ効率的に使用する。			○	
	日常生活でよく触れる水や土などの性質に関心をもつ。		○			日常生活でよく触れる水や土などの主な性質が分かる。		○			水、空気、土などの性質と日常生活との主な関係が分かる。		○		
	太陽、月、星などの天体についても関心をもつ。		○			太陽、地球、月、惑星、恒星などの天体についての初歩的な知識をもつ。		○			太陽、月、星などの天体の動きや太陽と地球及び月の位置に関係する主な特徴が分かる。		○		
	季節による気象の変化や特徴に関心をもつ。		○			季節による気象の変化や災害などの主な特徴が分かる。		○			季節による気象の変化や災害などの特徴を知り、生活に役立てる。			○	
	地震や火山活動などに関心をもつ。		○			地震や火山活動、災害などに関する初歩的な知識をもつ。		○			地震や火山活動などに関する知識をもち、災害防止及び避難に役立てる。			○	
	海、山、川などの自然のありさまに関心をもつ。		○			海、山、川などの自然のありさまやおよその働きが分かる。		○			海、山、川などの自然のおおよその働きと日常生活との主な関係が分かる。		○		
	身近な自然の変化と日常生活との結び付きに関心をもつ。		○			自然の変化と日常生活との結び付きが分かる。		○			自然の変化と日常生活との結び付きが分かり、生活に役立てる。			○	

美術

表現	興味を持って造形活動に取り組み、工夫する楽しさを感じることができる。	○			根気強く造形活動に取り組み、自分の作品を完成させることができる。	○			ていねいに造形活動に取り組み、完成した自分の作品を大切にすることができる。	○			
	見たこと、感じたこと、想像したことを工夫して絵や立体に表すことができる。		○		見たこと、感じたこと、想像したことを材料や技法を生かして絵や立体に表すことができる。		○		見たこと、感じたこと、想像したことをもとに構想を練り、材料や技法の特性を生かして絵や立体に表すことができる。		○		
	生活を楽しく豊かにするものを工夫して作り上げることができる。		○		生活を楽しく豊かにするものを材料の性質や用具の扱い方を理解して作り上げることができる。		○		生活を楽しく豊かにするものを経験をもとに構想を練り、材料の性質や用具の機能を生かして作り上げることができる。		○		
	目的や条件に応じて自ら考えて作品に表すことができる。	○			目的や条件をいろいろな角度から理解し、発想豊かに表すことができる。	○			目的や条件をもとに構想を練り、計画的に制作を進め自分の作品として表すことができる。	○			
材料・用具	(絵画・全般) 鉛筆を使用し観察や想像で描くことができる。		○		(絵画・全般) 水彩絵の具を使用して輪郭線内の彩色ができる。		○		(絵画・全般) 下描きの線を生かし、水彩絵の具で彩色ができる。		○		
	(絵画・絵手紙) 題材を決め、観察や想像で鉛筆で下描きができ、割り箸ペンや筆などでそのまま描くことができる。			○	(絵画・絵手紙) 下描きを元に割り箸ペンや筆で輪郭を描くことができる。顔彩や絵の具で輪郭線内の彩色ができる。		○	○	(絵画・絵手紙) 題材に合った文章を考え絵に書き入れ、顔彩の特性を生かして輪郭線内の彩色ができる。		○	○	
	(版画) 題材を決め、観察や想像で下絵作りができる。道具を使い紙版画、木版画の版作りができる。			○	(版画) 仕組みを理解し作った下絵を版に写し取ることができる。道具を使い一版多色木版画、ドライポイントの版作りができる。		○	○					
	(彫塑) 目的を知り、粘土を使い彫塑の作品として表すことができる。		○		(彫塑) 題材に合わせて立体(前、横、後ろから見ることができる)の形を表し作品にすることができる。		○		(彫塑) 感じ取った量感(ボリューム)や動勢(ムーブメント)などの表現の工夫ができる。		○		
	(工芸・革) 材料とその性質を知り構想を練ることができる。道具の使い方を知り制作を進めることができる。		○		(工芸・革) 材料の性質を理解し、濡らした革に刻印を打ち込み、連続や組み合わせの模様を表すことができる。単色で染めることができる。穴かがりができる。		○		(工芸・革) 道具の使い方を理解し、構想に従って連続や組み合わせの模様を表すことができる。下染め、本染めを行い重ね染めができる。		○		
	(工芸・陶芸) 材料とその性質を知り陶芸の作品としてまとめることができる。目的を知り機能を考えて制作を進めることができる。		○		(工芸・陶芸) 手びねりの技法を知り、玉作りひも作りで器を作ることができる。作品を手で持ちだぶ漬けで釉薬を掛けることができる。	○	○		(工芸・陶芸) たたら作りの技法を知り、構想に従って芯に粘土板を巻いたり、組み立てたりすることができる。道具を使い釉薬を掛けることができる。	○	○		
	(工芸・染色) 材料と作品の使用目的に合わせて構想を練ることができる。安全に注意して染色ができる。			○	(工芸・染色) 絞り染めの技法を知り、下準備ができる。染色を行い、ていねいに補助具を外すことができる。安全に注意を払いアイロン掛けができる。		○	○	(工芸・染色) 構想を練り日常生活で使用するものを染めることができる。出来上がりを予想して絞り染めとはさみ染め技法を使って染めることができる。		○	○	
鑑賞	(工芸・プラスチック・プラ板) 材料とその性質を知り構想を練ることができる。道具の使い方を知り制作を進めることができる。		○		(工芸・プラスチック・プラ板) 安全に注意しながら機械用具を使い材料を曲げたり、縮めたり、接着したりと加工や組み立てができる。		○		(工芸・プラスチック・プラ板) 図柄の下描きや設計図、展開図を描いて構想を練り日常生活で使用するものをプラスチックで作ることができる。		○		
	参考作品や友達の作品を鑑賞して、それらの良い面を感じ取り、自分の造形活動に生かしていることができる。	○		○	教科書に紹介されている絵画や工芸作品を鑑賞して、それらの良い面を感じ取り、自分の造形活動に生かしていくことができる。	○		○	教科書の作品を鑑賞し、それらの良い面を感じ取り、有名な芸術家の作品とその生活を知り自分の造形活動や生活に生かしていくことができる。	○		○	

職業

職業に関する基礎的な知識・職業に関する知識	身近な品物がどのように作られるか職場見学で知る。		○			職場などの見学で製品の生産工程を知る。		○			職場などの見学で、製品の生産工程や流通について知る。		○		
	物を作るために、多くの人々が仕事を分担し、協力していることを知る。	○				生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任をもって働いていることを知る。	○				生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任をもって働くことの意義が分かる。	○			
	家族や先輩の職業に関心をもち、自分の住んでいる地域にどんな職業の種類があるかを知る。		○			いろいろな職場に関心をもち、知識を深める。		○			職場には様々な仕事があり、それぞれが関連していることを知る。		○		
	会社などで働いている人々の様子を見て、卒業後の生活について関心をもつ。	○		○		働くことの大切さや厳しさを知り、卒業後の生活に自覚をもつ。	○		○		働くことの意義を自覚し、卒業後の職業生活に見通しをもつ。	○		○	
	自分の能力や適性などがある程度分かり、進路について関心をもつ。	○				自分の能力や適性などを理解し、進路について決める。			○		自分の個性や能力が発揮できる職業を知る。		○		
	公共職業安定所、福祉事務所などの役割と利用の仕方に関心をもつ。		○			公共職業安定所、職業センター、福祉事務所などの役割が分かり、利用の手続きや方法に関心をもつ。	○				どんなときに公共職業安定所、職業センター、福祉事務所などを利用するかが分かり実際に利用する。			○	
						職業についてからも、たえず職業的能力を高めようと努めることの大切なことが分かる。		○			職業についてから職業的能力を高める方法が分かる。		○		
						職場の組織や機構について関心をもつ。	○				職場の機構が分かり、職場では組織の一員として働くことを理解する。	○			
						労働と報酬との関係が分かる。	○				労働の時間や内容と報酬が関係していることを理解する。	○			
						給料の使い方を知る。	○				労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件が分かり、進路選択の参考にする。	○			
						労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について知る。		○			職業生活をする上で、健康保険、労働保険、年金などが大切であることを理解する。		○		
						健康保険、労働保険、年金などの制度のあらましを知る。		○			労働災害や職業病などから身を守る方法を知る。		○		
						労働災害や職業病などについて知る。		○							
産業現場等における実習	いろいろな交通機関の利用の仕方について関心をもつ。		○			職場までの交通機関の利用の仕方について知る。		○			職場までの通勤方法や定期券などの購入方法を知る。		○		
	産業現場等における実習の意味を理解して、仕事をする。			○		産業現場等における実習の意味を理解し、進んで仕事をする。			○		産業現場等における実習に積極的に参加し自己の進路選択に役立てる。			○	
	実習先でのいろいろな決まりを守る。				○	実習をする場でのいろいろな決まりを守る。				○	実習をする場での決まりを理解し、決まりを遵守する。				○
	仕事に関する自分の分担を理解して行う。	○				仕事に関する自分の分担に責任をもって最後までやりとげる。	○				仕事に関する自分の分担を理解し、効率よく仕事を最後までやりとげる。	○			
	実習の場面に応じて、人と協力して仕事をする。				○	実習の場面に応じ、すすんで人と協力する。				○	実習の様々な場面での役割を理解し、すすんで人と協力する。				○
						実習中の健康と安全に注意する。		○			実習中の健康管理と安全確保の方法が分かり、実践する。			○	
						生産した物が、社会でどのように利用されているかを理解する。		○			実習先の製品の流通、消費などを理解する。		○		
健康管理・余暇	休憩時間や自由時間大切な時間であることが分かる。	○				翌日の体調を考慮した睡眠時間の確保、決められた休憩時間の活用、食事の取り方など健康管理の方法を知る。	○				休憩時間の使い方や、休日の過ごし方を計画する。	○			
	自分の趣味、テレビ、音楽、ゲームなどを楽しんだり、休日に地域の公共施設を使ったり、買い物などをして過ごす。	○				休憩時間や休日の適切な過ごし方を知る。	○				職場での旅行会やサークルの参加方法や厚生施設の計画的な利用方法を知る。	○			
	卒業後、学校と連絡をとったり、同窓会などに参加したりすることの意味が分かる。	○				職場でのサークル、厚生施設などの利用方法を知る。	○								

家庭科

家庭の役割	家庭内における家族の立場や役割を理解する。				○	家庭の仕事を分担し、家族の一員としての自覚をもつ。				○	家庭の仕事を分担し、家族の一員として役割をすすんで果たす。				○	
	家庭内における仕事の種類や分担が分かり、手伝いをする。				○											
	家族のだんらんに参加する。				○	家庭のだんらんを楽しむ。				○	家族のだんらんに参加し、家族におもいやりの心をもつ。				○	
	乳幼児や老人に優しく接し、世話や手伝いをする。				○	結婚の意味が分かる。				○	両性の合意等結婚の基本的事項について理解する。				○	
						妊娠、出産について理解する。				○						
						グループホーム等、いろいろな生活形態を知る。	○				いろいろな生活形態についての理解を深める。	○				
消費と余暇						冠婚葬祭について知る。				○	冠婚葬祭についての知識を深める。				○	
	値段の高い安いを知り、上手な買い物をする。				○	予算をたてて、計画的に買い物をする。				○	現金購入、分割購入の違いが分かり、物品の計画的購入の大切さを理解する。		○			
	むだ使いをしないで預金・貯金をする。				○	プリペイドカード、キャッシュカードなどの利用の仕方が分かり、必要に応じて利用する。		○			家計の収入、支出状況についてだいたい知り、家庭の経済計画に協力する。		○			
	簡単な金銭収支を記録する。	○				レシート、領収書などの内容を読み取り、家計簿に記録する。	○				予算生活の必要性を理解し、計画的に預金・貯金をする。	○				
	一日の生活に見通しをもち、予定を立てて生活する。	○				生活時間を考え、時間の有効な使い方を工夫する。	○				余暇や休日の計画を立てて有効に過ごす。				○	
	テレビ、音楽、ゲームなどを、家族や友達と一緒に楽しむ。				○	スポーツ、音楽、飼育・栽培などの趣味をもち、生活を楽しむ。				○						
	余暇や休日を楽しむ過ごす。				○											
	来客への対応や、親戚や友だちの家への訪問の仕方を知る。					○	親戚や友だちの家を訪問したり、来客の応対したりする。				○	礼儀正しく訪問したり、来客の応対をしたりする。				○
						卒業後の生活を支援してくれる人たちのことを知る。				○	卒業後の生活を支援してくれる人たちとのつながりを深める。				○	
						相談場所や緊急連絡先について知る。					相談場所や緊急連絡先について利用してみる。					
家庭生活に関する事項	いつも清潔な衣服を着る。				○	すすんで清潔な衣服を着る。				○	流行を取り入れながら、自分の体にあった衣類などを選ぶ。				○	
						季節、温度、場所にに応じた服装をする。				○						
	自分で身なりを整え、簡単な日常着などの手入れをする。				○							必要に応じクリーニング店を利用する。		○		
	洗たく用具器具、洗剤の使い方などが分かり、簡単な日常着などを洗たくする。				○	衣類などの材料や汚れに応じた洗いが分かり、洗たくする。				○		衣類などの整理や保管の仕方が分かる。		○		
	簡単なものにアイロンを掛ける。				○	布地の性質に合わせ、アイロン仕上げをする。				○						
	ボタンなどを付ける。				○	まつり縫いや返し縫いができ、衣服のほつれなどを直す。				○	一人で衣服の簡単な補修をする。				○	
	布、針、糸を使って基礎縫いをする。				○											
	ミシンの使い方が分かり、直線縫いをする。				○	ミシンを使って、簡単な小物や袋物などを縫う。				○	寸法や型紙のとり方が分かり、簡単な衣服などの製作をする。				○	
	キットを使って、簡単な手芸品を作る。				○	型紙に合わせて裁断し、小物や袋物などを作る。				○	手芸品を作り、日常の生活に生かす。				○	
	簡単な食品名や料理の名前が分かる。				○											
	栄養を考え、いろいろな食品を組み合わせて調べる。				○	栄養素及びその働きを知り、いろいろな食品を組み合わせて食べる。				○	一日に必要な食物の量や栄養が分かり、バランスの良い食事をする。				○	
	加工食品、半加工食品について知り、利用する。				○	食品製造年月日、賞味期間などを見て、新鮮なものを選ぶ。				○	添加物などに注意して、食品を選ぶ。				○	
	食品の変質について知り、保存の仕方が分かる。				○						食中毒について知り、食品衛生に注意する。				○	
	冷蔵庫の使い方を知る。				○	冷蔵庫、冷凍庫を適切に使用する。				○	値段や鮮度を考えて、材料を取りそろえる。				○	
	食品、食器などの衛生に気をつける。				○	衛生に気をつけ、洗剤、消毒剤などを適切に使う。				○						
	主食、主菜、副菜などについて知る。				○	日常よく使用されている食品を使って、簡単な献立をたてる。				○	日常食の献立をたてる。				○	
	献立に合わせ、必要な材料をとりそろえる。				○	献立に合わせ、必要な材料の買い物をする。				○						
	食品の洗い方、切り方が分かり、簡単な調理をする。				○	食品の洗い方、切り方、加熱の仕方、味の付け方が分かり調理する。				○	食品の洗い方、切り方、加熱の仕方、味の付け方を工夫し、手順よく調理する				○	
	主な調味料の使い方が分かる。				○	献立にみあう調味料を適量使う。				○	自分の好みに合わせて調味料を適切に使う。				○	
	盛り付けや配ぜんをする。				○	彩りや量を考え、適切な器に盛りつける。				○	盛り付けや配膳を工夫し、手ぎわよくする。				○	
	食事の準備や後片付けをする。				○	手順を考えながら、食事の準備や片づけをする。				○	食事の準備や後片付けを手順よくする。				○	
	調理室の簡単な整理・整とんをする。				○	調理室の整理・整とんをし、清潔にする。				○						
	写真や見本を見て、食事の注文をする。				○	献立表を見て、食事の注文をする。				○	食堂やレストランで、自分で注文し、作法を守って楽しく食事する。				○	
	作法を守って楽しく食事をする。					○	食堂、レストランでの食事の作法を知る。				○					
	自分の持ち物を整理・整とんする。				○	自分の持ち物を工夫して整理・整とんする。				○						
	住まいの簡単な手入れや、室内の飾り付けなどの手伝いをする。				○	住まいの簡単な手入れや、室内の飾り付けを工夫する。				○						
	部屋の換気、採光、照明の仕方を知り、調節する。				○	部屋の換気、採光、照明の仕方を知り、健康な住まい方を工夫する。				○						
	照明器具、冷・暖房器具などを安全に取り扱う。				○											
	清掃用具、掃除機などを使って住居を清潔にする。				○	家庭内の整理・整とんや清掃などを行い、気持ちのよい住まい方を工夫する。				○						
	指示に従って、ごみを分別する。				○	決まりに従って、ごみを分別し、適切に処理する。				○	生活の中で、ごみを減らす工夫をしたり、リサイクルしたりする。				○	
	家庭内のいろいろな危険物を注意して取り扱う。				○	家庭内のいろいろな危険物を注意して扱い、危険な場合は適切な処理をする。				○						
	掃除用の洗剤、殺虫剤などを安全に扱う。				○	掃除用の洗剤、殺虫剤などの使用法を知り適切に扱う。				○						
	戸じまり、防火などの大切さを知り、事故の場合に人に知らせる。				○	戸じまり、防火などに注意し、事故の場合に適切な連絡をする。				○						
	地震、台風、洪水などのときには、指示に従って行動する。				○	災害に対する日頃の備えや避難方法などが分かる。				○	地震、台風、洪水などの時には、適切に行動する。				○	
道具や器具											ミシンの使い方に慣れ、いろいろなものを縫う。				○	
											冷蔵庫、冷凍庫などを適切に使用し、食品の保存、管理をする。		○			
	調理用具などを安全に扱う。				○	調理用具の種類、用途を知り、適切に扱う。				○	調理用具の手入れ、管理をする。			○		
	電気器具、ガス器具、石油器具などの扱い方に慣れる。				○	電気器具・ガス器具・石油器具などを適切に扱う。				○	電気器具・ガス器具・石油器具などの手入れ、管理をする。				○	
						照明器具・冷暖房器具などを適切に使う。				○	照明器具、冷暖房器具などの手入れ・補修の仕方を知る。				○	
保育や家庭看護											防犯ベル、火災報知器、消化器などの正しい取り扱い方を知る。				○	
						簡単な家庭常備薬と、家庭看護用品を正しく使う。				○	乳幼児や老人の簡単な世話や看護をする。					

付帯資料 4 - 6 キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容一覧(専門教科・共通)

下線のある内容は、複数の能力育成につながる内容であることを示す。

○働くことの意義(働くことの意義、挨拶・返事・報告、みだしなみ、注意・指示の理解、約束・きまり、意欲)

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐ <u>周囲の人が働いていることに 関心をもち、仕事に参加する。</u> ☐ <u>積極的に取り組む仕事は複数 ある。</u>	☐ <u>周囲の人が働いていることに 関心をもち、仕事に参加する。</u> ☐ 指示をよく聞き、おおよその ことを理解できる。 ☐ <u>積極的に取り組む仕事は複数 ある。</u>	☐ <u>清潔な服装を心がけている。</u> ☐ 約束・きまりは大体守る。	☐ いつでも誰にでも挨拶する。 ☐ 大きな声ではっきりと返事を する。 ☐ あやまりを素直に認め「ごめ んなさい」と謝れる。 ☐ 担当の仕事が終わった後に 「終わりました」と報告できる。 ☐ <u>清潔な服装を心がけている。</u> ☐ <u>積極的に取り組む仕事は複数 ある。</u>
段階	☐ <u>周囲の人々が働きながら生活 していることを知り、働く喜び を知り、進んで仕事に参加する。</u> ☐ <u>どんな仕事にも積極的に取り 組む。</u>	☐ <u>周囲の人々が働きながら生活 していることを知り、働く喜び を知り、進んで仕事に参加する。</u> ☐ 指示をきちんとよく聞き、正 しく理解できる。 ☐ <u>どんな仕事にも積極的に取り 組む。</u>	☐ <u>いつも清潔できちんとしてい る。</u> ☐ 約束・きまりは必ず守る。	☐ 笑顔で、相手よりも先に挨拶 する ☐ 担当が仕事が終わった時に報 告と次の仕事の確認ができる。 ☐ <u>いつも清潔できちんとしてい る。</u> ☐ <u>どんな仕事にも積極的に取り 組む。</u>
段階	☐ <u>働くことの意識が分かり、積 極的に仕事をする。</u> ☐ <u>より良い仕事をしようという 向上心を持って取り組む。</u>	☐ <u>働くことの意識が分かり、積 極的に仕事をする。</u> ☐ 注意・指示をきちんとよく聞 き、不明な部分は聞き直すなど して、間違いなく正しく理解で きる。 ☐ <u>より良い仕事をしようという 向上心を持って取り組む。</u>	☐ <u>仕事に適した服装(安全面等 を考慮して)を考えられる。</u>	☐ 言われなくても、自分の次の 仕事を見つけて動くことができ る。 ☐ <u>仕事に適した服装(安全面等 を考慮して)を考えられる。</u> ☐ <u>より良い仕事をしようという 向上心を持って取り組む。</u>

○ 道具や機械（材料名・道具名の理解、安全、道具の手入れ、材料・道具の準備と整理整頓、材料の扱い、後かたづけ）

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		☐ 担当する部分で使用する材料名・道具名を理解する。 ☐ 作業に必要な簡単な道具や工具を安全に使う。 ☐ 道具・機械などの簡単な手入れをする。 ☐ <u>材料や道具などの準備をする。</u> ☐ 材料・道具などの整理整頓をする。 ☐ 材料・道具などを大切に扱う。 ☐ 道具や材料などの後かたづけをする。	☐ <u>材料や道具などの準備をする。</u>	
段階		☐ 担当する作業の全行程で使用する材料名・道具名を理解する。 ☐ 作業に必要ないろいろな道具や機械などのしくみを理解し、安全に正しく使う。 ☐ 道具・機械などの手入れや簡単な補修をする。 ☐ <u>その日に必要な作業の材料・道具を確認し、準備する。</u> ☐ 材料や製品、収穫物の保管、管理をきちんとする。 ☐ 材料・道具を目的に沿い、細心の注意を払って扱う。	☐ <u>その日に必要な作業の材料・道具を確認し、準備する。</u>	
段階		☐ コースの作業で使用する材料名・道具名を理解する。 ☐ 作業内容と使用する道具や機械のしくみの関係が分かり、道具や機械を安全に正しく使う。 ☐ 道具や機械などを点検し、日常的な手入れや簡単な修理をする。 ☐ <u>その日に必要な作業の材料・道具を確認し、準備する。</u> ☐ 材料や製品、収穫物のそれぞれの特徴を理解して整理し、決められた場所に保管する。	☐ <u>無駄がでないように適切な量を見通して、材料等を準備する。</u>	

○作業工程（工程の理解、作業の丁寧さ、作業の確実性、作業の持続性、作業のスピード、作業の効率）

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐ <u>担当する部分の工程を理解して仕事に取り組む。</u> ☐ <u>担当する作業に根気よく、持続して取り組む。</u>	☐ <u>担当する部分の工程を理解して仕事に取り組む。</u>	☐ <u>担当する部分の工程を理解して仕事に取り組む。</u> ☐ 担当する作業を丁寧に行う。 ☐ 担当する作業を誤りなく、確実に行う。 ☐ <u>担当する作業に根気よく、持続して取り組む。</u> ☐ 担当する作業を素早く進める。 ☐ 担当する作業を効率よく進める工夫をする。	
段階	☐ <u>担当する製品作りの工程全体を理解して仕事に取り組む。</u> ☐ <u>担当する工程全体の作業に根気よく、持続して取り組む。</u>	☐ <u>担当する製品作りの工程全体を理解して仕事に取り組む。</u>	☐ <u>担当する製品作りの工程全体を理解して仕事に取り組む。</u> ☐ 担当する工程全体の作業を丁寧に行う。 ☐ 担当する工程全体の作業を誤りなく、確実に行う。 ☐ <u>担当する工程全体の作業に根気よく、持続して取り組む。</u> ☐ 担当する工程全体の作業を素早く進める。 ☐ 担当する工程全体の作業を効率よく進める工夫をする。	
段階	☐ <u>担当する製品作り以外の工程も理解し、仕事に取り組む。</u> ☐ <u>どの作業でも根気よく、持続して取り組む。</u>	☐ <u>担当する製品作り以外の工程も理解し、仕事に取り組む。</u>	☐ <u>担当する製品作り以外の工程も理解し、仕事に取り組む。</u> ☐ どの作業でも丁寧に行う。 ☐ どの作業でも誤りなく、確実に行う。 ☐ <u>どの作業でも根気よく、持続して取り組む。</u> ☐ どの作業でも素早く進める。 ☐ どの作業でも効率よく進める工夫をする。	

○役割・協力（役割、確認、協力）

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐ コースでの係や役割を意識して取り組む。 ☐ <u>仲間と協力して仕事をする。</u>	☐ <u>仕事について分からないことは教師に尋ねる。</u>	☐ <u>仕事について分からないことは教師に尋ねる。</u>	☐ <u>仲間と協力して仕事をする。</u>
段階	☐ コースでの係や役割について責任を持って、自分から取り組む。 ☐ <u>仲間と協力して仕事をする。</u>	☐ <u>仕事について分からないことは自分から進んで尋ねる。</u>	☐ <u>仕事について分からないことは自分から進んで尋ねる。</u>	☐ <u>仲間と協力して仕事をする。</u>
段階	☐ コースでの係や役割について、責任を持って最後までやり遂げる。 ☐ 他と自分の仕事の進度を比べ、周りに協力したり、遅れを自ら取り戻す努力をする。 ☐ <u>仲間と協力して効率よく仕事をする。</u> ☐ <u>仲間が困っているときに自分から援助できる。</u>	☐ <u>仕事の方法や段取りなどが分からない時には、分からないことをはっきりさせて、自分から進んで尋ねる。</u>	☐ <u>仕事の方法や段取りなどが分からない時には、分からないことをはっきりさせて、自分から進んで尋ねる。</u>	☐ <u>仲間と協力して効率よく仕事をする。</u> ☐ <u>仲間が困っているときに自分から援助できる。</u>

○製品・収穫物の取り扱い（製品・収穫物の取り扱い、製品・収穫物の良否）

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐ <u>製品を丁寧に扱う。</u>	☐ <u>製品を丁寧に扱う。</u> ☐ <u>製品や収穫物の良否が分かる。</u>	☐ <u>製品を丁寧に扱う。</u> ☐ <u>製品や収穫物の良否が分かる。</u>	
段階	☐ <u>製品を丁寧に扱うための事前の準備作業を行える。</u>	☐ <u>製品を丁寧に扱うための事前の準備作業を行える。</u> ☐ <u>製品や収穫物の良否が分かり、不良品を出さないように注意する。</u>	☐ <u>製品を丁寧に扱うための事前の準備作業を行える。</u> ☐ <u>製品や収穫物の良否が分かり、不良品を出さないように注意する。</u>	
段階		☐ <u>製品の良否を点検する方法が分かり、不良品を出さない工夫をする。</u>	☐ <u>製品の良否を点検する方法が分かり、不良品を出さない工夫をする。</u>	

○販売・流通（接客、製品・収穫物の袋詰め等、製品名・収穫物名、製品・収穫物の値段、販売活動計画）

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐ 販売活動計画で自分の担当する内容が分かる。	☐ <u>お客様への呼びかけができる。</u> ☐ 見本通りに製品・収穫物の袋詰め作業を行うことができる。 ☐ 製品名・収穫物名が分かる。 ☐ 製品・収穫物の値段が分かる。		☐ <u>お客様への呼びかけができる。</u>
段階	☐ 販売活動計画の計画立案で意見を述べることができる。	☐ <u>丁寧な言葉遣いで接客できる。</u> ☐ 見本なしでも製品・収穫物の袋詰め作業を正確に行うことができる。 ☐ 製品名・収穫物名、用途等が分かる。 ☐ 製品・収穫物の値段が分かり、金銭のやりとりができる。		☐ <u>丁寧な言葉遣いで接客できる。</u>
段階	☐ 販売活動計画の立案にあたって、全体像を把握しながら、計画立案に携わることができる。	☐ <u>製品の説明を加えながら販売することができる。</u> ☐ <u>正しい金銭のやりとりができる。</u>		☐ <u>製品の説明を加えながら販売することができる。</u> ☐ <u>正しい金銭のやりとりができる。</u>

付帯資料4 - 7 - 1 キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容一覧(国語科)

下線のある内容は、複数の能力育成につながる内容であることを示す。
○聞く・話す

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		☐物語、劇、映画、テレビなどを見たり聞いたりして楽しみ、簡単な感想を話す。 ☐簡単な放送や録音などの内容の要点が分かる。 ☐指示や説明を聞く。 ☐用件を落とさずに話しをする。	☐事柄の順序をたどって、経験したことを話す。 ☐学級会、生徒会などで、自分の意見をみんなに分かるように話す。	☐教師などの説明や友達の話などを聞いて、内容が分かる。 ☐人に尋ねられたときは、はっきり応答する。 ☐必要なときにはていねいな言葉を使ったり、共通語で話したりする。 ☐校内電話や公衆電話の応答になれる。
段階		☐物語、劇、映画、テレビなどを見たり聞いたりして楽しみ、感想を話す。 ☐放送や録音などの内容が分かる。 ☐必要な場合はメモをとり、指示や説明を正しく聞き取る。 ☐要件を落とさずに要領よく話しをする。	☐経験したことを相手に分かるように、できるだけ要点を落とさずに話す。 ☐学級会、生徒会などで人の意見を聞き取り自分の意見を話す。	☐教師などの説明や友達の話などを聞いて、要点をつかむ。 ☐場に応じた適切なあいさつや応答をする。 ☐敬語を適切に使う。 ☐電話で応答し、必要に応じて伝言を受ける。
段階		☐物語や小説などを読んだり、テレビや映画などを見たりして楽しみ、感想を話したり、書いたりする。 ☐テレビ、ラジオなどを聞き、必要な情報を得る。 ☐話し相手の意図や気持ちを考えながら、内容や指示説明を適切に聞き取る。 ☐要件を、筋道をたて正確に話す。	☐経験したことを擬声語や擬態語も交えて的確な表現で話す。 ☐学級会や生徒会等で、人の意見に関連させて自分の意見をはっきりと述べる。	☐教師などの説明や友達などの話を聞いて大切な所をメモする。 ☐相手やその場にふさわしい挨拶や応答をする。 ☐相手に応じて、敬語や言葉遣いを使い分ける。 ☐尊敬語、謙譲語などを適切に使って話す。 ☐電話の取り次ぎや適切な応答をする。

○読む

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		☐やさしい読み物や詩などを読んで楽しむ。 ☐よく目にふれる標識、看板、立て札、掲示などの意味が分かる。 ☐図書室(館)の利用の仕方が分かる。 ☐日常生活に必要な伝票、領収書、説明書などが 分かる。 ☐ローマ字に関心をもつ。 ☐日常生活でよく目にふれる外来語の標識に関心を持つ。 ☐新聞や雑誌などを見たり、読んだりすることに興味を持つ。	☐国語辞典に関心をもつ。 ☐詩や短歌、俳句などに親しむ。	
段階		☐いろいろな読み物を読んで楽しむ。 ☐辞典などを利用する。 ☐日常生活に必要な標識、看板、広告、立て札、掲示などをできるだけたく読み取る。 ☐図書室(館)を必要に応じて利用する。 ☐日常生活に必要な伝票、領収書、諸届け、申込書などの記入の仕方が分かる。 ☐日常生活でよく使われる外来語が分かる。 ☐日常生活で目に触れるローマ字を読むことができる。 ☐日常生活で使われる器具や医薬品などの簡単な説明書が分かる。 ☐新聞や雑誌などを見たり、読んだりする。	☐詩や短歌、俳句などの内容や情景を想像する。	
段階		☐小説やエッセイなどを好きな読み物を読んで楽しむ。 ☐国語辞典、百科事典などを活用して必要なことを調べる。 ☐標識、看板、広告、立て札、掲示、回覧板などを読んで適切に行動する。 ☐図書室(館)を効果的に利用できる。 ☐日常生活に必要な伝票、領収書、通知書などの意味が分かる。 ☐生活で使われる機械、器具、情報通信機器、医薬品などの説明書を読み取り、適切に利用する。 ☐新聞や雑誌を読み、必要な情報を得る。	☐外来語や片仮名の標識を読み、適切に行動する。 ☐詩や短歌、俳句などを作ったり、読み味わって、楽しんだりする。	

○書く

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		☐簡単なメモをとる。 ☐よく使われる簡単な漢字の書き方や使い方が分かる。 ☐長音、拗音、促音、撥音、助詞'を、は、へ'等を正しく読んだり、書いたりする。 ☐生活の中で使われる伝票、領収書、諸届け申込書に必要な事項を手本を見て書き写す。	☐見聞きしたことや経験したこと等について、できるだけ順序立てて書く。 ☐簡単な手紙文や日記を書く。 ☐句点(。)読点(、)等注意到意して書く。	☐手紙の目的に応じ筆記用具を使い分けて書く。
段階		☐要領よくメモをとる。 ☐よく使われる漢字の書き方や使い方が分かる。 ☐自分の履歴書等日常生活に必要な諸届けを手本を見て書き写す	☐経験した事柄を順序立てて、要領よく書く。 ☐手紙や電文を読んだり、書いたりする。 ☐句点、かぎ(「 」)等の正しい使い方に慣れる。	☐必要な内容を考えて、招待状や案内状を書く。
段階		☐メモを要領よく手早くとる。 ☐自分の履歴書など日常生活に必要な書類を様式に従って正しく書く。	☐経験した事柄を順序立てて、自分の意見や感想を交えながら、要領よく書く。 ☐句読点、かぎ等を正しく使って文章を書く。 ☐漢字や片仮名を正しく使って、文章を書く。	☐相手のことを考えて、招待状や案内状を書く。

付帯資料4 - 7 - 2 キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容一覧(社会科)

下線のある内容は、複数の能力育成につながる内容であることを示す。
○ 集団生活の役割・責任

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	<u>□学校や学級の行事などで、役割を分担して仕事をする。</u>	<u>□困ったとき、分からないときは、人に尋ねたり、教えてもらったりして、目的を果たす。</u>		<u>□時と場所に応じて、適切な言葉や態度で対応する。</u> <u>□友だちが困っているのを見たときは、手助けをする。</u> <u>□身近な問題を仲間と話し合い、自分の意見も述べる。</u>
段階		<u>□必要に応じて人に尋ね、用件を果たす。</u>		<u>□自他の立場をわきまえて、適切な言葉や態度で対応する。</u> <u>□いろいろなボランティア活動に参加する。</u> <u>□身近な問題をグループで討議し、自分の意見を はっきり述べる。</u> <u>□学校や学級の行事などで、自分の役割をもち、責任を果たす。</u>
段階		<u>□郵便局や銀行などの働きを知り、目的に応じて利用する。</u> <u>□複数の交通機関を適切に乗り継いで、目的地に行く。</u>		<u>□社会の一員としての意識をもち、行動する。</u> <u>□いろいろな問題をグループで討議し、全体の 流れの中で、自分の意見をまとめ、述べる。</u> <u>□学校や学級の行事などで、友だちと協力し自 分の役割を果たす。</u> <u>□相手の立場を考え、協力して行動する。</u>

○ 公共施設

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		<u>□公衆電話のかけ方を知り、利用する。</u> <u>□警察署、消防署、保健所、病院などの働きと自分たちとの生活との関係を知る。</u> <u>□郵便局の働きを知り、切手やはがきを買ったり、郵便物を出す。</u> <u>□校内電話や公衆電話の応答になれる。</u>		
段階		<u>□電話の対応の仕方を知り、利用する。</u> <u>□警察署、消防署、保健所、病院などの働きを知り、必要に応じて利用する。</u> <u>□郵便局や銀行などの働きを知り、キャッシュカード等を使って利用する。</u> <u>□交通機関の働きを知り、利用する。</u>		
段階		<u>□郵便局や銀行などの働きを知り、目的に応じて利用する。</u> <u>□複数の交通機関を適切に乗り継いで、目的地に行く。</u>		

○ 社会の出来事・社会事象

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		<u>□生徒会の役員選挙に関心をもち、積極的に参加する。</u> <u>□生産者や消費者をつなぐ商店、市場などの働きを知る。</u> <u>□農業、林業、漁業などと自分たちとの生活とのつながりを知る。</u> <u>□主な職業の種類と内容を知る。</u> <u>□工場などで物を作る様子を知る。</u> <u>□勤労に対して報酬が得られることを知る。</u> <u>□日常生活で使う水、電気、ガスなどの働きを知り、大切に使う。</u>		<u>□年賀状、暑中見舞い状などの手紙のやりとりをする。</u>
段階		<u>□選挙の意味がだいたい分かり、市町村などの 選挙に関心をもち。</u> <u>□生産者と消費者との結び付きを知る。</u> <u>□いろいろな産業と自分たちの生活との関係を知る。</u> <u>□職業の種類を知り、どの職業も社会に必要なことがわかる。</u> <u>□地域産業の製品を知る。</u> <u>□多くの人々の働く様子を知り、労働と収入の関係を理解する。</u> <u>□水道、電気、ガスなどの事業や廃棄物の処理について知る。</u>		
段階		<u>□選挙の意味を理解し、市町村や国などの選挙 に関心をもち。</u> <u>□生産、消費などの流通の仕組みを知る。</u> <u>□主な産業の製品が分かり、輸出入との関係を知る。</u> <u>□労働と収入の関係を理解し、勤労が生活に必要なことを知る。</u> <u>□水道、電気、ガスなどの事業や廃棄物の処理について考え、環境との関係を知る。</u>		

○地域の様子と社会の変化

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□地域のいろいろな商店を知り、利用する。 □学校周辺の道路や建物を知る。 □自分の住んでいる地域の地形などの特徴を知る。 □簡単な絵地図や交通の路線図などが分かる。 □地図を見て、自分の住んでいる県の位置や世界の主な国の位置を知る。 □昔の人々の生活の様子について関心をも		
段階		□学校が所在する市町村の主な道路や建物などを知る。 □日本の主な山脈、河川及び平野などを知る。 □簡単な地図、交通の路線図などを作り、地理について理解する。 □地図を見て、自分が住んでいる県や市、世界の国々の位置がわかる。 □昔の人々の生活の様子を知り、その特徴が分かる。		
段階		□日本や世界の地形の特徴を知る。 □地図や交通路線図を見て、目的地に行く。 □地図や地球儀を見て、日本と世界の国々の位置や位置関係を知る。 □昔の人々の生活の様子と現在を比較し、その移り変わりを知る。		

○外国の様子

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□新聞、テレビなどを通して、日本や世界の主な出来事に関心をもつ。		
段階		□時事問題に関心をもち、その内容を知る。		
段階		□時事問題に関心をもち、日本や外国の政治経済のおおよその状況や流れを知る。		

付帯資料4 - 7 - 3 キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容一覧(数学科)

下線のある内容は、複数の能力育成につながる内容であることを示す。
○数と計算

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□大きな数を数えたり、数字を読んだり、書いたりする。 □加法や減法の計算をする。 □簡単な乗法や除法の意味がわかり、初歩的な計算をする。 □計算機を使わずに、簡単な計算をする。		
段階		□生活の中で必要な数を数えたり、数字を読んだり、書いたりする。 □生活の中でいろいろな計算をする。 □必要に応じて計算機を使って計算する。		
段階		□生活の中で、大きな数を工夫して数えたり、大きな数字を正確に読んだり書いたりする。 □数式を活用し、生活の中で必要ないろいろな計算をする。 □買い物の際、計算機を活用して割引や消費税の計算をする。	□小数の意味がわかり、割合や%などを生活の中で使う。	

○量と測定

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□長さ・重さ・容積を表す単位が分かり、ものさしやはかりなどの扱いに慣れる。 □温度計や体温計の目盛りを読む。		
段階			□単位の関係が分かり、測定用具を利用し、生活の中でいろいろなものを測定する。	
段階			□生活の中で表示されている単位を理解し、適切な測定用具を選び正しく測定する。	

○図形・数量関係

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□正方形・長方形・正三角形・直角三角形などのおおよその特徴が分かる。 □コンパスなどを使って、簡単な図形を書く。 □棒グラフを読んだり書いたりする。		
段階		□正方形・長方形・正三角形・直角三角形・円・辺・頂点・直角などが分かり、それらの言葉を正しく使う。 □定規やコンパスなどを使って、いろいろな図形を書く。		
段階			□いろいろな図表やグラフを正しく読んだり書いたりし、生活の中で活用する。	

○実務

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□時刻を読んだり、簡単な時間の計算をしたりする。 □日課表や時刻表を読む。 □暦のおおよそのしくみが分かり、その扱いに慣れる。	□買い物などをし、支払いに必要な簡単なお金の計算をする。	
段階		□乗り物などの時刻表を読み、待ち時間などが分かる。 □生活の中で時計や暦を利用し、時間や日数の計算をする。	□金銭に関する実務が分かり、生活の中で使う。	
段階	□乗り物などの時刻表を読んで、通学や旅行の計画をたてる。		□時刻や暦を使って予定を立てるなど、生活の中で活用する。 □収入や支出など金銭に関する事項が分かり、出納帳などを生活の中で活用する。	

付帯資料4 - 7 - 4 キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容一覧(理科)

下線のある内容は、複数の能力育成につながる内容であることを示す。
○人体

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□人体を構成する目、耳、頭、手、足などの名称を知り、そのつくりや働きに関心をもつ。 □肺、心臓、胃腸などの器官のおおよそのつくりや働きに関心をもつ。 □主な病気やけがなどの原因やおおよその症状が分かる。 □病気に関係するカビや細菌などについて関心をもち、消毒の働きや予防の意味が分かる。 □日常用いる主な医薬品の使い方が分かる。 □日常の食品と栄養との関係に関心をもつ。 □温度、湿度、照度などと健康との関係に関心をもつ。 □有害な食品や公害などに関心をもつ。		
段階		□人を構成する目、耳、鼻、頭、口、手、足、指、爪などの名称を知り、そのつくりや働きが分かる。 □肺、心臓、腎臓、胃、小腸、大腸、肝臓などの器官のおおよそのつくりや働きが分かる。 □主な病気やけがの原因、症状を知り、予防に関心をもつ。 □病気に関係するカビや細菌などについて知り、消毒や予防の意味が分かる。 □主な医薬品の使い方が分かり、簡単な処置をする。 □食品の栄養と健康との関係が分かる。 □温度、湿度、照度などと健康との関係が分かる。 □有害な食品や公害などについての初歩的な知識をもつ。		
段階	□主な病気やけがの原因、症状を知り、適切に予防する。 □主な医薬品の使い方が分かり、適切に使用する。	□人体を構成する目、耳、鼻などのほかに、脳、神経、骨格、筋肉組織、内分泌器官、血液などの名称を知り、そのつくりや働きが分かる。 □思考する、感じる、姿勢を制御する、性徴を示すなどの脳やホルモンのおおよその働きが分かる。	□病気に関係する細菌やウィルスなどについて知り、日常生活で予防したり、消毒したりする。 □食品の栄養と健康との関連を知り、食生活に役立てる。 □温度、湿度、照度などと健康との関係が分かり、日常生活に役立てる。 □有害な食品や公害などについての初歩的な知識をもち、日常生活に役立てる。	

○生物

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□身近にある主な植物の名称を知り、成長の様子や活動の仕方などに関心をもつ。 □発芽した植物の成長、開花や落葉などの植物の変化に関心をもつ。 □身近な植物に集まる昆虫などの名称を知り、活動の様子に関心をもつ。 □身近にいる動物の習性や成長の様子などに関心をもつ。 □身近な小動物を飼育したり、観察したりして、幼生期からの成長に関心をもつ。		
段階		□身近にある主な植物の名称を知り、成長の様子や活動状況などが分かる。 □身近な野菜や果物などの名称を知り、人々の生活との関係が分かる。 □身近な植物に集まる昆虫などの成長の様子と季節との関係が分かる。 □身近な家畜の名称を知り、餌になる植物や人々との生活の関係が分かる。	□身近にいる動物の習性や成長の様子などが分かり、大切に世話をする。	
段階		□植物に集まる昆虫が、植物の成長に役立っていることを知り、植物と昆虫の大切な関係が分かる。	□身近にある植物の名称や特徴が分かり、大切に育てる。 □植物の生育に適した自然環境が分かり、栽培に役立てる。 □身近にいる動物の習性や特徴が分かり、大切に飼育する。 □動物の生存に適した生育環境を知り、飼育に役立てる。	

○ 事物や機械

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□衣、食、住に関する物品や道具などの名称を知り、それらの働きに関心をもつ。 □乗り物などの仕組みや働きに関心をもつ。	□日常生活でよく使う道具や機械などの主な仕組みや働きに関心をもち、使用する。 □日常生活でよく使う電気製品の主な仕組みや働きに関心をもち、使用する。 □日常生活でよく使う光学製品の仕組みや働きに関心をもち、使用する。 □文房具や事務用品の主な仕組みや働きに関心をもち、使用する。 □日常生活でよく使う石鹼や洗剤の性質や働きに関心をもち、使用する。 □砂糖や塩などの調味料、サラダ油や天ぷら油などの食用油の性質や使い方に関心をもち、使用する。 □プロパンガスや都市ガスなどの性質やガス器具の働きや使い方に関心をもち、使用する。 □日常生活でよく使う金属、プラスチックガラスなどの製品の性質や用途に関心をもち、使用する。 □日常生活でよく使う機械・器具の正しい使用法や保管の仕方などが分かり、安全に使用する。	
段階		□乗り物などの仕組みや働きが分かる。	□日常生活でよく使う道具や機械などの働きや使い方が分かり、使用する。 □日常生活でよく使う電気製品の主な仕組みや使い方が分かり、使用する。 □衣、食、住に関する物品や道具などの名称、性質、働きや使い方が分かり、使用する。 □日常生活でよく使う光学製品の仕組みや働きが分かり、使用する。 □文房具や事務用品などの仕組み、働き、使い方が分かり、使用する。 □日常生活でよく使う石鹼、洗剤、漂白剤、殺虫剤などの性質、働き、使い方が分かり、使用する。 □ガソリンや灯油、潤滑油の性質や使い方が分かり、安全に使用する。 □ガスの性質やガス器具の働きや使い方が分かり、安全に使用する。 □日常生活でよく使用する金属、プラスチック、ガラスなどの製品の性質や用途が分かり、使用する。 □身近な機械・器具の他に内燃機関を用いた機械・器具の正しい使用法や保管の仕方などが分かり、安全に使用する。	
段階			□大型機械・器具などの働きや使い方が分かり、安全に取り扱う。 □電気工具などの仕組みを知り、安全に取り扱う。 □衣、食、住に関する物品や道具などの名称、性質、働きや使い方が分かり、適切に取り扱う。 □乗り物などのエンジンの仕組みや働きが分かり、適切に利用したり、取り扱ったりする。 □光学製品の仕組み、働き、使い方が分かり適切に取り扱う。 □事務機器、コンピュータなどの初歩的な仕組み、働き、使い方が分かり、適切に取り扱う。 □洗浄用石鹼や合成洗剤、殺虫剤などの化学製品の性質、働きや使い方が分かり、適切に取り扱う。 □灯油や潤滑油、揮発油などの性質や使い方が分かり、安全に取り扱う。 □ガスの性質やガス器具の働き、仕組み、使い方などが分かり、安全に取り扱う。 □金属、プラスチック、ガラスなどの製品の性質や用途を知り、日常生活で適切に取り扱う。 □内燃機関を用いた大型機械・器具の正しい使用法や保管の仕方などが分かり、安全かつ	

○ 自然

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		□日常生活でよく触れる水や土などの性質に関心をもつ。 □太陽、月、星などの天体についても関心をもつ。 □季節による気象の変化や特徴に関心をもつ。 □地震や火山活動などに関心をもつ。 □海、山、川などの自然のありさまに関心をもつ。 □身近な自然の変化と日常生活との結び付き		
段階		□日常生活でよく触れる水や土などの主な性質が分かる。 □太陽、地球、月、惑星、恒星などの天体についての初歩的な知識をもつ。 □季節による気象の変化や災害などの主な特徴が分かる。 □地震や火山活動、災害などに関する初歩的な知識をもつ。 □海、山、川などの自然のありさまやおよその働きが分かる。 □自然の変化と日常生活との結び付きが分かる。		
段階		□水、空気、土などの性質と日常生活との主な関係が分かる。 □太陽、月、星などの天体の動きや太陽と地球及び月の位置に関係する主な特徴が分かる。 □海、山、川などの自然のおおよその働きと日常生活との主な関係が分かる。	□季節による気象の変化や災害などの特徴を知り、生活に役立てる。 □地震や火山活動などに関する知識をもち、災害防止及び避難に役立てる。 □自然の変化と日常生活との結び付きが分かり、生活に役立てる。	

付帯資料4 - 7-5 キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容一覧(職業科)

下線のある内容は、複数の能力育成につながる内容であることを示す。
○職業に関する基礎的な知識・職業に関する知識

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐物を作るために、多くの人々が仕事を分担し、協力していることを知る。 ☐会社などで働いている人々の様子を見て、卒業後の生活について関心をもつ。 ☐自分の能力や適性などがある程度分かり、進路について関心をもつ。	☐身近な品物がどのように作られるか職場見学で知る。 ☐家族や先輩の職業に関心をもち、自分の住んでいる地域にどんな職業の種類があるかを知る。 ☐公共職業安定所、福祉事務所などの役割と利用の仕方に関心をもつ。	☐会社などで働いている人々の様子を見て、卒業後の生活について関心をもつ。	
段階	☐生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任をもって働いていることを知る。 ☐働くことの大切さや厳しさを知り、卒業後の生活に自覚をもつ。 ☐職場の組織や機構について関心をもつ ☐労働と報酬との関係が分かる。 ☐給料の使い方を知る。	☐職場などの見学で製品の生産工程を知る。 ☐いろいろな職場に関心をもち、知識を深める。 ☐公共職業安定所、職業センター、福祉事務所などの役割が分かり、利用の手続きや方法に関心をもつ。 ☐職業についてからも、たえず職業的能力を高めようと努めることの大切なことが分かる。 ☐労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について知る。 ☐健康保険、労働保険、年金などの制度のあらましを知る。 ☐労働災害や職業病などについて知る。	☐働くことの大切さや厳しさを知り、卒業後の生活に自覚をもつ。 ☐自分の能力や適性などを理解し、進路について決める。 ☐	
段階	☐生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任をもって働くことの意義が分かる。 ☐働くことの意義を自覚し、卒業後の職業生活に見通しをもつ。 ☐職場の機構が分かり、職場では組織の一員として働くことを理解する。 ☐労働の時間や内容と報酬が関係していることを理解する。 ☐労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件が分かり、進路選択の参考にする。	☐職場などの見学で、製品の生産工程や流通について知る。 ☐職場には様々な仕事があり、それぞれが関連していることを知る。 ☐自分の個性や能力が発揮できる職業を知る。 ☐職業についてから職業的能力を高める方法が分かる。 ☐職業生活をする上で、健康保険、労働保険、年金などが大切であることを理解する。 ☐労働災害や職業病などから身を守る方法を知る。	☐働くことの意義を自覚し、卒業後の職業生活に見通しをもつ。 ☐どんなときに公共職業安定所、職業センター、福祉事務所などを利用するかが分かり実際に利用する。	

○産業現場等における実習

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐仕事に関する自分の分担を理解して行う。	☐いろいろな交通機関の利用の仕方について関心をもつ。	☐産業現場等における実習の意味を理解して、仕事をする。	☐実習先でのいろいろな決まりを守る。 ☐実習の場面に応じて、人と協力して仕事をする。
段階	☐仕事に関する自分の分担に責任をもって最後までやりとげる。	☐職場までの交通機関の利用の仕方について知る。 ☐実習中の健康と安全に注意する。 ☐生産した物が、社会でどのように利用されているかを理解する。	☐産業現場等における実習の意味を理解し、進んで仕事をする。	☐実習をする場でのいろいろな決まりを守る。 ☐実習の場面に応じ、すすんで人と協力する。
段階	☐仕事に関する自分の分担を理解し、効率よく仕事を最後までやりとげる。	☐職場までの通勤方法や定期券などの購入方法を知る。 ☐実習先の製品の流通、消費などを理解する。	☐産業現場等における実習に積極的に参加し自己の進路選択に役立てる。 ☐実習中の健康管理と安全確保の方法が分かり、実践する。	☐実習をする場での決まりを理解し、決まりを遵守する。 ☐実習の様々な場面での役割を理解し、すすんで人と協力する。

○健康管理・余暇

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐休憩時間や自由時間大切な時間であることが分かる。 ☐自分の趣味、テレビ、音楽、ゲームなどを楽しんだり、休日に地域の公共施設を使ったり、買い物などをして過ごす。 ☐卒業後、学校と連絡をとったり、同窓会などに参加したりすることの意味が分かる			
段階	☐翌日の体調を考慮した睡眠時間の確保、決められた休憩時間の活用、食事の取り方など健康管理の方法を知る。 ☐休憩時間や休日の適切な過ごし方を知る。 ☐職場でのサークル、厚生施設などの利用方法を知る。			
段階	☐休憩時間の使い方や、休日の過ごし方を計画する。 ☐職場での旅行会やサークルの参加方法や厚生施設の計画的な利用方法を知る。			

段階	☐ 日常食の献立をたてる。 ☐ 盛り付けや配膳を工夫し、手ぎわよくする。 ☐ 生活の中で、ごみを減らす工夫をしたり、リサイクルしたりする。	☐ 流行を取り入れながら、自分の体にあった衣類などを選ぶ。 ☐ 必要に応じクリーニング店を利用する。 ☐ 衣類などの整理や保管の仕方が分かる。 ☐ 手芸品を作り、日常の生活に生かす。 ☐ 一日に必要な食物の量や栄養が分かり、バランスの良い食事をする。 ☐ 添加物などに注意して、食品を選ぶ。 ☐ 食中毒について知り、食品衛生に注意する。 ☐ 値段や鮮度を考えて、材料を取りそろえる。 ☐ 自分の好みに合わせて調味料を適切に使う。 ☐ 食堂やレストランで、自分で注文し、作法を守って楽しく食事する。	☐ 一人で衣服の簡単な補修をする。 ☐ 寸法や型紙のとり方が分かり、簡単な衣服などの製作をする。 ☐ 食品の洗い方、切り方、加熱の仕方、味の付け方を工夫し、手順よく調理する ☐ 食事の準備や後片付けを手順よくする。 ☐ 地震、台風、洪水などの時には、適切に行動する。	
----	--	---	--	--

○ 道具や器具

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階		☐ 調理用具などを安全に扱う。	☐ 電気器具・ガス器具・石油器具などの扱い方に慣れる。	
段階		☐ 調理用具の種類、用途を知り、適切に扱う。 ☐ 照明器具・冷暖房器具などを適切に使う。	☐ 電気器具・ガス器具・石油器具などを適切に扱う。	
段階	☐ 冷蔵庫、冷凍庫などを適切に使用し、食品の保存、管理をする。	☐ 調理用具の手入れ、管理をする。 ☐ 照明器具、冷暖房器具などの手入れ・補修の仕方を知る。 ☐ 防犯ベル、火災報知器、消化器などの正しい取り扱い方を知る。	☐ ミシンの使い方に慣れ、いろいろなものを縫う。 ☐ 電気器具・ガス器具・石油器具などの手入れ、管理をする。	

○ 保育や家庭看護

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階				
段階		☐ 簡単な家庭常備薬と、家庭看護用品を正しく使う。	☐ 乳幼児や老人の簡単な世話や看護をする。	
段階				

付帯資料4 - 7-6 キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容一覧(家庭科)

下線のある内容は、複数の能力育成につながる内容であることを示す。
○家庭の役割

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階				☐ 家庭内における家族の立場や役割を理解する。 ☐ 家庭内における仕事の種類や分担が分かり、手伝いをする。 ☐ 家族のだんらんに参加する。 ☐ 乳幼児や老人に優しく接し、世話や手伝いをする。
段階	☐ グループホーム等、いろいろな生活形態を知る。			☐ 家庭の仕事を分担し、家族の一員としての自覚をもつ。 ☐ 家庭のだんらんを楽しむ。 ☐ 結婚の意味が分かる。 ☐ 妊娠、出産について理解する。 ☐ 冠婚葬祭について知る。
段階				☐ 家庭の仕事を分担し、家族の一員として役割をすすんで果たす。 ☐ 家庭のだんらんに参加し、家族におもいやりの心をもつ。 ☐ 両性の合意等結婚の基本的事項について理解する。 ☐ いろいろな生活形態についての理解を深める。 ☐ 冠婚葬祭についての知識を深める。

○消費と余暇

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐ 簡単な金銭収支を記録する。 ☐ 一日の生活に見通しをもち、予定を立てて生活する。		☐ 値段の高い安いを知り、上手な買い物をする。 ☐ むだ使いをしないで預金・貯金をする。 ☐ テレビ、音楽、ゲームなどを、家族や友達と一緒に楽しむ。 ☐ 余暇や休日を楽しく過ごす。	☐ 来客への対応や、親戚や友だちの家への訪問の仕方を知る。
段階	☐ レシート、領収書などの内容を読み取り、家計簿に記録する。 ☐ 生活時間を考え、時間の有効な使い方を工夫する。	☐ プリペイドカード、キャッシュカードなどの利用の仕方が分かり、必要に応じて利用する。 ☐ 相談場所や緊急連絡先について知る。	☐ 予算をたてて、計画的に買い物をする。 ☐ スポーツ、音楽、飼育・栽培などの趣味をもち、生活を楽しむ。	☐ 親戚や友だちの家を訪問したり、来客の応対したりする。 ☐ 卒業後の生活を支援してくれる人たちのことを知る。
段階	☐ 予算生活の必要性を理解し、計画的に預金・貯金をする。	☐ 現金購入、分割購入の違いが分かり、物品の計画的購入の大切さを理解する。 ☐ 家計の収入、支出状況についてだいたい知り、家庭の経済計画に協力する。	☐ 余暇や休日の計画を立てて有効に過ごす。 ☐ 相談場所や緊急連絡先について利用してみる。	☐ 礼儀正しく訪問したり、来客の応対をしたりする。 ☐ 卒業後の生活を支援してくれる人たちとのつながりを深める。

○家庭生活に関する事項

	キャリア設計能力	キャリア情報探索・活用能力	意志決定能力	人間関係能力
段階	☐ 主食、主菜、副菜などについて知る。 ☐ 献立に合わせ、必要な材料をとりそろえる。 ☐ 盛り付けや配ぜんをする。 ☐ 食事の準備や後片付けをする。 ☐ 調理室の簡単な整理・整とんをする。 ☐ 写真や見本を見て、食事の注文をする。 ☐ 自分の持ち物を整理・整とんする。 ☐ 住まいの簡単な手入れや、室内の飾り付けなどの手伝いをする。 ☐ 照明器具、冷・暖房器具などを安全に取り扱う。 ☐ 清掃用具、掃除機などを使って住居を清潔にする。	☐ いつも清潔な衣服を着る。 ☐ 自分で身なりを整え、簡単な日常着などの手入れをする。 ☐ 洗たく用具器具、洗剤の使い方などが分かり、簡単な日常着などを洗たくする。 ☐ 簡単なものにアイロンを掛ける。 ☐ キットを使って、簡単な手芸品を作る。 ☐ 簡単な食品名や料理の名前が分かる。 ☐ 栄養を考え、いろいろな食品を組み合わせで調べる。 ☐ 加工食品、半加工食品について知り、利用する。 ☐ 食品の変質について知り、保存の仕方が分かる。 ☐ 冷蔵庫の使い方を知る。 ☐ 食品、食器などの衛生に気をつける。 ☐ 指示に従って、ごみを分別する。 ☐ 家庭内のいろいろな危険物を注意して取り扱う。 ☐ 掃除用の洗剤、殺虫剤などを安全に扱う。	☐ ボタンなどを付ける。 ☐ 布、針、糸を使って基礎縫いをする。 ☐ ミシンの使い方が分かり、直線縫いをする。 ☐ 食品の洗いや、切り方が分かり、簡単な調理をする。 ☐ 主な調味料の使い方が分かる。 ☐ 部屋の換気、採光、照明の仕方を知り、調節する。 ☐ 戸じまり、防火などの大切さを知り、事故の場合に人に知らせる。 ☐ 地震、台風、洪水などのときには、指示に従って行動する。	☐ 作法を守って楽しく食事をする。
段階	☐ 日常よく使用されている食品を使って、簡単な献立をたてる。 ☐ 彩りや量を考え、適切な器に盛りつける。 ☐ 調理室の整理・整とんをし、清潔にする。 ☐ 自分の持ち物を工夫して整理・整とんする。 ☐ 住まいの簡単な手入れや、室内の飾り付けを工夫する。 ☐ 家庭内の整理・整とんや清掃などを行い、気持ちのよい住まい方を工夫する。	☐ すすんで清潔な衣服を着る。 ☐ 衣類などの材料や汚れに応じた洗いが分かり、洗たくする。 ☐ 布地の性質に合わせ、アイロン仕上げをする。 ☐ 型紙に合わせて裁断し、小物や袋物などを作る。 ☐ 栄養素及びその働きを知り、いろいろな食品を組み合わせで食べる。 ☐ 食品製造年月日、賞味期間などを見て、新鮮なものを選ぶ。 ☐ 冷蔵庫、冷凍庫を適切に使用する。 ☐ 衛生に気をつけ、洗剤、消毒剤などを適切に使う。 ☐ 献立に合わせ、必要な材料の買い物をする。 ☐ 献立にみあう調味料を適量使う。 ☐ 献立表を見て、食事の注文をする。 ☐ 決まりに従って、ごみを分別し、適切に処理する。 ☐ 家庭内のいろいろな危険物を注意して扱い、危険な場合は適切な処理をする。 ☐ 掃除用の洗剤、殺虫剤などの使用法を知り適切に扱う。	☐ 季節、温度、場所に応じた服装をする。 ☐ まつり縫いや返し縫いができ、衣服のほつれなどを直す。 ☐ ミシンを使って、簡単な小物や袋物などを縫う。 ☐ 食品の洗いや、切り方、加熱の仕方、味の付け方が分かり調理する。 ☐ 手順を考えながら、食事の準備や片づけをする。 ☐ 部屋の換気、採光、照明の仕方を知り、健康な住まい方を工夫する。 ☐ 戸じまり、防火などに注意し、事故の場合に適切な連絡をする。 ☐ 災害に対する日頃の備えや避難方法などが分かる。	☐ 食堂、レストランでの食事の作法を知る。

付帯資料 4 - 8 - 1 普通教科指導案（職業）

2 年 組 職業 学習指導案

日時： 平成 1 8 年 9 月 1 1 日（月）

場所： 総合実習室

授業者：

1 題材名 安全な作業

2 題材設定の理由

2 年生は、6 月に初めての職場実習（産業現場等における実習）を体験し、授業である専門実習との違いを十分に感じ取ることになった。それは、職業人たち大人と共に実際に働くことを通して、それぞれの職場には職制があること、与えられた仕事には分業や協業における責任があること、職場で必要とされる知識・技能・態度が数多くあることなどである。10 月上旬に 2 回目の職場実習を控えている生徒たちにとって、これまでの専門実習を中心にそれぞれに就労へ向けた課題解決に取り組み、準備は進めてきているものの、一月前となる今月 9 月は、緊張と不安が募ってくる時期と予想される。この時期に、「職業」の時間で取り扱う題材を考えたとき、労働安全の内容はどの生徒にとっても有効かつ必須と言える。それは、生徒たちが所属するコースの専門実習において常に意識していることであり、初めての職場実習でも事細かに指導されてもいるからであり、どの生徒にとっても想起しやすく一緒になって取り組めるからである。また、生徒を受け入れる事業所の多くが、「安全管理は難しいのではない」「危ないことをするのはない」といった安全の問題を感じているので、事業所の不安を軽減するためにも必要と言える。そして、労働安全の内容は、職場実習の緊張感あふれる中にあっても、自分や職場の人たちの身を守り、労働災害を防止するためにやり切らなければならないことである。このようなことから、「安全な作業」という題材を設定することとした。

本題材は、労働安全を知識・技能・態度の面から捉えた。労働災害の種類と原因、作業上の注意点、安全標識など知識として覚えたり、実際に体に負担をかけない荷物の運び方を練習したり、危険予知訓練を通して安全第一の態度を身につけたりしていく。また、危険予知の際の適切な声の掛け方を身につけるために、ソーシャルスキルトレーニングも取り入れていく。

○キャリア発達との関連

[人間関係形成能力] 他者に配慮した適切なコミュニケーションを習得する。

[情報活用能力] 労働災害とその原因を知り、安全に関する情報・知識を、危険予知・災害防止に活用する。

[将来設計能力] 将来の就労場面を思い描き、職場実習やふだんの専門実習の中でも安全な作業への関心・意欲を高め、災害防止に向けて努力する。

[意思決定能力] どのような作業場面であっても、安全第一の勤労観を持つ。

3 題材の目標

労働災害の防止に関心を持ち、安全な作業を行うための課題解決に積極的・意欲的に取り組む。
（関心・意欲・態度）

安全な作業を行うための作業方法や注意点、他者とのコミュニケーションの取り方、および災害の発生原因や安全標識などについて、一通り知識として理解する。（知識・理解）

荷物の正しい持ち上げ方と運び方、災害防止のための適切な声の掛け方を身につける。（技能）

職場実習やふだんの専門実習において、危険を予知し災害防止に向けた安全な作業を、常に心がける。（般化）

4 指導計画（4 時間扱い）

	目 標	学習内容
（第 1 回）安全な作業 労働災害とその原因	労働災害とは何かを知り、その原因を考え、安全への関心を高める。	・労働災害の種類と原因 ・安全のための注意点の考察
（第 2 回）安全な作業 危険を予知して災害防止	危険予知訓練を通して、危険に対する感受性を高める。	・3 つの場面の危険予知とその対策の考察
（第 3 回）安全な作業 危険を予知したときの 声の掛け方 【本時】	危険を予知したとき、災害防止のための適切な声掛けができる。	・他の人のすぐ側で作業するときの危険予知と、適切な声掛けのソーシャルスキルトレーニング
（第 4 回）安全な作業 荷物の持ち方・運び方と 安全標識	荷物の正しい持ち上げ方と運び方を知り、身につける。一般的な安全標識の読み方・意味を覚える。	・荷物の正しい持ち上げ方と運び方、階段での運搬 ・知っておきたい安全標識

5 本時の指導

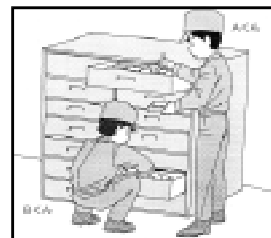
（1）ねらい

危険を予知したとき、災害防止のための適切な声掛けができる。

（2）展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1 前時の学習内容を振り返る。 ○危険予知訓練を思い出す。 2 危険性のある場面（悪いモデリング）を見る。 ○作業者のすぐ後ろを、何も言わず台車を押して通る場面を見る。 ○作業者が、台車が後ろを通るのを知らず、台車にぶつかってしまうかもしれないことに気づく。 3 本時の学習課題の説明を聞き、課題意識を持つ。	・「前の時間、どんなことを学習しましたか」と質問し、出てきた発表を活かす。 ・1 人の生徒を作業者に見立て、そのすぐ後ろを何も言わず台車を押して通って見せる。 ・どんな危険性があるかを質問し、自由に意見を出させる。 ・出された意見はできるだけ活かしていくが、最終的には左記の点に誘導しまとめる。 ・危険を予知していながら、黙ったままでは災害が起きてしまうことを強調する。
	本時の課題 「危険を予知したときの、上手な声の掛け方を身につけよう」	
3 5	4 別の悪いモデリングを見る。 ○「危ないぞ！」と言って、作業者のすぐ後ろを台車を押して通る場面を見る。	・1 人の生徒を作業者に見立て、そのすぐ後ろを台車を押して、「危ないぞ！」と言って通って見せる。

時配	学習活動	活動への支援
	○ 観察して感じたこと、作業者役をして感じたことを発表し、乱暴な声の掛け方ではいけないことがわかる。 ○ 相手にどのように声を掛けたら、危険性がわかってもらえるか考え、意見を発表する。 5 良いモデリングを見る。 ○ 危険性を上手に伝えるには、次の「声の掛け方の順番」を守ることが大切だと知る。 自分がこれからすることを話す。 「○○しないように気をつけてください」とお願いする。 相手がわかったか確認する。 お礼を言い、行動を始める。 ○ 「後ろを通ります。ぶつからないように気をつけてください」と声を掛け、作業者がわかったことを確認して、「ありがとうございます」と言って後ろを通る場面を見る。 ○ 観察して、また、作業者役をしてどんな気持ちになったか発表する。 6 ロールプレイを行う。 ○ 2人一組で前に出て、作業者と台車を押す人の役割分担を交代しながらやってみる。 ○ 観察側の生徒は、声の大きさや表情、しぐさなど、様々な良かった点についても発表する。 7 違う場面での危険予知に取り組む。 ○ 「A君とB君が引き出しの中から材料を出そうとしている絵を見て、危ないな、とか、けがをするかもしれないな、と思うことはありませんか」の問いを考える。 ○ 危険性のある部分を指摘し発表する。 ○ 「このままだと、B君が立ち上がろうとして引き出しに頭を打つかもしいない」ということが一番危険だとわかる。 ○ A君はB君にどんなふうに声を掛けたらいいか考える。	・ 自由に意見を出させ、板書していく。 ・ 「どのように声を掛ければ、相手の人は気持ちよく危険性がわかるかな」と問題をもたせ、出た意見を板書する。 ・ 出された意見を活かし、特に大切なものを抽出しながら、相手に危険性を上手に伝える順番を説明する。 ・ 「声の掛け方の順番」を黒板に貼付する。 ・ 悪いモデリングの際と同じ生徒を作業者役とし、今回どのように気持ちが変わったかを比較させる。 ・ 「声の掛け方の順番」を忘れそうな生徒には、側につきながら助言する。 ・ 2人組が終わるごとに、良かった点を上げさせ、板書する。 ・ 「相手に近づく」「相手の顔を見る」「相手に聞こえる声で」「笑顔で言う」など基本的な話し方のスキルについても触れられるようにする。 ・ 拡大図を黒板に貼付し、ワークシートを配布する。 ・ 自由に意見を出させ、拡大図上で危険があると思われる部分にシールを貼る。 ・ 意図していない内容の意見も受け入れる。 ・ 出された意見はできるだけ活かしていくが、最終的には左記の点に誘導しまとめる。 ・ B君の頭の上に、赤いシールを貼り付ける。 ・ 「声の掛け方の順番」に当てはめて言葉を考え、ワークシートに記入させる。



時配	学習活動	活動への支援
	8 ロールプレイを行う。 ○ 2人一組で前に出て、A君、B君の役割分担を交代しながらやってみる。 ○ 観察者は、良かった点を発表する。	・机ごとのグループで話し合うことも可とし、机間巡視しながら助言する。 ・引き出しを用意する。 ・2人組が終わるごとに、「声の掛け方の順番」が守れたかを確認したり、良かった点をあげさせたりする。
5	9 本時のまとめを行う。 ○ ロールプレイの自己評価をする。 ○ 「声の掛け方の順番」を守って声を掛け合ったときの感想を発表し合う。 10 次時の予告 荷物の正しい持ち方・運び方と安全標識の学習をすることを知らせる。	・ワークシートに沿って自己評価させる。 ・専門実習や職場実習でも、今日の学習を活かすよう勧める。 ・ロールプレイや話し合い、観察の様子についても、評価の話をする。 ・安全標識の一例を示し、次時への期待感を持たせる。

(3) 評価

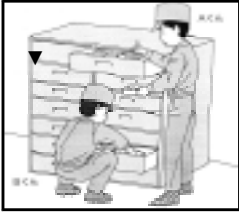
学習の評価

- ・モデリングやイラストを見て、危険性を指摘できたか。
- ・相手にどのように声を掛けたら、危険性がわかってもらえるか、意見を言えたか。
- ・危険を予知したときに、相手に自分がこれからすることを話すことができたか。
- ・予知した危険性を、「○○しないように気をつけてください」という言い方で相手に言えたか。
- ・相手が危険性をわかったか確認できたか。
- ・危険性をわかってくれた相手にお礼を言って、安全に行動できたか。

支援の評価

- ・出された意見をできるだけ活かしながら、授業を展開することができたか。
- ・わかりやすくモデリングができたか。
- ・「声の掛け方の順番」をわかりやすく説明できたか。
- ・それぞれのロールプレイに対し、やる気が起きたり励ましになるような助言、また、良かった点や努力した点を認め達成感を味わえる評価が言えたか。

(4) 板書計画

危険を予知したときの、上手な声のかけ方を身につけよう		
● 作業者の後ろを台車を押して通る場面	危険性を伝える上手な声のかけ方 自分がこれからすることを話す。 「○○しないように気をつけてください」とお願いする。 相手がわかったか確認する。 お礼を言い、行動を始める。	● A君とB君が引き出しから材料を取り出そうとしている場面
・ 悪い例を見て (生徒の発表内容) ・ どのように声をかければよいか (生徒の発表内容)	・ 良い例を見て、やってみて良かった点 (生徒の発表内容)	 ・ 良かった点 (生徒の発表内容)

園芸技術科園芸コース（Aグループ）学習指導案

日時

場所 パイプハウス横外側

授業者

1 単元名 「春咲き草花の栽培」～卒業式にマリーゴールドの花を飾ろう～

2 単元設定の理由

（１）単元設定の理由

園芸コースでは、年間を通して季節の草花の栽培、しいたけの栽培及びそれらの加工・販売・納品の作業を主な活動として学習を進めている。

季節の花の栽培に関しては、播種から開花までにはそれぞれの花の特性からサイクル（期間）に違いがあり、ひとつの単元が終了してその後新しい単元に入るという訳にはいかない。今回実施している単元の最中にも「春咲き草花の栽培」～レインボーフェスタに向けて～というジュリアン・パンジーの栽培の単元もあり、また、卒業式前には新たな草花の栽培も始まり、しいたけの植菌の活動も実施していく予定である。したがって、いくつもの小さな単元が平行して実施されていく現状である。生徒たちが一つひとつの単元に見通を持ちやすく、更に日々の活動をより明確なものにしていくために「サブタイトル」を設け分かりやすい設定にしていくように心がけている。

通常、日々の実習は3つのグループに分かれて活動している。各グループがグループ長を中心に準備から後片付けまでを一日の活動内容として組み立てて実施している。ひとつの単元を3グループで分担しているので、一人の生徒がすべての活動に関わるということにはならない面がある。しかし、年間を通して行われる繰り返しの栽培の活動の中から、「栽培の一連の活動の実際と流れ」を身につけることができる。その中から、日々の植物の成長を実感し、開花した時に感動し、大事に育てていくことを楽しみ、そして社会に還元していく喜びを生徒一人ひとりが味わってほしい。

園芸作業は、その日の天候や個人の体調等に影響されやすい活動である。水分の補給や体調管理、道具の使用の安全確保等十分に配慮しながら活動を進めていきたい。

（２）キャリア発達との関連

○キャリア将来設計能力

栽培の一連の活動を見通し、進めていく作業の意味とその重要性が分かり一つひとつを積極的に取り組むことができる。

○キャリア情報活用／探索能力

その日の作業に必要な道具を確認・準備し、一連の活動の中で適切に使用して作業をスムーズに進めることができる。

○意志決定能力

自ら正確な作業に心がけ、時間一杯根気よく持続して取り組むことができる。

○人間関係形成能力

仕事の分担を理解して、仲間と協力して効率よく仕事をすることができる。

3 単元の目標

○花（マリーゴールド）栽培に関心を持ち、一連の作業に自ら意欲的に取り組む。

○ていねいで確実な作業に心がけ、効率よく作業を行うための方法や注意点、道具の扱いなどを身につける。

○仲間と協力し合い、最後までやり遂げようとする強い気持ちを身につける。

○本単元で身につけたものを、今後の作業に生かすことができる。

4 指導計画 11月29日～3月9日

月日	曜	主 な 活 動
11・29	水	☆播種 ☆発芽までの水管理 ・温度管理 ☆発芽後の水やり・施肥 ・温度管理
12・11	月	☆土作り・・・「本時」
12・11	月	・ポット土入れ
12・14	木	・苗のポットへの移植 ☆施肥（I B化成） ☆苗の管理 ☆水やり ☆施肥（追肥） ・温度管理
3・8	木	☆卒業式会場飾りつけ ☆事例生徒Gの活動

5 本時の指導

(1) ねらい

○土作りの活動に、意欲的に集中して取り組む。

○一人ひとりが自分の分担を理解し、グループで協力して作業をすすめる。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
5	(1) 挨拶 (2) 午前の作業の進捗状況の確認及び本時の作業内容(土作り)を確認する。 (3) Aグループ内で2つに分かれる。	・健康や本日の体調を確認する。 ・黒板を利用し、グループ別に活動を具体的に説明する。 ・グループ長を中心に話し合いで決めていく。
60	(1) 道具の確認をする。 ・ふるい ・バケツ (20L(4)、10L(1)、8L(1)、5L(1)) ・用土 (赤土、ピートモス、バーミキュライト、パーライト、牛糞、土こうじ) ・コンパネ(3) ・一輪車 ・角スコップ(4) ・剣先スコップ(2) (2) 用土をそれぞれの分量ずつ準備する。 ・赤土 (20L×3) ・ピートモス (20L) ・牛糞 (10L) ・バーミキュライト、パーライト (5L+3L) 土こうじ (3) 用土を順番にふるいにかける。 赤土→赤土→ピートモス→牛糞→赤土→バーミキュライト、パーライト→土こうじ (4) ふるい担当者以外は次の用土の準備をする。 (5) 荒い用土をスコップで砕く。 (6) 残った用土を外に捨てる。 (7) ふるった用土をかくはんする。 ・20回を1セットで時計回り、反時計回りに交互に3回 (8) 混ざり具合を確認する。 (9) 一輪車に積んでポット土入れGに運ぶ。 (3)～(9)を繰り返す。 (10) 後片付けをする。	・グループ長を中心に道具の確認をする。 ・グループ長には、テキストを見ながら確認するように声をかける。 ・活動の場所を確認する。 ・スコップの置き方等安全面に配慮する。 ・すべての用土が揃ったかどうか確認をする。 ・正確な量をバケツに入れたかを確認するように声をかける。 ・ピートモス等軽い用土は風の強さや向きに注意し、ふるいの高さ等を調節するようにする。 ・土等をふるいに入れる際には「お願いします」などの声をかけるよう促したりふるいの高さに注意するよう声をかける。 ・ふるいは二人の呼吸を合わせるように声をかける。 ・「くださお願いします」をはっきりというように指示する。 ・用土によりふるい方、くだき方が異なることを確認するよう声をかける。 ・タイミングが合うように、掛け声を合わせるように声をかける。 ・用土全体が混ざるよう、スコップの向きや返し方を確認する。 ・スコップの入り具合を確認し、不十分な場合は声をかける。 ・土入れGにしっかりと声をかけるように促す。 ・スコップなどは洗い、元の場所に戻したかどうか確認をする。
15	(1) 実習日誌を記入する。 (2) 活動の反省をする。 本時の活動について、簡単に担当教員と確認をする。 (3) 全体の反省 当番学級生徒の発表 次回の予定を聞く。 (4) 挨拶	・生徒の書いた実習日誌を基に簡単に今日の作業を振り返り、今後に生かせるように配慮する。 ・当番学級の生徒の発表が円滑におこなえるよう、場合により補足をする。 ・怪我・体調の確認をする。

1 年 A 組 国語科 学習指導略案

日時

場所 1 年 A 組

授業者

1 題材名 めざせ！漢字博士

2 本時の指導

(1) ねらい

- 漢字に関心を持つことができる。
- 漢字辞典を使って熟語を調べ、クイズを作ることができる。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1 前時の学習を振り返る。	・漢字辞典の使い方について確認する。
35	2 本時の学習内容を知る。 漢字辞典を使って漢字の熟語クイズを作ろう。 3 3グループに分かれ、それぞれ3つずつ部首名を選び、選んだ部首を個人用プリントに記入する。 人間関係 設計能力 4 グループ毎に漢字辞典を使って、選んだ部首の漢字から成る熟語を調べ、クイズに出題するものを選ぶ。 人間関係 情報活用 5 選んだ漢字の熟語を出題用プリントに記入する。 意志決定 6 出題用プリントをグループ同士で交換し、クイズの解答は個人用プリントに記入する。 7 答え合わせをする。	・黒板に9種類の部首を提示し、各グループで3つずつ選ぶことを確認する。 ・グループ毎に部首を分けて提示し、自分のグループの部首をプリントの最初の欄に書くことを確認する。 ・1種類の部首につき、3つずつ漢字辞典から熟語を選ぶことを確認し、調べ方がわからない生徒には具体的な調べ方を伝える。 ・各グループで選んだ熟語の解答は、個人用プリントに控えておくようにする。 ・出題用プリントの記入の仕方を説明し、他グループ用に2枚作ることを確認する。 ・クイズの解答は漢字辞典を使用しても良いことを伝える。 ・グループの代表生徒が黒板に解答を板書するようにする。
5	8 本時のまとめをする。	・漢字辞典を使って熟語を調べることができたか確認する。 ・漢字に興味があったか確認する。

3 「キャリア発達」との関連

(1) キャリア設計能力 **設計能力**

グループ学習での自分の役割を果たす。

(2) キャリア情報探索・活用能力 **情報活用**

漢字辞典を活用して必要な情報を収集・整理する。

(3) 意志決定能力 **意志決定**

学習課題を理解し、進んで取り組む。

(4) 人間関係形成能力 **人間関係**

グループの友だちと協力して学習活動に取り組む。

1 年 B 組 情報科 学習指導略案

日時

場所 コンピュータ室

授業者

1 題材名 デジタルカメラの活用 ～コースのチラシを作ろう～

2 本時の指導

(1) ねらい

- 自分のフォルダに保存した画像を文書に挿入することができる。
- 画像の配置等を考えながら文書を編集していくことができる。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1 前時の学習を振り返る。	・web ページを見て前回までの進行状況を確認する。
3 5	2 本時の学習内容を知る。 コースのチラシに画像を挿入しよう。 設計能力 情報活用 意志決定 人間関係	T 1 はモニターやテキストを使い、主に全体的に支援を進める。T 2 は主に各生徒の支援を行う。
	3 編集を進める web ページを開く。	・ファイルの位置が分からない生徒は、前方の大型モニターやテキストを参考にしながら教員と一緒に操作を進めていくようにする。
	4 画像の挿入。	・モニターやテキストを参考にしながら、画像を挿入していくようにする。
	5 文字の挿入。	・文字を書き込む前に、宣伝文句や製品の特徴などを考えてテキストに記入し、書き込む内容を決めておくようにする。
	6 配置や字体などを整え、文書を編集していく。	・サンプルのチラシを参考にしながら編集を進めていくようにする。自分のイメージ通りに編集が進まないときは手を挙げるように伝え、支援していく。
	7 文書を保存する。	・モニターやテキストを参考にできるよう伝える。
5	8 本時のまとめとして、保存した文書を web ページで見ながら出来具合を確認する。	・自分のチラシを確認した後は、仲間のチラシを見るようにして感想を言い合う。

3 「キャリア発達」との関連

(1) キャリア設計能力 設計能力

自分のコースやコースの生産品に関心を持ち、進んで紹介することができる。

(2) キャリア情報探索・活用能力 情報活用

テキスト等を参考にしながらパソコンを操作し、文書の編集を進めることができる。

(3) 意志決定能力 意志決定

学習課題を理解し、進んで取り組む。

(4) 人間関係形成能力 人間関係

操作に迷ったときは自分から質問することができる。

仲間のチラシを見ながら自分のチラシと比較し、感想を言い合うことができる。

1 年 C 組 英語科 学習指導略案

日時

場所 1 年 C 組教室

授業者

1 題材名 数字 - 基数と序数 -

2 本時の指導

(1)ねらい

- 英語の数字には基数と序数があり、日付には序数を使うことを学習する。
- 基数と序数(1 ~ 21)を英語で覚えられるようにする。

(2)展開

時配	学習活動	活動への支援
5 分	1. 前時の学習をふり返る。 ◦ 12 か月を英語で言いあらわす。	◦ 12 か月を思い出せない生徒には出だしの文字などヒントを与える。
20 分	2. 本時の学習内容を知る。	◦ 誕生日など日付を英語で言うためには数字を覚える必要があることを伝える。そのときには序数を使うことを説明する。
	数字(基数と序数)を英語で覚えよう。	
15 分	3. 英語で数字を言う。 情報活用 ◦ 1 ~ 21 の基数を英語で言う。 全員でモデルに続いて発音する。 ◦ 22 以上の基数を英語で言う。 ◦ 1 ~ 21 の序数を英語で言う。 全員でモデルに続いて発音する。 4. 数字を覚える。 ◦ 数字を覚えられるようにくり返して練習する。 5. 数字合わせゲーム(神経衰弱)をする。 設計能力 意志決定 人間関係 ◦ カードをめくり、出た数字を英語で言う[黒文字は基数、白抜き文字は序数]。 2 枚がそろって正しく英語にできた らカードをゲットする。そろわない ときや英語にできないときは次の人 の順番になる。 ◦ 最終的に多くカードをとった人が勝 ちとなる。	◦ 状況に応じて 1 ~ 10、11 ~ 21 に区切る。 数字を見せながら発音をする。 ◦ 22 以上の言い方を説明した後、発音する。 ◦ 基数と同様に進める。 ◦ フラッシュカードを使う。ランダムに数字を さして英語で答えるように指名する。 ◦ 3 人組にわけ る。 各グループをまわりながら、様子を見てヒ ントを与える。
5 分	6. 本時のまとめをする。	◦ 21 までの基数と序数を覚えることができた か確認する。

3 キャリア発達との関連

(1)キャリア設計能力 **設計能力**

グループでの自己の役割と学習課題を理解して取り組む。

(2)キャリア情報探索・活用能力 **情報活用**

耳から入ってくる音をまねて発音する。

(3)意志決定能力 **意志決定**

ゲームのルールを理解し遵守する。

(4)人間関係能力 **人間関係**

コミュニケーションをとりながらゲームを進める。

1 年 D 組 数学科 学習指導案

日 時

場 所 1 年 D 組 教室

授業者

1 題 材 名 四則計算

2 本時の指導

(1) ねらい

- 計算力を高めるため、できるだけ多くの簡単な計算の繰り返しで意欲を高める。
- 数の合成と分解を無理なく理解し、練習問題の解答作業を通じて数の概念を正確に認識する。

(2) 展 開

時 配	学 習 活 動	活動への支援
5 分	1 あいさつをする。 2 計算プリントに取り組む。 3 本時の学習内容を知る。	・ 時間を決めてとり取り組むようにする。 ・ 本日の活動について説明する。
	○ たくさんの練習問題に取り組もう。	
30分	1 プリントを順番に始める。 2 足し算、引き算、かけ算、割り算などの計算プリントを解き記録を計る。 設定能力 情報活用 意志決定 3 計算問題終了後提出する。 4 各自で答え合わせ後、次の計算問題を解く。 5 練習問題でやり方が分からない場合は質問をする。 6 2 人 1 組で計算トランプ対戦を行う。 人間関係 7 ジャンケンで順番を決め、一枚ずつカードをめくり自分で選んだ計算シートの上に置いて式を作る。 8 作った式の答えが大きかった方が勝ちとして、負けた方のカードをもらう。 9 対戦を続け、トランプのカードの持ち数が多い方が勝ちとする。 10 対戦表に勝敗を記入する。	・ プリントの順番を確認する。 ・ タイマーを利用し、各自の目標が持てるようにする。 ・ 採点をして間違いがあったらもう一度、確認できるようにする。 ・ 終了時間を決め取り組む。 ・ 計算プリントの進捗を確認する。 ・ 2 人 1 組にトランプを用意する。 ・ 計算シート(「 $\square + \square$ 」「 $\square \times \square$ 」)を用意する。 ・ 2 枚の計算シートで計算を行い、どちらの計算シートの答えが大きいか選ぶようにする。 ・ 時間を決め対戦する。
10分	11 本時のまとめをする。	・ 四則計算の基礎が理解できたかを確認をする。 ・ 数の特質についての理解がなされたを確認する。

3 「キャリア発達」との関係

(1) キャリア設計能力 **設定能力**

四則計算の基礎的な問題練習と数の正しい概念を理解する。

(2) キャリア情報探索・活用能力 **情報活用**

四則計算の簡単な解答作業を通じて、日常生活に必用な計算技能の向上を図る。

(3) 意志決定能力 **意志決定**

四則計算の学習課題を理解し、進んで課題に取り組む。

(4) 人間関係形成能力 **人間関係**

友人の意見を聞き、自分の考えと比較する。不明な点は質問する。

1 年 E 組 社会科 学習指導略案

日時

場所

1 年 E 組教室

授業者

1 題材名 流通 ～製品の行き先～

2 本時の指導

(1) ねらい

- 流通のおおまかな仕組みを知ることができる。
- 小売商、消費者、商品、おろし売商などの言葉を理解することができる。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1 前時の学習を振り返る	・前時の学習で学んだことを確認する。
35	2 本時の学習内容を知る。 商品流通について学習しよう。	
	3 「流通」の言葉から想像されることを発表しよう。 設計能力 意志決定	・どんなことでも良いので、一人1回は発言するように支援する。
	4 「流通」言葉の意味を確認する。	・プリントを配り板書した言葉を書き写し「流通」の意味を再確認できるように支援する。
	5 「商品(シャープペンシル)」はどのようにして自分のところに届くのか考えをプリントに記入する。	・プリントの流通経路図を参考にして、各自で作業に取り組めるように支援する。また、分からない生徒には具体的に示す。
	6 考えプリントに記入したことを発表する。 情報活用 人間関係	・それぞれの意見を板書し、どのような流通ルートがあるのか考えをまとめられるようにする。
5	7 小売商、消費者、商品、おろし売商などの言葉を理解する。	・それぞれの言葉の意味をプリントで確認する。また、言葉を覚えるように支援する。
	8 本時のまとめをする。	・流通に関する言葉を再確認する。 ・流通に関して大まかな仕組みが理解できたか確認する。

3 「キャリア発達」との関連

(1) キャリア設計能力 設計能力

流通に関心を持ち、実際の生活と関連づけられる。

(2) キャリア情報探索・活用能力 情報活用

調べたこと等を自分の考えを交えて発表できる。

(3) 意志決定能力 意志決定

学習課題を理解し、進んで取り組む。

(4) 人間関係形成能力 人間関係

友達の意見を聞きとる。自分の意見との違いに気づく。

2 年 A 組 美術科 学習指導略案

日時

場所 美術室

授業者

1 題材名 働く様子を描く ～ 障害者雇用促進月間ポスター原画の制作 ～

2 本時の指導

(1) ねらい

- 専門実習や産業現場等における実習での自己の取り組みを省みることができる。
- 専門実習や産業現場等における実習と卒業後の職業生活を関連づけて考えることができる。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
15	1 前時までの学習を振り返る。 2 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構「障害者雇用促進月間ポスター」原画作品展について知る。	・ K O Y O 祭ポスターの制作を通して理解したポスター制作上の留意点や効果的な技法等について確認する。 ・ 作品展の趣旨やテーマの理解を助けるため過去の入賞作品集や要項などを提示する。
25	3 本時の学習内容を知る。 課題を把握し画題を決め、構想を練り、観察をして、下描きを始めよう。 4 自分が体験・見聞した「働く姿」を思い起こし、画題を決める。 意志決定 設計能力 情報活用 5 決まった画題の主体となる人物の姿を中心とした構図を考える。 6 鉛筆を用い、下描きに取りかかる。	・ 専門実習での取り組みや産業現場等における実習での体験、S T 学習での見学など具体的経験を通したものをテーマとするよう伝える。 ・ 人体のフォルムや表情などのイメージがつかめない生徒にはポーズをとって見せたり、鏡を貸したりする。 ・ シャープペンシルは不適であることを伝え、鉛筆を貸す。
5	7 本時のまとめをする。 人間関係	・ 他の生徒がどのような画題を選んだのかを聞かせ、適切な画題について確認する。 ・ 次時の道具の準備について確認する。

3 「キャリア発達」との関連

(1) キャリア設計能力 設計能力

将来の職業生活への関心を持つ。

(2) キャリア情報探索・活用能力 情報活用

「働く姿」に関係する自己の体験を的確に捉えられる。

(3) 意志決定能力 意志決定

学習課題を理解し、進んで取り組む。

(4) 人間関係形成能力 人間関係

他の生徒の画題を聞き、自分のものと比べ考察する。

2 年 B 組 理 科 学 習 指 導 略 案

日時

場所 理科室

授業者

1 題材名 いろいろな物質（気体） ～二酸化炭素～

2 本時の指導

（１）ねらい

- 身近な材料を使って、二酸化炭素を発生させることができる。
- 二酸化炭素の性質や特徴を理解することができる。

（２）展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1 二酸化炭素について、知っていることを考え、発表する。 設計能力 意志決定	・化学分野だけでなく自然現象や動植物に関する事柄にも目を向けられるように支援する。
3 5	2 本時の学習内容を知る。 二酸化炭素について調べよう。	
	3 二酸化炭素を発生させる。（その１） 試験管に重曹とお酢を入れ、ガスを発生させる。 ・線香の火を入れて、観察する。	・量を間違えないように、スプーンやスポイトを使って入れていくよう支援する。 線香の火だけでなく、発生した気体の色なども観察できるように支援する。
	4 二酸化炭素を発生させる。（その２） 試験管に卵の殻と酸性洗剤を入れ、ガスを発生させる。 ・線香の火を入れて、観察する。	・酸性洗剤の取り扱いは教師が行う。 卵の殻がどうなったかも観察できるように支援する。
	5 炭酸ガスを発生させる。 水に発砲入浴剤を入れて、ガスを発生させる。 ・線香の火を入れて、観察する。 ・石灰水に通して、観察する。 ・水を入れて、観察する。	・観察の前に予想を立てさせておくようにする。 ・どうしてそのような結果になったのか、具体例を取り入れながら質問し、自ら結果が考察できるように支援する。
	6 観察結果をプリントにまとめ、二酸化炭素の特徴を発表する。 情報活用 人間関係	・発表しやすいように、あらかじめ項目をプリントで準備しておく。
5	7 「おまけ実験」の観察。 ・卵の殻をお酢で溶かしたら、卵はどうなるか、観察する。 意志決定	・予想を立てさせ、結果の感想も言えるように支援する。
	8 本時のまとめをする。	・二酸化炭素の性質や特徴について、理解できたかを確認する。

3 「キャリア発達」との関連

（１）キャリア設計能力 設計能力

日常生活でよく聞くことのある気体（二酸化炭素）の性質や特徴に関心をもつ。

（２）キャリア情報探索・活用能力 情報活用

二酸化炭素の実験結果をもとに、炭酸ガスの正体を考える。

（３）意志決定能力 意志決定

観察前に予想を考え、進んで実験に取り組む。

（４）人間関係形成能力 人間関係

友だちの予想や意見を聞き、自分の考えと比較する。

2 年 C 組 「 S T 学習 」 学習指導略案

日時

場所

2 年 C 組教室

授業者

1 題材名 活動を振り返り、今後の活動を考えよう。

2 本時の指導

(1) ねらい

- 課題解決に向けてのこれまでの活動を振り返り、今後の活動の課題や計画を明確にする。
- 友だちの課題について関心をもち、共に考えることができるようにする。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1 前時の学習を振り返る。	・前時で使用したプリントを利用して、自分の活動について、それぞれが振り返りを行ったことを確認する。
3 5	2 本時の学習内容を知る。	
	S さんの学習課題 「いろいろな場所に行けるようになりたい。」について振り返り、今後の活動を考えよう。	
	3 S さんのこれまでの活動を確認する。 [設計能力] [情報活用] [意志決定]	・前時にこれまでの活動を記入しておくことで、実際に行ったことを明らかにしておくようにする。
	4 S さんのこれまでの活動や課題について質問をあげる。 [情報活用] [人間関係]	・小さな疑問もすべて取り上げ、全員が一緒に考える雰囲気を作るようにする。
	5 S さんが、友だちからあげられた質問に答える。	・質問は簡潔な文章にして板書し、全部の質問があがった後で S さんが回答するようにし、S さんが十分に考える時間を持てるようにする。
5	6 学習課題に変更はないかを確認する。 [設計能力] [意志決定]	・これまでの活動で達成できた点や新たな課題をまとめ、現在の学習課題と照らし合わせるようにできるようにする。
	7 学習課題達成のためにいつ、どんなことをすべきかをみんなで考え、意見を出し合う。 [人間関係]	・「自分だったら」の視点で意見を出せるように声をかけ、全員が自分自身の課題として考えられるように支援する。
5	8 本時のまとめをする。	・新たな課題、それを達成するためのアドバイスを確認する。 ・S さんに今後の参考にすることを確認する。 ・次回 T さんの活動を振り返ることを確認する

3 「キャリア発達」との関連

(1) キャリア設計能力 [設計能力]

計画の見直しや修正等の過程を理解する。

(2) キャリア情報探索・活用能力 [情報活用]

学習課題について幅広く情報を得ようとする。

(3) 意志決定能力 [意志決定]

自分の学習課題を整理して、よりよい活動に向けてお互いに相談できる。

(4) 人間関係形成能力 [人間関係]

相手の立場に立って考えたり発言したりできる。

2 年 D 組 数学科 学習指導

日時

場所 2 D 教室

授業者

1 題材名 いろいろな物の長さを測ろう。 ～たて、横、高さの寸法～

2 本時の指導

(1) ねらい

- 物によって定規やメジャーなど使い分けができる。
- 正しい測定の仕方を理解し、測定することができる。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1 前時の復習をする。 意志決定	・目盛りの見方や単位の読み方、寸法を測るときの注意点について確認する。
3 5	2 本時の学習内容を知る。 いろいろな物のたて・横・高さの寸法を測定しよう。	
	3 ティッシュペーパーの箱のたて・横・高さの測り方を知り、どのように記入していくかを確認する。	・例として、ティッシュペーパーの箱のたて・横・高さを教師が定規で測り、どのように記入していけばよいかを確認できるように支援する。
	4 ブランターなどの小さな物については一人で、教卓など大きな物については二人一組になって測定していく。 情報活用	・測定の方法について分からない生徒については、一緒に測定し、具体的に測定の方法を示す。
	5 忘れないように、測定した後、その都度記録していく。	・早く終わった生徒には、さらに課題を提示する。
5	6 測定が終わった人から、黒板の表に記入していき、数値の確認をする。 人間関係	・ランダムに指名し、黒板の表に記入させていく。 ・測定値には多少の誤差も生じるので、ピッタリ数値があわなくても良いことを知らせる。
	8 本時のまとめをする。 設計能力	・正しく測定できたかどうかを確認する。

3 「キャリア発達」との関連

(1) キャリア設計能力 設計能力

生活の中での必要性を知り、関心を持つ。

(2) キャリア情報探索・活用能力 情報活用

定規やメジャーを使って、物の長さを測る。

(3) 意志決定能力 意志決定

学習課題を理解し、進んで取り組む。

(4) 人間関係形成能力 人間関係

友だちの測定値を知り、自分の結果と比較する。

2年E組 LHR 学習指導案

日 時

場 所 2年E組教室

授業者

1. 題材名 「協力してやりとげよう！」～ソーシャルスキルを身につけよう～

2. 本時の指導

(1) ねらい

- 相手と意見を合わせる。
- 相手と動きをあわせる。
- 人と協力して目的を達成する。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
10	1. あいさつをする 2. ウォームアップ「ペアさがし」をする。 ・半分になった絵のペアをさがす。 ・同じ動物のカードを鳴き声やジェスチャーで探す。	・恥ずかしがらずに自分をアピールできるように教師がアピールの仕方や動物の鳴き真似を実際にやってみる。
30	3. 今日のテーマを知る。 協力してやりとげよう 4. なんで協力することが大事なのか考え、発表する。 設計能力 5. ゲーム「となりのステッキ」を行う ・モデリングを見る ・3人組になり練習をする ・一組ずつ発表する 情報活用 ・5人ずつのグループへ 意志決定 ・全員で行う 人間関係 6. 協力ジェンガを行う。 ・ルールを確認する ・モデリング ・2人一組になりゲームを行う 意志決定 情報活用 人間関係	・社会の中で生きてゆくには協力することが必要不可欠なことだと言うことがわかるようにまとめていく。 ・モデリングで悪い例を行い注意する点を黒板にまとめる。 ▲かけ声をかける ▲動きをあわせる ・苦手な生徒の前後に指導者が入る。 ・悪いモデリングをして、注意点をまとめる。 ▲意見を言う ▲意見を聞く ▲折り合いをつける
5	7. 今日の振り返り→ワークシートにまとめる。 10. あいさつをする。	・何人かに発表してもらい、協力するときに必要な確認事項を確認する。

3. 「キャリア発達」との関連

(1) キャリア設計能力 設計能力

仲間と協力する大切さを知る。

(2) キャリア情報探索・活用能力 情報活用

他人の意見を受け入れて今後の生活に生かすことができる。

(3) 意志決定能力 意志決定

仲間と話し合い、どこで折り合いをつけるか判断できるようにする。

(4) 人間関係能力 人間関係

互いにコミュニケーションを取りながら話し合うことができる。

第3学年音楽科学習指導略案

日時

場所 音楽室，視聴覚室

授業者 T1：松村，T2：河野，T3：久保田

1 題材名 「混声合唱の豊かな響きを味わおう」

2 本時の指導

(1) ねらい

- 自分のパートの音を捉え，音程や発声に注意して歌うことができる。
- それぞれのパートの音を聴き合いながら，混声合唱の響きを味わうことができる。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
7	1 挨拶，出席確認 2 前時の学習を振り返る。	・美しい響きの元気な挨拶で音楽する雰囲気を作る。仲間への意識を高める。 ・既習曲を合唱する。
30	3 本時の学習内容を知る。 自分のパートの音を覚え，美しい合唱の響きを作ろう。 4 「手のひらをかざして」を鑑賞し，曲の雰囲気を感じる。 5 パート練習で自分のパートの音を捉える。 ・曲の山の部分から練習する。 ・フレーズや旋律のまとまりで繰り返し歌う。 設計能力 6 曲想表現の工夫を考えながら音取りをする。 7 合唱練習をする。 情報活用 意志決定 人間関係 ・補助音付きで歌う。 ・伴奏と部分補助で歌う。 ・旋律のまとまりごとに確認しながら練習する。	・これから練習する曲への期待感を高められるよう鑑賞のポイントを示す。 ・感じたことを率直に発表できるよう支援する。 ・生徒が主体的に練習に取り組めるよう配慮しながら進める。 ・パートごとに分かれ，ピアノやオルガンの音でそれぞれのパートの音を繰り返し確認する。 ・言葉のイントネーションや意味，音の動きや雰囲気を感じ取り，曲にふさわしい表現の工夫を考えられるよう支援する。 ・それぞれのパートの音をオルガンで補助しながら合唱の響きを作る。 ・伴奏により，初めに掴んだ曲の雰囲気を感じられるようにする。 ・部分練習で合唱の豊かな響きを引き出し，感受できるように支援する。
8	8 本時のまとめをする。 9 次時の確認と終わりの挨拶	・合唱の美しい響きを作り出すためにはどんなことに注意したらよいか確認する。 ・本時の課題を次時に解決する。

3 「キャリア発達」との関連

(1) キャリア設計能力

設計能力

練習の見通しを持ち，準備や片づけができる。
パートの中で自分の声を生かすことができる。

(2) キャリア情報探索・活用能力

情報活用

自分のパートの音を聴き取ることができる。
パートや合唱練習での成果や課題に気付くことができる。

(3) 意志決定能力

意志決定

聴いたり歌ったりして感じたことを言葉や音で表現できる。
課題を掴み練習に取り組むことができる。

(4) 人間関係形成能力

人間関係

楽器の音や仲間の声に合わせて歌うことができる。
合唱の響きを味わうことができ，その活動を楽しむことができる。

あ と が き

教頭 木場秀吉

平成18年度の研究紀要がまとまりましたのでお届けいたします。

今年度の研究は、昨年度に引き続きキャリア発達の視点から学習指導のあり方について検討を進め、指導計画・実践の見直しを図りました。特に、職業観・勤労観の形成に関連する4つの能力「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意志決定能力」を身につけることをねらいに専門教科、普通教科のあり方について研究を進めました。教科部会では、それぞれの指導・支援内容が「キャリア発達」とどのような関連があるのかを明確にする作業を進め、「キャリア発達能力との関連付け表」を作成しました。そして、この表に基づいた授業実践について、事例生徒をあげ学年部会で再三にわたって検討を行いました。

成果としまして、各教科の指導や実態把握に「キャリア発達」の視点を入れた授業ができたことで、「生徒を見る目」「授業を見る目」が変わり、「キャリア発達」の視点が整理できたことで、授業に活かす工夫ができるようになりました。

「キャリア発達」の視点を踏まえた本校の実践は、これからの職業教育についてのひとつの提案になると思います。これまでの成果を次年度につなげて研究を進めていきたいと思います。

最後に紀要をまとめるにあたり、多くの講師の先生方から御指導をいただきました。今後とも職員一同全力で実践研究に取り組んでいきたいと思います。御高覧の上、忌憚のない御意見をお寄せいただければ幸いです。

研究同人

校長	比留間信夫	教頭	木場 秀吉	事務長	梶 祐治
教務主任	砂川 博延	教務副主任	正岡 嗣啓		
細井眞弓	奥津篤子	斎藤雅文	松村雅彦	遠藤文男	海老原玲子
福田弘俊	谷井美智子	手塚幸子	住吉康司	寶澤豊嗣	永松武志
日暮富男	平野明美	齋藤典行	菅原雅子	村山 保	児島昌子
平 和広	平賀博巳	野尻 浩	伊勢清一	成島共子	鈴木英樹
細川美奈子	嶋田克巳	椎橋克夫	松見和樹	出井めぐみ	大橋真子
高橋 鉄	西 佳枝	河野聖子	古木敬子	大久保敦史	河野行雄
安田敦子	久保田智子	須田浩美	平井優美	安西史幹	佐瀬雄二
岡野美穂	熊倉啓祐	鈴木智美	吉田篤史	倉持優美子	篠田幸子
堤原左知子	海野加世子	松本巖			

平成18年度	研究紀要	第10号	実践のあゆみ
編集・発行	千葉県立養護学校流山高等学園	〒270-0135	千葉県流山市野々下2-496-1
	TEL 04-7148-0200		FAX 04-7148-0066
発行日	平成19年3月22日		
印刷	飯島印刷サービス		